山口県埋蔵文化財センター調査報告　第83集

延行条里遺跡

（秋根上町１地区・２Ａ地区）

２０１３

公益財団法人 山口県ひとづくり財団

山口県埋蔵文化財センター

山口県埋蔵文化財センター調査報告　第83集

延行条里遺跡

（秋根上町１地区・２Ａ地区）

２０１３

公益財団法人　山口県ひとづくり財団

山口県埋蔵文化財センター

序

本書は下関市秋根上町に所在する延行条里遺跡（秋根上町１地区・２A 地区）の発掘調査成果をまとめたものです。調査は都市計画街路長府綾羅木線地方特定道路整備事業に先立ち、山口県下関土木建築事務所から委託を受けて公益財団法人山口県ひとづくり財団が実施しました。

発掘調査の結果、中世前期（鎌倉時代～室町時代前期）を中心とする集落跡、古墳時代前期の竪穴建物跡や土坑が見つかり、当時使われた土器・石製品などの遺物が出土するなど、この地域の歴史を解明していく上で貴重な資料を得ることができました。

本書が、文化財保護に対する理解をより深める資料として、また教育活動や学術研究、郷土の歴史を学ぶ資料として広く活用されることを期待いたします。

最後に、発掘調査の実施並びに報告書作成に当たってご協力いただいた関係各位に対し、厚くお礼申し上げます。

平成25年３月

公益財団法人　山口県ひとづくり財団

理事長　松永貞昭

例　言

1　本書は、平成24年度に実施した延行条里遺跡（秋根上町１地区・２Ａ地区）（山口県下関市秋根上町地内）の発掘調査報告書である。

2　調査は、公益財団法人山口県ひとづくり財団が山口県下関土木建築事務所の委託を受けて実施した。

（契約名：都市計画街路長府綾羅木線地方特定道路整備事業に伴う調査業務委託第１工区）

3　調査組織は、次のとおりである。

調査主体　公益財団法人山口県ひとづくり財団　山口県埋蔵文化財センター

調査担当　文化財専門員　上山佳彦

文化財専門員　米澤昭信

調査員　岩崎麻衣子

4　調査にあたっては、山口県教育委員会、下関市教育委員会、山口県下関土木建築事務所ならびに地元関係各位から協力・援助を得た。

5　本書の第１図は、国土地理院発行の２万５千分の１地形図（「下関」・「安岡」）を複製・縮小使用した。第３図は、山口県下関土木建築事務所提供の500分の１地形図を複製使用（一部修正）した。

6　本書で使用した方位は、国土座標（世界測地系）の北で示している。また、標高は海抜高度（m）である。

7　本書で使用した土色の色調の表記は、農林水産省農林水産技術会議事務局（監修）『新版標準土色帖』Munsell方式による。

8　本書で使用した遺構略号は、次のとおりである。

SB：掘立柱建物跡　SD：溝状遺構　SI：竪穴建物跡　SK：土坑

SP：柱穴　SX：その他遺構

9　掘立柱建物跡実測図の薄い網かけは、柱痕跡を表わす。

10　出土遺物実測図中の土器の断面は、白抜きが土師器・陶器等、黒塗りが須恵器（古代まで）、薄い網かけが磁器を表す。

11　図版中の遺構・遺物番号は、実測図の遺構・遺物番号と対応する。

12　報告書作成において、中国産輸入磁器については、上田秀夫氏（山口県立萩美術館・浦上記念館館長）・徳留大輔氏（同学芸員）、瓦器系統の土器については、橋本久和氏（同志社大学文学部嘱託講師）にご教示いただいた。

13　本書の作成・執筆は、上山・米澤・岩崎が共同で行い、編集は上山が行った。なお、本文の執筆分担は、次のとおりである。

Ⅰ　岩崎　Ⅱ　米澤　Ⅲ－１　上山　Ⅲ－２～６　米澤・岩崎

Ⅳ　上山　Ⅴ　業者委託（自然科学分析）　Ⅵ　上山

本文目次

Ⅰ　遺跡の位置と環境…… 1
1　地理的環境…… 1
2　歴史的環境…… 1
Ⅱ　調査の経緯と概要…… 4
1　調査に至る経緯…… 4
2　調査の経過と概要…… 4
Ⅲ　遺構…… 7
1　調査区の概要…… 7
（1）遺構の立地状況 …… 7
（2）基本層序 …… 7
（3）遺構の内容・時期・分布 …… 11
2　竪穴建物跡…… 17
3　掘立柱建物跡…… 17
4　溝状遺構…… 28
5　土坑…… 31
6　柱穴…… 33
Ⅳ　遺物…… 45
1　土器・陶磁器…… 45
（1）竪穴建物跡出土遺物 …… 45
（2）掘立柱建物跡出土遺物 …… 45
（3）溝状遺構出土遺物 …… 47
（4）土坑出土遺物 …… 49
（5）柱穴出土遺物 …… 49
（6）遺物包含層出土・表面採集遺物 …… 53
2　石器・石製品…… 54
3　鉄製品…… 54
Ⅴ　自然科学分析（放射性炭素年代測定）…… 61
1　はじめに…… 61
2　試料…… 61
3　分析方法…… 61
4　結果…… 62
5　考察…… 62
Ⅵ　総括…… 65
1　調査成果の概要…… 65
2　遺構について…… 65
（1）遺構の残存状況と地形的特徴 …… 65
（2）古墳時代前期の竪穴建物跡・土杭 …… 66
（3）掘立柱建物跡 …… 66
3　遺物について…… 69
（1）出土遺物の概要 …… 69
（2）遺物の時期別分類 …… 69
（3）土師器鍋 …… 71
（4）溝状遺構出土の一括遺物 …… 71
（5）地域間の交易品 …… 71
4　まとめ…… 72

図 版 目 次

巻頭図版　遺跡全景（南東から）
図版１　調査区遠景（東から）
図版２　１　１地区全景（１Ａ・１Ｂ・１Ｃ・１Ｄ地区）（合成写真　一部修正あり）
　　２　１地区全景（１Ａ・１Ｂ・１Ｃ地区）
図版３　１　１Ａ地区全景
　　２　１Ｂ地区全景
図版４　１　１Ｃ地区全景
　　２　１Ｄ地区全景
図版５　１　２Ａ地区全景
　　２　２Ａ地区南東部（溝状遺構SD2101・SD2102周辺）
図版６　１　１Ａ地区遺構検出状況（西から）
　　２　１Ａ地区西側土層断面状況（東から）
　　３　１Ｂ地区完掘状況（東から）
　　４　１Ｃ地区完掘状況（東から）
　　５　１Ｄ地区完掘状況（北西から）
　　６　１Ｄ地区北側土層断面状況（南から）
　　７　２Ａ地区完掘状況（東から）
　　８　２Ａ地区西トレンチ平面・土層断面状況（南から）
図版７　１　２Ａ地区竪穴建物跡（SI2101）完掘状況（北から）
　　２　２Ａ地区SI2101完掘状況（南から）
　　３　２Ａ地区SI2101遺物出土状況（東から）
　　４　２Ａ地区SI2101遺物出土状況（西から）
　　５　２Ａ地区SI2101遺物出土状況（南東から）
図版８　１　１Ａ地区掘立柱建物跡（SB1101）（西から）
　　２　１Ｂ地区掘立柱建物跡群
　　３　１Ｂ地区掘立柱建物跡（SB1204・SB1209）（東から）
　　４　１Ｃ地区掘立柱建物跡群
　　５　２Ａ地区掘立柱建物跡群
図版９　１　１Ｂ地区掘立柱建物跡SB1201（SP12003）遺物出土状況（東から）
　　２　１Ｂ地区SB1206（SP12098）遺物出土状況（南から）
　　３　１Ｂ地区SB1204（SP12084）土層断面状況（南から）
　　４　１Ｂ地区SB1204（SP12084）石出土状況（南から）
　　５　１Ｃ地区SB1302（SP13019）石出土状況（南から）
　　６　２Ａ地区SB2102（SP21021）遺物・石出土状況（北から）
　　７　２Ａ地区SB2103（SP21058）遺物出土状況（北から）
　　８　２Ａ地区SB2104（SP21033）遺物出土状況（北から）
図版10　１　２Ａ地区溝状遺構（SD2101・SD2102）（北から）
　　２　２Ａ地区SD2101③区土器H出土状況（北から）
　　３　２Ａ地区SD2101④区土器I出土状況（南から）
　　４　２Ａ地区SD2101⑤区土器J出土状況（南から）
　　５　２Ａ地区SD2101⑤区土器K出土状況（北から）
　　６　２Ａ地区SD2101⑥区土器L出土状況（東から）
　　７　２Ａ地区SD2101⑦区土器M出土状況（東から）
　　８　２Ａ地区SD2102（４）区土器N出土状況（南から）
図版11　１　１Ａ地区土坑（SK1101）遺物出土状況（北西から）
　　２　１Ａ地区SK1101遺物出土状況（南西から）
　　３　１Ａ地区SK1101遺物出土状況（北西から）
　　４　１Ａ地区SK1101土層断面状況（北から）
　　５　２Ａ地区土坑（SK2105）石出土状況（西から）
図版12　１　１Ｃ地区柱穴SP13022石出土状況（南から）
　　２　１Ｃ地区SP13031石出土状況（南から）
　　３　２Ａ地区SP21013遺物出土状況（北から）
　　４　２Ａ地区SP21037遺物・石出土状況（北から）
　　５　２Ａ地区SP21039石出土状況（南から）
　　６　２Ａ地区SP21079遺物・石出土状況（北から）
　　７　２Ａ地区SP21082遺物出土状況（南から）
　　８　２Ａ地区SP21237遺物出土状況（南から）
図版13　出土遺物①（竪穴建物跡出土）
図版14　出土遺物②（掘立柱建物跡出土）
図版15　出土遺物③（掘立柱建物跡・溝状遺構出土）
図版16　出土遺物④（溝状遺構出土）
図版17　出土遺物⑤（溝状遺構・土坑出土）
図版18　出土遺物⑥（土坑出土）
図版19　出土遺物⑦（柱穴出土）
図版20　出土遺物⑧（柱穴出土）
図版21　出土遺物⑨（柱穴出土）
図版22　出土遺物⑩（遺物包含層出土・表面採集、石器・石製品、鉄製品）

挿 図 目 次

第１図　遺跡の位置と周辺の遺跡
第２図　調査区設定図
第３図　遺構配置全体図
第４図　調査区土層図（１Ａ・１Ｂ地区）
第５図　調査区土層図（１Ｃ・１Ｄ・２Ａ地区）
第６図　遺構配置図（１Ａ地区）
第７図　遺構配置図（１Ｂ・１Ｃ・１Ｄ地区）
第８図　遺構配置図（２Ａ地区）
第９図　竪穴建物跡実測図
第10図　掘立柱建物跡実測図①
第11図　掘立柱建物跡実測図②
第12図　掘立柱建物跡実測図③
第13図　掘立柱建物跡実測図④
第14図　掘立柱建物跡実測図⑤
第15図　掘立柱建物跡構成柱穴実測図①
第16図　掘立柱建物跡構成柱穴実測図②
第17図　溝状遺構実測図①
第18図　溝状遺構実測図②
第19図　土坑実測図①
第20図　土坑実測図②
第21図　柱穴実測図①
第22図　柱穴実測図②
第23図　竪穴建物跡出土遺物実測図
第24図　掘立柱建物跡出土遺物実測図
第25図　溝状遺構出土遺物実測図
第26図　土坑出土遺物実測図
第27図　柱穴出土遺物実測図①
第28図　柱穴出土遺物実測図②
第29図　遺物包含層出土・表面採集遺物実測図
第30図　石器・石製品実測図
第31図　鉄製品実測図
第32図　掘立柱建物跡の棟方向分布図
第33図　周辺調査地区含む遺構配置図（２Ａ地区周辺）
第34図　出土土器・陶磁器分類・編年図

表 目 次

第１表　掘立柱建物跡一覧表
第２表　土坑一覧表
第３表　柱穴一覧表
第４表　遺物観察一覧表
第５表　柱穴の地区別平均深度一覧表

Ⅰ　遺跡の位置と環境

1　地理的環境

延行条里遺跡（秋根上町１地区・２Ａ地区）は、山口県下関市秋根上町地内に所在する。下関市は西を響灘、東を瀬戸内海に臨み、南は関門海峡を隔てて北九州市と対峙する。全体としての延行条里遺跡は市の南部に位置し、綾羅木・延行・有冨・伊倉・秋根の５地区にまたがる市内最大域の遺跡である。北の四王司山をはじめとする標高300ｍ以上の高山と、南方の霊鷲山（標高約300m）や火の見山（標高約140m）に挟まれ、西は平野が開けた標高約２～６ｍの沖積低地を遺跡の中心としている（第１図枠内）。平野の中央には、この地域の歴史形成の中枢を担ってきた綾羅木川が流れ、秋根の洪積台地の西端で支流の砂子多川と合流する。

この二河川に挟まれるように、支流分岐点の北東部には青山（標高約300m）がそびえ立ち、その山麓からは、標高約20ｍの通称‘あげのやま’丘陵が広がる。今回の発掘調査地は、この丘陵が南西に向かって緩やかに傾斜する標高11～14ｍの低い段丘上に立地する。地質的には花崗岩地帯に属し、主に丘陵からの礫岩や砂礫の複合物で成り立っている。地域一帯は砂子多川の氾濫原と見られているが、一段高い調査区は川からの被害は免れたようである。

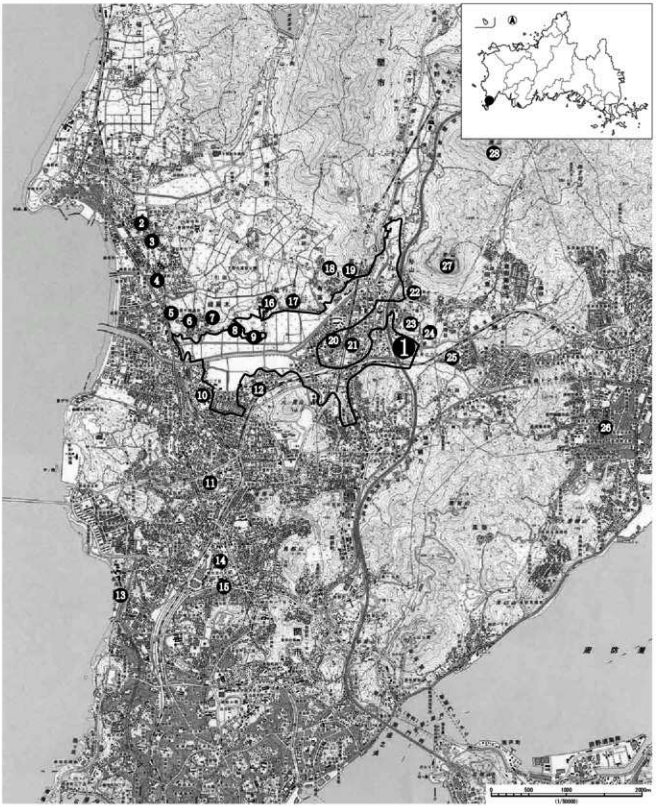
2　歴史的環境

延行条里遺跡は、大字有冨の「六ノ坪」や大字伊倉の「市ノ坪」などの地名に若干名残を残すのみであるが、条里制に関わる遺跡として周知され、下関市教育委員会による調査で条里遺構の一部が確認されている。今回の調査地は、この「延行条里遺跡」の範囲に含まれており、その東端部（秋根地区）にあたる地域である（１）。

調査区周辺は市内でも特に遺跡密度の濃い地域だが、旧石器時代については、綾羅木郷台地遺跡（６）の斜軸尖頭器や斧型石器など、遺物がわずかに散見されるのみである。

縄文時代には、海岸沿いの低い砂丘や段丘面に遺跡が見られる。梶栗浜遺跡（４）では縄文前期の溝鉢が出土した。後期の潮待貝塚（３）と神田遺跡（２）からは、ともに瀬戸内系の中津式土器や九州系の鐘崎式土器などが確認され、集落間の交流がうかがわれる。縄文晩期には伊倉遺跡（12）などで突帯文系土器が出土し、人々が低地でも生活し始めたことが確認できる。

弥生時代になると水田耕作の始まりに伴い、調査区周辺の綾羅木川水系と、山の田地区の丘陵部を隔てた武久川水系の二地域で集落分布が顕著になる。特に地域最大の水系である綾羅木川流域では、遺跡数が急激に増加する。弥生前期～中期まで全盛を極めた綾羅木郷台地遺跡では、明確な住居跡は確認されていないが、1000基を超える貯蔵穴や張り巡らされた環濠から、かなり大規模な集落の存在が推測される。弥生中期以降、綾羅木郷台地遺跡の規模が急激に衰え始めると、平野を見降ろす丘陵据に小規模な集落が分散した。例えば、現在、市立勝山中学校用地となっている坂礎遺跡（23）や青山南麓の形山遺跡（22）である。さらに、重複して建てられた隅丸方形の竪穴建物跡など、限られた土地を有効利用していた伊倉遺跡や石原遺跡（19）もあげられる。一方、少し離れた武久川流域の武久川下流域条里遺跡（15）でも、土器溜まりから一括廃棄された生活・祭祀用土器などが確認され、弥生時代末期～古墳時代前期にかけての生活の一端をうかがわせる。弥生時代の埋葬跡は、平野を見



1	**延行条里遺跡**	2	神田遺跡	3	潮待貝塚	4	梶栗浜遺跡	5	若宮古墳
6	綾羅木郷台地遺跡	7	上の山古墳	8	駅遺跡	9	幸地ヶ森遺跡	10	要須遺跡
11	稗田地蔵堂遺跡	12	伊倉遺跡	13	武久浜墳墓群	14	宮山古墳	15	武久川下流域条里遺跡
16	延行郷遺跡	17	仁馬山古墳	18	有冨古墳群	19	石原遺跡	20	秋根古墳群
21	秋根遺跡	22	形山遺跡	23	坂磯遺跡	24	秀波古墳群	25	前勝谷古墳群
26	長門国府跡	27	青山城跡	28	勝山城跡				

第１図　遺跡の位置と周辺の遺跡

下ろす台地上と海岸沿いの低い砂丘面とで見られる。前者は国内初の盖弓帽が出土した稗田地蔵堂遺跡（11）、後者には多数の箱式石棺や土坑墓等から半両銭が出土した武久浜墳墓群（13）で、どちらも中国王朝の漢との繋がりを示す貴重な遺跡である。

古墳時代前期の綾羅木川水系では、刳竹型木棺を有する仁馬山古墳（17）、箱式石棺から鉄剣、鉄刀などの副葬品が出土し、追葬の跡が見られる若宮古墳（5）、六鈴鏡、鈴付剣などを副葬品に持つ上の山古墳（7）など、平野を見下ろす洪積台地上に前方後円墳が築かれた。古墳時代後期には有冨古墳群（18）、秋根古墳群（20）、前勝谷古墳群（25）、秀波古墳群（24）など円墳が小群をなして台地上や平野に点在した。また武久川水系でも、前方後円墳の宮山古墳（14）が築造された。この時期の集落は、駅遺跡（8）、伊倉遺跡、要須遺跡（10）など台地縁辺部に広がる。駅遺跡では建て替えも含め、18棟の方形竪穴建物跡が密集して発見された。伊倉遺跡では、火の見山北西麓の斜面を整地し、そこに掘立柱建物群を配置したと考えられている。

古代には地域の生活基盤であった低地平野部では、条里制施行に伴い、水田の拡大と区画・灌漑設備の整備が進んだ。平安時代末期には条里地割が完成し、土地は溝で区切られ、平野全域に及ぶ湿田は乾田に移行した。当時、延行条里遺跡の東側の長府地域には、長門国府（26）が置かれた。瀬戸内一帯と大宰府とを結ぶ要所で、大宰府経由の外国使節団の受け入れなど、政治的にも大きな役割を担っていたため、この時期の集落には長門国府や豊浦郡家と関連要素の強い遺跡がしばしば見られる。幸地ヶ森遺跡（9）では、主軸を正方位にとる総柱建物が群をなして建てられ、一般住居とは考え難い規模から、官衙的要素の強い遺跡とみなされている。また秋根遺跡（21）で、四面廂を持つ正殿と二面廂の後殿で構成される大型建物およびその周囲を取り巻く倉庫群が確認された。出土した輸入陶磁器や搬入品の緑釉陶器などから、9世紀代にはすでに流通の要であったと推測でき、幸地ヶ森遺跡同様、長門国府や豊浦郡衙と関係する遺跡と考えられている。なお、秋根遺跡から丘陵を一つ隔てた南側では、住吉神社が長門一の宮として、長門国において祭祀を担うようになった。

中世以降の条里遺構は綾羅木川の度重なる氾濫により、水没と修復を繰り返す。集落については延行郷遺跡（16）や要須遺跡など、主に洪積台地の縁辺部に点在する。秋根遺跡でも建物構造や密度などの変化を伴いながら室町時代までは継続したようであるが、それ以降の集落については、明らかになっていないことが多い。一方、台地を見下ろす山頂には、青山城（27）や勝山城（28）などの中世山城が築かれた。大内氏の事蹟を伝える『長門記』には、大内弘世と対立関係にあった厚東氏の降代や、青山城主と勝山城主の合戦について伝えられている。室町時代後期の弘治2（1556）年、山口から勝山城に逃れてきた大内義長が、毛利元就の攻撃によって滅亡し、この地域での大内氏による支配の時代が幕を閉じた。その後近世には、毛利氏の支配下で長府藩所属となった。幕末を迎えたこの地域は、明治4（1871）年には山口県所属となって現在に至る。

参考文献

下関市市史編修委員会『下関市史　原始～中世』2008年
下関市教育委員会『綾羅木川下流域の地域開発史』1990年
下関市教育委員会『延行条里遺跡』1996,2002,2010,2011年
水島稔夫「延行条里遺跡の調査」（山口県文化財愛護協会『山口県文化財第19号』）1989年
山口県埋蔵文化財センター『武久浜墳墓群』2002年
山口県埋蔵文化財センター『武久川下流域条里遺跡』2004年
勝山史郷土研究会『郷土研究資料第一集』1961年
小田博『下関勝山史』1968年

Ⅱ　調査の経緯と概要

1　調査に至る経緯

都市計画街路長府綾羅木線地方特定道路整備事業に先立って、山口県教育委員会は、平成23年度に埋蔵文化財の有無などを確認するため、事前の試掘調査を行った。その結果、遺構の埋存が確認された道路建設予定地については、関係機関と協議を行い、発掘調査を行うこととなった。

調査は、山口県下関土木建築事務所の委託を受けて、公益財団法人山口県ひとづくり財団山口県埋蔵文化財センターが実施することとなった。なお、発掘調査地域付近には小中学校が所在し、通学路と接しているため、表土除去作業とともに安全柵を設置するなど、安全対策を十分に講じた上で、現場での発掘調査に当たることが事前協議で確認された。

2　調査の経過と概要

平成24年4月9日、発掘調査を開始するにあたって、発掘調査予定地において山口県下関土木建築事務所との間で現地確認を行い、調査日程・方法について事前協議を行った。調査区は、事前の試掘調査の結果、大きく2地区に分かれており、西側を1地区、東側を2地区とした。さらに1地区は、土地区画整理事業に伴って既に生活道路が一部で設置され、調査区が分断されているため、道路で区画された部分に合わせて1A・1B・1C・1Dの4地区に細分した。また、今後の調査地区の延伸も考慮し、2地区も2A地区と呼ぶこととした（第2図）。なお、1D地区については、発掘調査の立ち入りに先立つ事前調整を要するため、秋以降に着手可能となった時点で、発掘調査を実施することで委託者側と今後の作業工程の確認を行った。

連休明けの5月7日には調査事務所となるプレハブを設置し、5月9日、第1期（1A～1C地区）の重機を用いた表土除去作業を開始した。1B・1C地区には調査予定地区中央に排水用のU字溝が設置されており、排水溝を調査区の南側に移設するとともに、安全柵の設置も同時に行い、5月23日に第1期表土除去作業が完了した。

5月17日、現地の秋根上町民館において作業員説明会を行い、5月21日から表土除去作業と併行して1B地区から調査区壁面清掃や遺構検出作業に着手した。遺構検出の完了とともに、国土座標杭（世界測地系）を業者委託により設置した後、デジタル平板を使用した遺構配置図実測作業を開始し、写真撮影と合わせて遺構の記録作成を行った。遺構配置図作成完了後、5月31日、1A地区の土坑・柱穴等の遺構の掘り込みを開始した。

また、本調査では調査区が細分化されているため、トータルステーションを用いた測量を行い、一つの地区の掘り込みが終了次第、グリッド実測を行うとともに、土層断面図や個別遺構についても、すべて標準国土座標に基づく水平値・標高値（X・Y・Z）で実測表記した。

梅雨時期になると、周囲より比較的標高が低い1A

重機による表土除去作業

地区には周辺から水が流れ込み、常に遺構面が水没する状態になったが、早めにグリッド実測を完了していたため、影響が少なくて済んだ。一方、同様に周囲の道路から雨水が流れ込む１Ｃ地区は、水中ポンプにより常に排水を繰り返しても水没状態が続き、調査日程の変更を余儀なくされた。このため、７月下旬、第２期の２Ａ地区表土除去作業が終了した後には、２Ａ地区の調査を優先して行うこととした。

第２期（２Ａ地区）の重機による表土除去作業は７月 18 日から着手し、廃土置き場が２地区の西側に位置することから、搬出の関係上、調査区の東側から進めた。そのため、作業員による調査区壁面清掃および遺構検出作業は、安全面に配慮して、表土除去作業が終わった東側から順次行った。安全柵の設置を含め、７月 25 日に表土除去作業を完了した。２Ａ地区の遺構検出では、溝状遺構、竪穴建物跡と推定される遺構や柱穴など、１地区より比較的多くの遺構が確認された。

第２図　調査区設定図

梅雨の影響により遅延していた１Ｂ地区および１Ｃ地区の遺構掘り込み作業は、２Ａ地区の遺構検出作業および各遺構の掘り込み作業と併行して実施し、１Ｂ地区は８月２日、１Ｃ地区は８月23日に完了した。完掘と同時に各地区のグリッド実測も実施し、８月17日に１Ｂ地区、29日に１Ｃ地区のグリッド実測が完了した。

遺構掘り込み作業

２Ａ地区の掘り込み作業は、天候にも恵まれ順調に進み、８月１日、トータルステーションを使用した遺構配置図作成終了後、東側の溝状遺構部分から本格的な掘り込み作業に入り、中世の中国産輸入磁器である青磁・白磁などの多くの遺物が出土した。

８月５日、現地発掘調査事務所において、山口県下関土木建築事務所の担当者と今後の調査方針について協議を行い、１Ｄ地区については、立ち入り可能となる11月中旬以降に発掘調査を行うこと、それに伴い空中写真撮影は２回に分けて行うことが確認された。

２Ａ地区では、調査区西側で確認された竪穴建物跡から古墳時代前期の遺物、その他の遺構からも中世前期を中心とする一定程度の遺物が出土し、９月26日に掘り込み作業をほぼ終了した。翌日から全発掘調査地区の清掃を行い、９月28日に第１回の空中写真撮影を実施した。翌日の29日には、天候不順が心配されたが、無事に現地説明会を実施し、約70名の見学者があった。

空中写真撮影

10月上旬、２Ａ地区の完掘後、作業員による作業を休止し、調査員によるグリッド実測や個別遺構の実測を行った。現地での発掘作業は10月22日にいったん終了し、10月24日、山口県下関土木建築事務所の担当者立ち合いのもとで、１Ｄ地区を除く発掘調査完了地区の現地引き渡しを行った。

その後は山口県埋蔵文化財センターにおいて、記録した図面の整理や出土遺物の実測作業などを行い、報告書作成の準備を進めていたが、下関土木建築事務所から、１Ｄ地区での発掘調査が可能になったとの連絡があり、現地調査を再開することとなった。

11月22日、第３期（１Ｄ地区）の重機による表土除去作業を行った。次いで、11月27日に作業員による遺構検出・掘り込み作業を実施したが、調査区が狭小で遺構密度も希薄であったため、短期間で発掘作業を終えた。11月30日に第２回の空中写真撮影、調査員による遺構実測作業を経て、該当地区を委託者側に引き渡し、12月３日、現地での作業はすべて終了した。

現地説明会

12月４日からは、本格的に出土遺物の実測作業を開始し、その後、出土遺物の写真撮影、遺構・遺物実測図面の編集・デジタルトレース作業などを行い、この報告書を刊行するに至った。

Ⅲ　遺構

1　調査区の概要

（1）遺構の立地状況（第3図、巻頭図版、図版1）

遺跡は、北側の丘陵から南側に向かって緩やかに伸びる標高約11～15mの微高地に立地し、南側には、東側から西側方向に緩やかに砂子多川が流れる。遺構検出面は、西側の1A地区で標高約11.4m、東側の2A地区では標高約13.1mとなり、地形的には東側から西側に向かっても傾斜している。全体的には北側から南側、東側から西側にともに緩やかに傾斜する平坦面に遺跡は所在する。

遺構が所在する基盤となる地山は、丘陵上位からの浸食堆積土である砂粒をやや多く含む花崗岩風化粘質土で形成される。表土除去や試掘調査の結果からは、1C地区と2A地区の間や2A地区のさらに東側付近は、地山面が次第に落ち込み低地となる谷筋地形を形成していると判断される。北側から南側に張り出す丘陵縁辺部は、小さな丘陵と谷筋が交互に出入りする地形的特徴を有し、遺跡は微高丘陵上に立地しているものと推定される。

遺構の残存状況については、試掘調査の結果を踏まえると、1A地区に隣接する西側は、遺構面と同じ花崗岩風化粘質土・砂質土で形成されるものの、有意な遺構が確認されていないことから、後世（近世以降か）の耕地化などによる人為的削平により、遺構面が消滅したものと推定される。1A地区内においても西側は削平と見られる要因により遺構密度が低くなっている。

1A・1B・1C・1D地区の発掘調査範囲においても柱穴・土坑などの遺構の残存する深さが、浅く、後世の人為的な遺構面削平が行われた状況がうかがわれる。また、調査区内での北側と南側を比較すると、柱穴の深さについて、北側が南側に比べて浅い。こうしたことから、高位の北側から低位の南側に緩やかに張り出す丘陵の北側をより厚く削平して平坦面を造成する後世の土木工事等によって、本来の遺構面が一定程度消滅したと推測される。

2A地区は、1地区に比較して遺構の分布密度が高く、残存する遺構の深度が深い状況が認められ、遺構面に対する後世の人為的削平の度合いは1地区に比べて低いと考えられる。

（2）基本層序（第4～8図、図版6）

調査前の状況として、1A地区は旧水田荒蕪地、1B・1C地区は道路予定地としての盛土保全地、1D地区は盛土による畑作地、2A地区は水田耕作地となっていた。

①1A地区（第4・6図、図版6—1・2）

調査区北側の土層断面（A1－A1'）は、表土（耕作土～黒褐色粘質土4～24cm）→堆積土等（にぶい黄褐色粗砂質土等6～16cm）→地山（黄褐色含砂粒花崗岩風化粘質土）となる。遺構が検出された地山面は砂粒を含む花崗岩風化粘質土で、上位からの浸食土堆積により形成されたと考えられる。

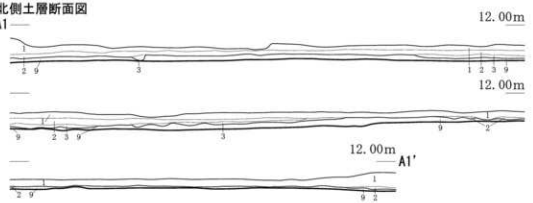
調査区西側の土層断面（A2－A2'）は、表土（耕作土～黒褐色粘質土6～30cm）→盤土（明黄褐色粘質土6～22cm）→盛土・造成土等（褐色粘質土等8～28cm）→地山（黄褐色含砂粒花崗岩風化粘質土）となる。北側から南側に向かって、後世の削平で3段の耕作田に造成されたことがわかる。

②1B地区（第4・7図、図版6—3）

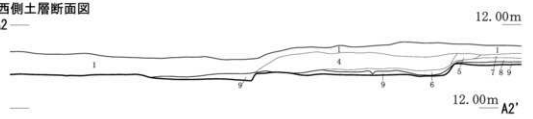
調査区北側の土層断面（B－B'）は、表土（腐植土4～6cm）→道路土手盛土（にぶい黄橙色真

第３図　遺構配置全体図

１Ａ地区北側土層断面図



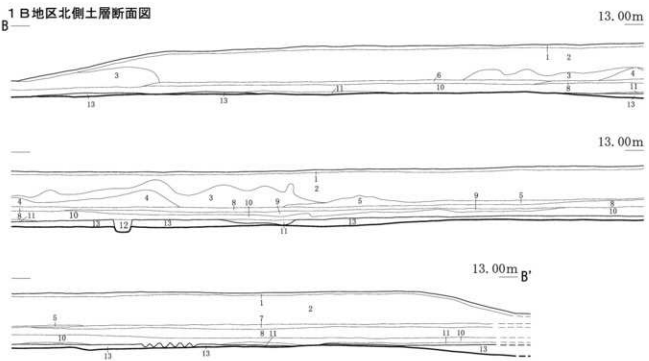
１Ａ地区西側土層断面図



土層凡例

1 黒褐色（10YR 2/2）粘質土（耕作土）
2 にぶい黄褐色（10YR 4/3）粗砂質土
3 暗褐色（10YR 3/3）粘砂質土
4 褐色（10YR 4/6）粘質土
5 オリーブ褐色（2.5Y 4/3）粗砂質土
6 暗灰黄色（2.5Y 4/2）粘質土
7 明黄褐色（10YR 6/8）粘質土（盤土）
8 明黄褐色（10YR 6/8）シルト
9 黄褐色（2.5Y 5/6）含砂粒花崗岩風化粘質土（地山）

１Ｂ地区北側土層断面図

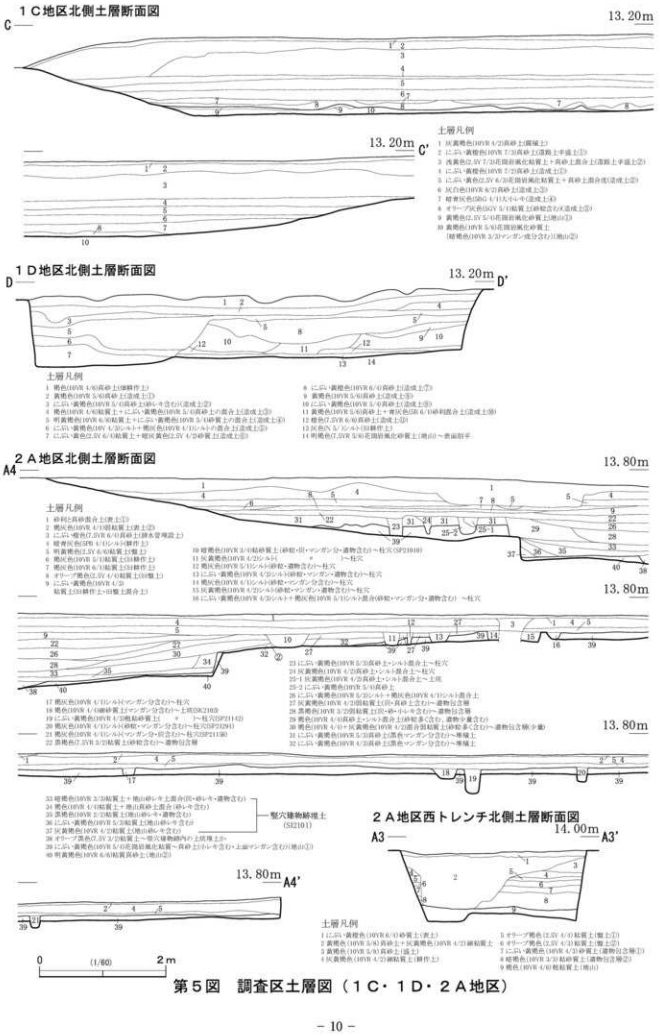


土層凡例

1 灰黄褐色（10YR 4/2）真砂土（植物が生えた腐植土）
2 にぶい黄橙色（10YR 7/3）真砂土（道路土手盛土①）
3 浅黄色（2.5Y 7/3）花崗岩風化粘質土
　＋真砂土（道路土手盛土②）
4 にぶい褐色（7.5YR 5/4）真砂土
　＋花崗岩風化粘質土（道路土手盛土③）
5 暗青灰色（5BG 4/1）砂利（道路土手盛土④）
6 灰白色（10YR 8/2）砂質土（造成土①）
7 浅黄色（2.5Y 7/3）真砂土（造成土②）
8 明黄褐色（10YR 6/6）
　・にぶい黄色（2.5Y 6/3）混合砂質土（造成土②）
9 黒色（10YR 2/1）アスファルト
　＋暗緑灰色（10G 3/1）砂利（造成土④）
10 浅黄橙色（10YR 8/3）真砂土（造成土⑤）
11 青灰色（5B 5/1）粘質土（造成土⑥）
12 黄褐色（10YR 5/6）粘質土混じり風化土（SP12064）
13 明黄褐色（10YR 6/6）花崗岩風化粘質土（地山）

0　(1/60)　2m

第４図　調査区土層図（１Ａ・１Ｂ地区）



第５図　調査区土層図（１Ｃ・１Ｄ・２Ａ地区）

砂土等54～48cm）→造成土（灰白色砂質土等6～16cm）→地山（明黄褐色花崗岩風化粘質土）となる。道路予定地化の際に旧耕作土を除去し、砂利等による造成を行い、真砂土による道路土手盛土が行われており、遺構面は耕地化段階で削平された地表面に相当する。

③1C地区（第5・7図、図版6—4）

調査区北側の土層断面（C－C'）は、1B地区とほぼ同様の基本層序となり、造成・道路用地化工事の状況が確認される。検出された遺構面となる地山は、粘質土上層の削平が1B地区よりも著しく、砂粒を多く含む風化砂質土である。このため、1B地区よりも遺構の残存深度は浅い。

④1D地区（第5・7図、図版6—5・6）

調査区北側の土層断面（D－D'）は、表土（客土の真砂土からなる畑耕作土20～40cm）→造成土（黄褐色真砂土等70～80cm）→地山（明褐色花崗岩風化砂質土）となる。1B・1C地区よりも高位の北側に立地し、地山面は、後世の耕地化での削平が一段と著しく、遺構の残存状況は極めて悪い。

⑤2A地区（第5・8図、図版6—7・8）

北側の土層断面（A4－A4'）は、表土（2～40cm）→耕作土（暗青灰色シルト7～26cm）→盤土（明黄褐色粘質土2～14cm）→旧耕作土（褐灰色粘質土2～8cm）→旧盤土（オリーブ褐色粘質土4～7cm）→遺物包含層（黒褐色粘質土等5～41cm）→堆積土（にぶい黄褐色真砂土等3～20cm）→地山（にぶい黄褐色花崗岩風化粘質～真砂土）となる。

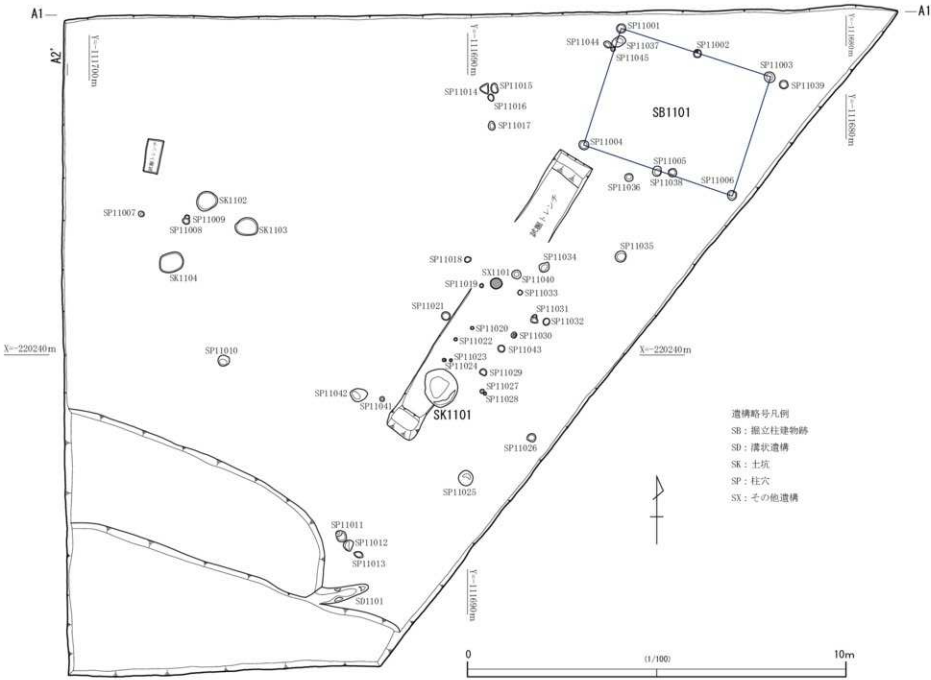
調査区の東側範囲では、地山面で柱穴を主体とする遺構が数多く検出された。1地区よりも遺構の残存深度は深く、遺物の出土数も多く、後世の削平度が低いと見られる。調査区の西側範囲では、竪穴建物跡（SI2101）周辺で、東側から西側に向け地山面が緩やかに傾斜して低くなる。土層断面では、竪穴建物跡の埋土や柱穴・土坑の掘り込み断面（第5図土層凡例10～21、23～25）も観察される。

2A地区の西側端に設置した西トレンチ北側土層断面（A3－A3'）は、表土（にぶい黄橙色砂質土4～8cm）→盛土（黄褐色真砂土16～20cm）→耕作土（灰黄褐色細粘質土8～14cm）→盤土（オリーブ褐色粘質土等12～14cm）→遺物包含層（にぶい黄褐色砂質土等32～40cm）→地山（褐色粗粘質土）となる。西側では撹乱坑が確認された。地山面の標高は12.8mで、東側範囲の地山面標高13.1mより0.3m程度低く、東側から西側にかけて緩やかに落ち込む谷筋を形成する。遺構は検出されず、遺物包含層の堆積が認められる。2A地区の遺構は、ここより東側の微高地に所在している。

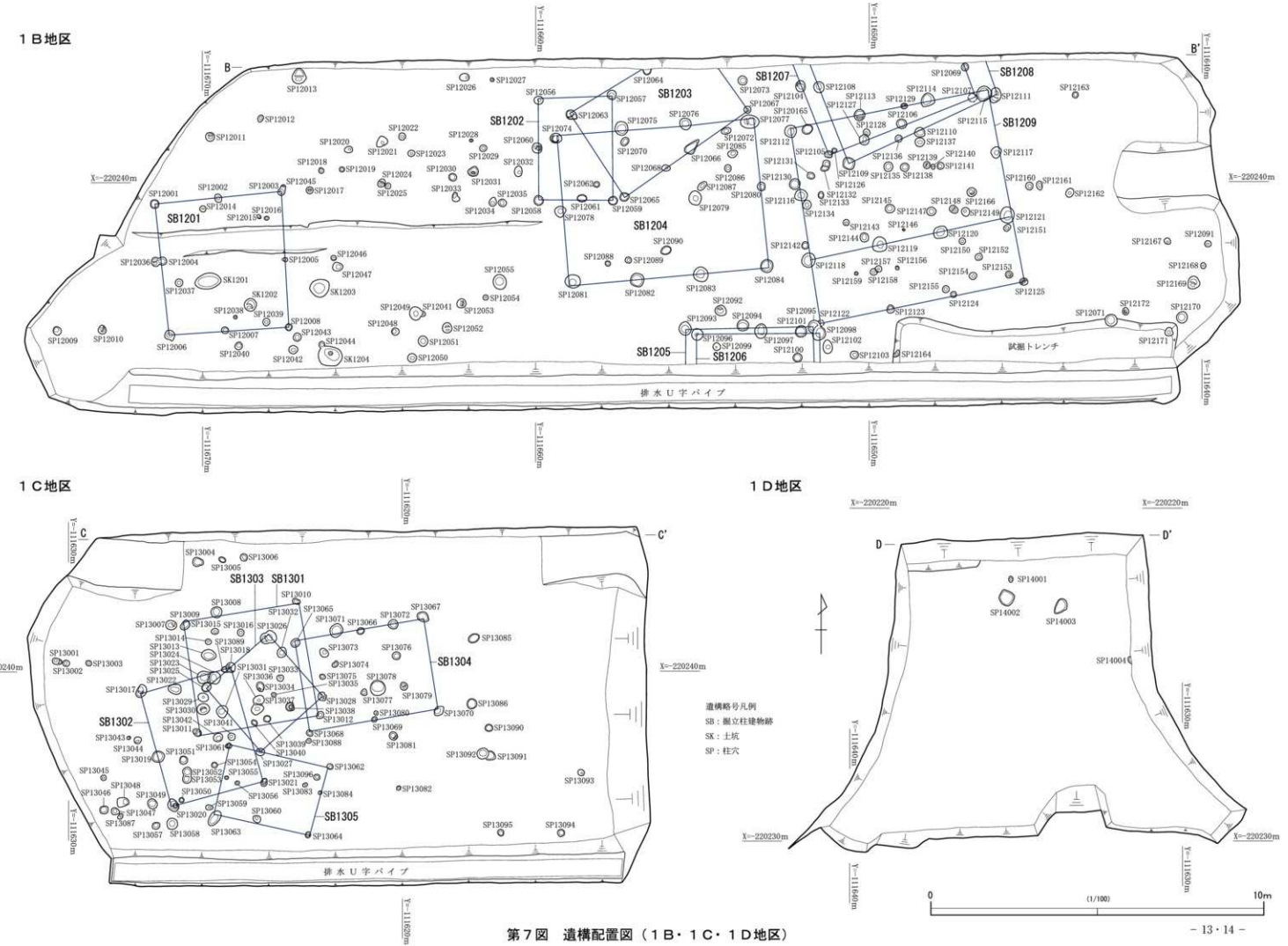
（3）遺構の内容・時期・分布（第6～8図、図版2～12）

発掘調査により検出された主な遺構は、竪穴建物跡1軒、掘立柱建物跡25棟、溝状遺構3条、土坑17基、柱穴613個、その他遺構1基である。出土遺物から判断して、古墳時代前期、古代（奈良時代末期～平安時代）、中世前期（鎌倉時代～室町時代前期）の所産と考えられる。1地区では、古墳時代前期の土坑や古代前期を中心とすると見られる掘立柱建物跡の分布が認められる。棟方向は東西方向が中心を占める。2A地区では、古墳時代前期と推定される竪穴建物跡のほかに、中世前期を主体とする掘立柱建物跡およびそれを取り囲む溝状遺構が確認され、この時期の集落跡の遺構と考えられる。棟方向は、南北方向が主体をなし、東西方向のものも検出された。

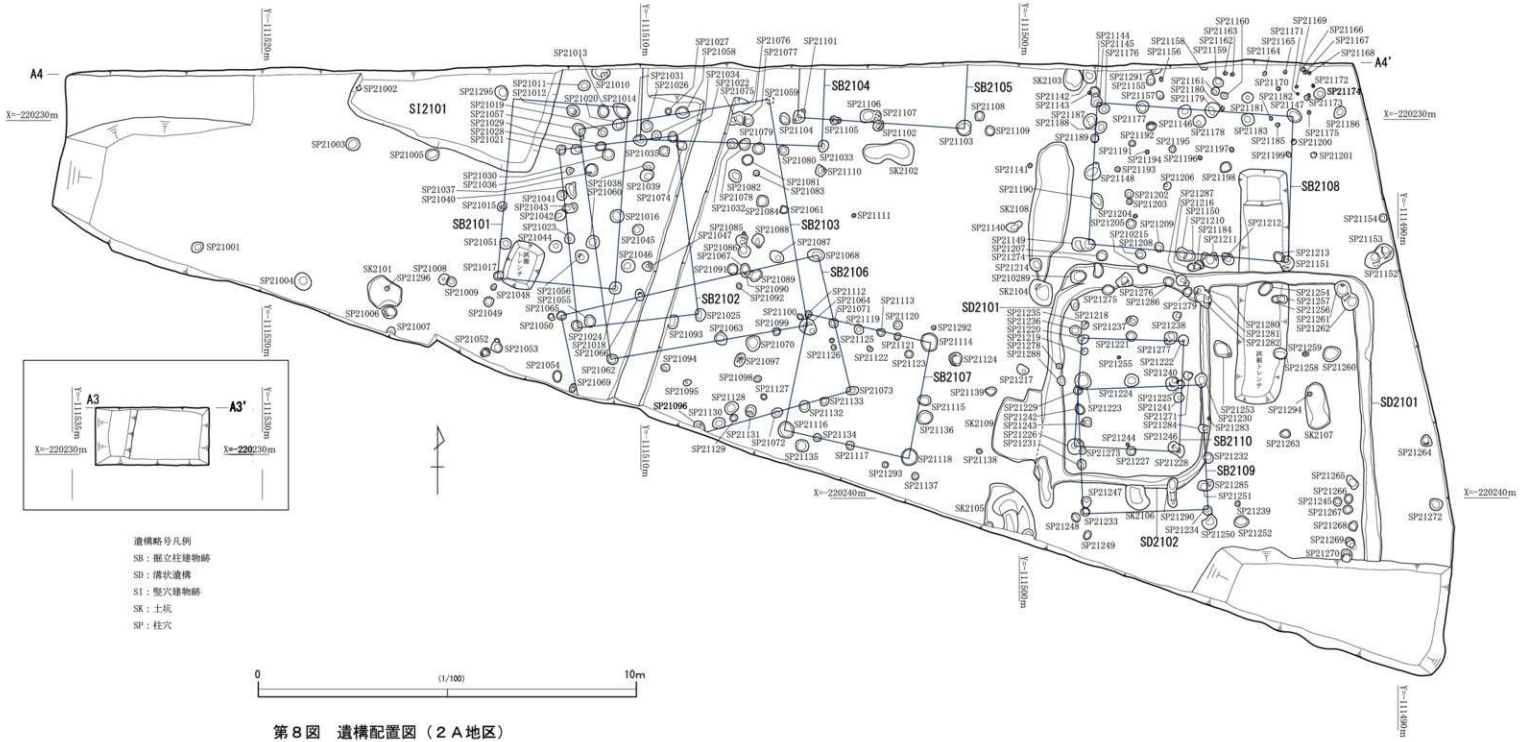
なお、調査地区は、下関市内の遺跡地図で「延行条里遺跡」として取り扱われている分布範囲の東端部に位置するが、「条里制」に直接関連すると見られる遺構は、確認されなかった。



第６図　遺構配置図（１Ａ地区）



第７図　遺構配置図（１Ｂ・１Ｃ・１Ｄ地区）

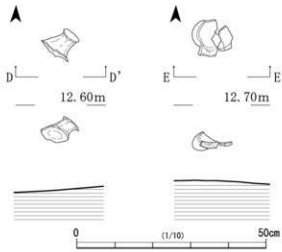


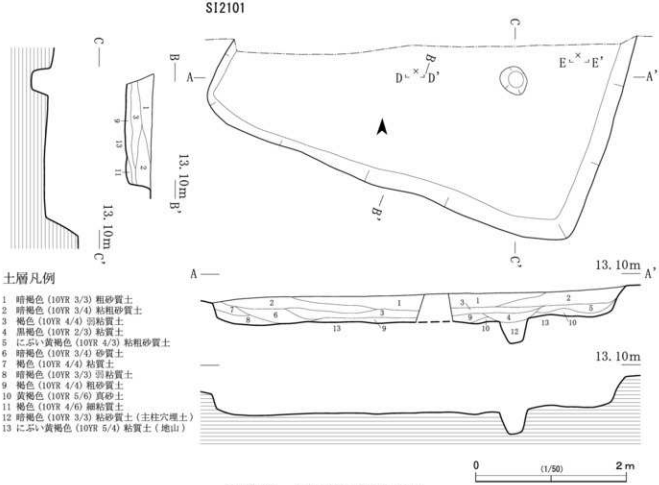
遺構略号凡例
SB：掘立柱建物跡
SD：溝状遺構
SI：竪穴建物跡
SK：土坑
SP：柱穴

第８図　遺構配置図（２Ａ地区）

2　竪穴建物跡（第９図、図版７）

SI2101（第９図、図版７）２Ａ地区の西側に位置する。建物の北側半分以上が調査区外にあり、隅丸方形の竪穴建物跡と推定される。残存部の規模は、長径515cm、短径280cm、深さ53.8cm。主柱穴は１個のみ確認されたが、全体配置は不明。炉跡などは検出されなかった。埋土は、暗褐色粗砂質土（土層凡例１）の上層から褐色細粘質土（同11）の下層および暗褐色粘砂質土（同12）の主柱穴までの12層で構成されている。遺物は、埋土上層から流れ込みと見られる弥生土器甕（1）・壺（2）、土師器製塩土器（7）、下層～床面において土師器鉢（3）・高杯（4）・甕（5）・杯（6）などが出土した。出土遺物や建物の形式などから考えて、この建物の時期は古墳時代前期に比定される。





第９図　竪穴建物跡実測図

3　掘立柱建物跡（第１０～１６図、図版８・９）

多数の柱穴が検出され、その中から掘立柱建物跡が25棟復元できた（第１表）。調査区端にあり、一部しか検出できなかったものも含む。掘立柱建物跡は１Ａ・１Ｂ・１Ｃ・２Ａ地区の計４地区で検

出され、特に１Ｂ地区と２Ａ地区に集中している。復元できた建物の棟方向には規則性が見受けられる。①北西方向タイプ（SB1101・1305・2107・2108 など）、②北方向タイプ（SB1201・1202・1302・2101・2102・2103・2109・2110 など）、③北東方向タイプ（SB1203・1204・1209・1304・2106 など）の３つに大きく分類される。建物の規模は、３間×２間（SB1204、1209、2106）を除き、２間×２間、２間×１間、床面積 10 ～ 15㎡程度の比較的小型プランの建物跡が大半である。構成柱穴に柱痕跡の確認できる建物跡が、全体の約７割にのぼった。柱痕跡は、掘立柱建物跡実測図の柱穴に網かけで表示をした（第１０～１４図）。

SB1101（第１０図、図版８） １Ａ地区唯一の建物跡であり、北東部に位置する。規模は２間（4.1m）×１間（3.2m）、床面積 13.1㎡。棟方向は N72° W。柱間の平均は桁行約 2.1 m、梁行 3.2 m。柱穴の規模は直径 20 ～ 30cm、深さ 5.5 ～ 21cm。後世の削平を受け、一部が極端に浅くなったと考えられる。構成柱穴からは土師器小片が出土したのみで、建物の時期特定は難しい。

SB1201（第１０・１５図、図版８・９） １Ｂ地区の西側に位置し、規模は２間（4.0m）×２間（3.8m）、床面積 15.2㎡。棟方向は N 2° W。柱間の平均は桁行 2.0 m、梁行 1.9 m。柱穴の規模は直径 19 ～ 22cm、深さ 8.5 ～ 20cm。SP12002 から白磁椀（9）、SP12003 から土師器椀（8）が出土した。SB1201 は、構成柱穴の規模が比較的小さく、主柱穴である SP12003 は SP12045 と重複していることから見ても、建て替え等の可能性が考えられる（第１５図、図版９－１）。建物の時期は古代に比定される。

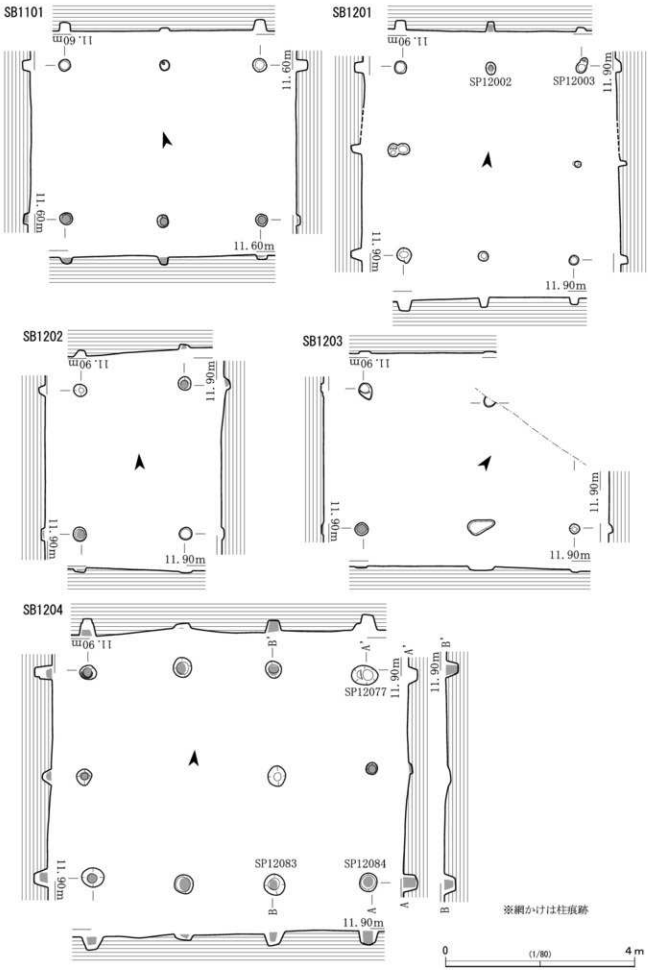
SB1202（第１０図、図版８） １Ｂ地区の中央北側に位置し、SB1203・1204 と重複する。規模は１間（3.0m）×１間（2.2m）で床面積 6.6㎡。棟方向は N 0° W。柱間は桁行 3.0 m、梁行 2.2 m。柱穴の規模は直径 22 ～ 26cm、深さ 3.1 ～ 17cm。出土遺物は土師器小片のみで、建物の時期は不明である。

SB1203（第１０図、図版８） １Ｂ地区の中央北側に位置する。SB1202・SB1204 と重複する。建物の北東隅の柱穴は調査区外と推定される。規模は２間（4.6m）×１間（3.0m）、推定床面積は 13.8㎡。棟方向は N55° E。残存部の柱間の平均は桁行 2.3 m、梁行 3.0 m。柱穴の規模は直径 21 ～ 55cm、深さ 2.5 ～ 8.5cm。後世の削平を受けたと見られる。出土遺物はなく、建物の時期は不明である。

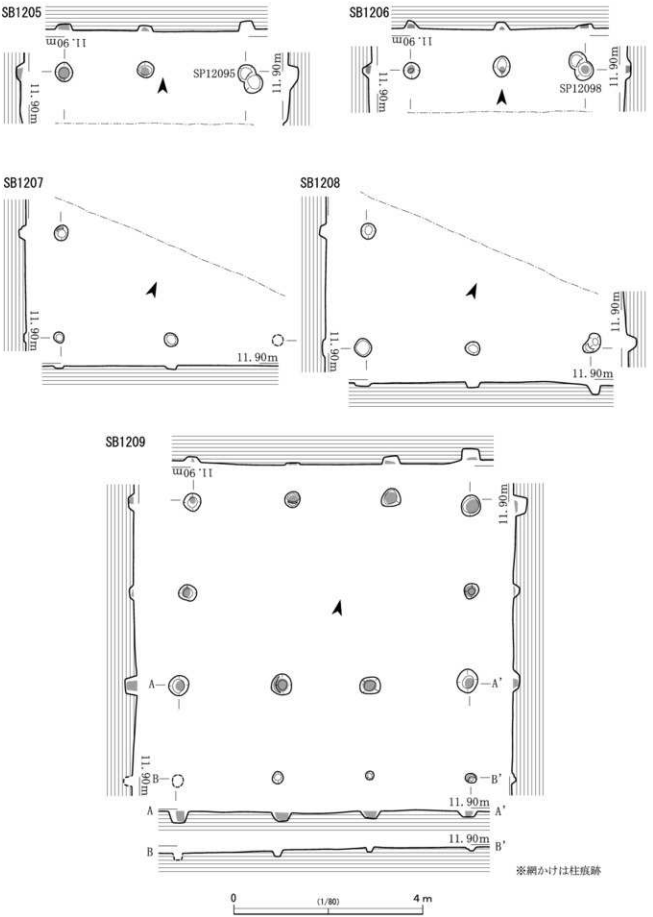
SB1204（第１０・１５図、図版８・９） １Ｂ地区の中央に位置し、SB1202・1203 と重複する。規模は３間（5.9m）×２間（4.4m）、床面積 26.0㎡。棟方向は N85° E。柱間の平均は桁行約 2.0 m、梁行 2.2 m。柱穴の規模は直径 25 ～ 44cm、深さ 6.6 ～ 30cm。SP12077 から土師器椀（10・12）、SP12083 から須恵器杯（11）、SP12084 上層の石下から炭化物が出土した（第１５図、図版９－３・４）。出土遺物の特徴と炭化物（試料２）の放射性炭素年代測定により、建物の時期は古代前期と推定される。

SB1205（第１１図、図版８） １Ｂ地区の中央南端に位置し、SB1206 と重複する。建物南側の大部分が調査区外に埋存するため正確な規模は不明だが、桁行が２間（3.9m）と考えられる。棟方向は N89° E。柱間の平均は桁行約 2.0m。柱穴の規模は直径 30～32cm、深さ 12.5～16cm。SP12095 の流れ込み埋土中から姫島産黒曜石の石器製作用石材（150）が出土したが、建物の時期を比定する遺物は出土していない。

SB1206（第１１・１５図、図版８・９） １Ｂ地区の中央南端に位置し、SB1205 と重複する。大部分が調査区外で正確な規模は不明だが、桁行２間（3.8m）と考えられる。棟方向は SB1205 と同じ N89° E。柱間の平均は桁行 1.9 m。柱穴の規模は直径 30 ～ 39cm、深さ 6 ～ 13cm。SB1205 と棟方向や規模が共通する。SP12098 から須恵器壺（13）・甕（14）が出土した（第１５図、図版９－２）。建物の時期



第１０図　掘立柱建物跡実測図①



第１１図　掘立柱建物跡実測図②

は古代に比定される。

SB1207（第１１図、図版８） １Ｂ地区の北東側に位置し、SB1208・1209と重複する。建物の北半分以上が調査区外のため、正確な規模は不明だが、桁行２間（4.7m）と考えられる。棟方向はN68° E。柱間の平均は桁行約2.4 m、梁行残存部2.2 m。柱穴の規模は直径22 ～ 27cm、深さ５～ 14.3cm。建物南東隅の柱穴は、遺構検出時にはわずかに確認できたが、後世の削平を受けたごく浅い柱穴であったため、掘り込み時点では輪郭が不明瞭となった。出土遺物はなく、建物の時期は不明である。

SB1208（第１１図、図版８） １Ｂ地区の北東側に位置し、SB1207・1209と重複する。建物の半分以上が調査区外となるが、規模は桁行２間（4.9m）と推定される。棟方向はN65° E。柱間の平均は桁行約2.5m、梁行残存部2.5m。柱穴の規模は直径27～ 47cm、深さ４～ 20.2cm。棟方向、規模ともにSB1207と同じで、建て替え等の可能性もある。出土遺物は土師器片のみで、建物の時期は不明である。

SB1209（第１１図、図版８） １地区最大の建物跡で、１Ｂ地区の東側中央に位置する。SB1207・1208と重複する。規模は３間（6.0m）×２間（3.8m）で、南側桁行方向に廂が付設されている。総床面積は調査区最大の34.8㎡、そのうち母屋部分は22.8㎡。棟方向はN79° E。柱間の平均は桁行2.0 m、梁行1.9 m。母屋の柱穴の規模は直径33 ～ 45cm、深さ４～ 35.2cm。廂の柱穴の規模は直径17 ～ 23cm、深さ8.3 ～ 9.9cm。建物南西隅の廂の柱穴は、後世の削平や隣接する柱穴との重複などで輪郭が明瞭には確認されなかった。出土遺物は須恵器小片・土師器片のみであるが、SB1204と並行に隣接しており、古代前期の建物である可能性が考えられる。

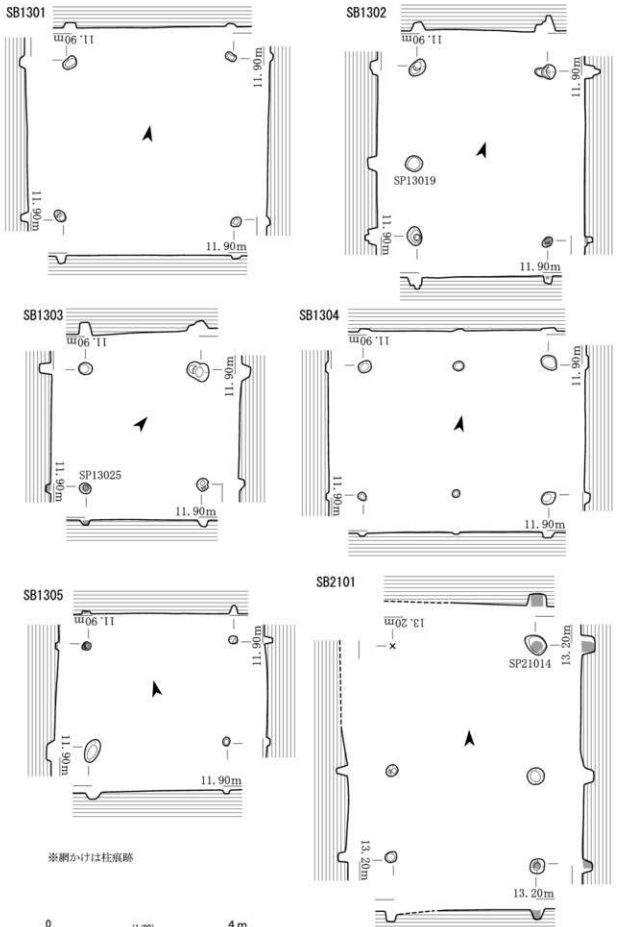
SB1301（第１２図、図版８） １Ｃ地区の西側中央に位置し、SB1302・1303・1304と重複する。規模は１間（3.4m）×１間（3.2m）、床面積10.9㎡。棟方向はN12° W。柱間は桁行3.4 m、梁行3.2 mのほぼ正方形を呈する。柱穴の規模は直径15 ～ 32cm。深さ6.5 ～ 15.6cm。出土遺物はなく、建物の時期は不明である。

SB1302（第１２・１５図、図版８・９） １Ｃ地区の西側中央に位置し、SB1301・1303・1305と重複する。桁行東側の柱穴は１つ検出されなかった。規模は１間（3.5m）×１間（2.8m）、床面積9.8㎡。棟方向はN16° Wで、重複するSB1301と棟方向がほぼ同じである。柱間の平均は桁行約1.8m、梁行2.8m。柱穴の規模は直径18～40cm、深さ16.3～31.9cm。出土遺物は土師器小片とSP13019から２段重ねの石が出土した（第１５図、図版９－５）。建物の廃絶時に投げ込まれた石と見られるが、建物の時期は不明である。

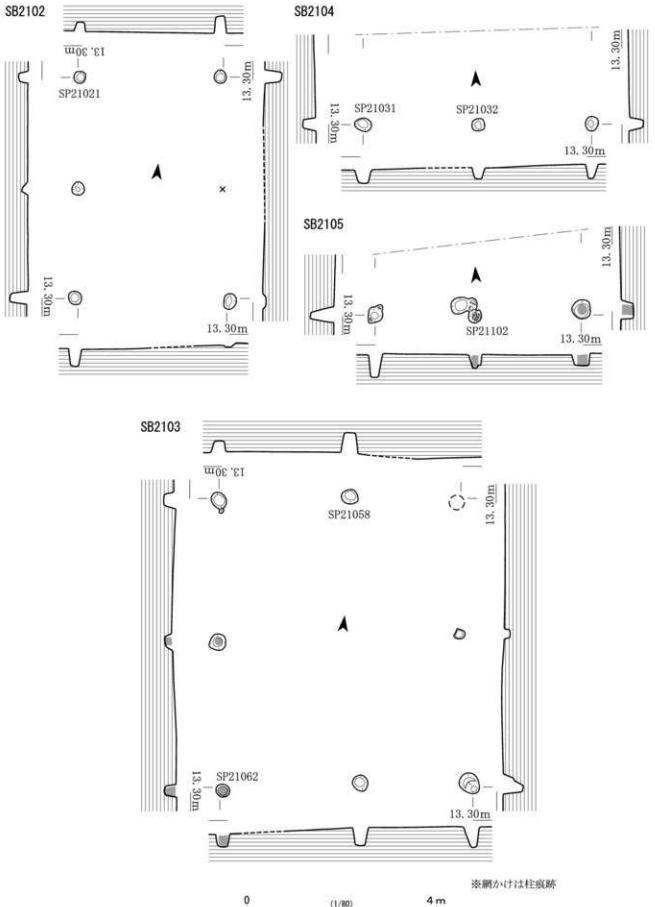
SB1303（第１２図、図版８） １Ｃ地区の西側中央に位置し、１Ｃ地区全ての建物跡と重複する。規模は１間（2.5m）×１間（2.4m）、床面積は調査区最小の6.0㎡。棟方向はN40° W。柱間は桁行2.5 m、梁行2.4 mのほぼ正方形を呈する。柱穴の規模は直径約24 ～ 46.5cm、深さ11.1 ～ 27.8cm。SP13025から土師器皿（15）が出土したが、小片のため建物の時期は不明である。

SB1304（第１２図、図版８） １Ｃ地区の東側中央に位置し、SB1301・1303と重複する。規模は２間（3.9m）×１間（2.7m）、床面積10.5㎡。棟方向はN80° E。柱間の平均は桁行約2.0 m、梁行2.7 m。柱穴の規模は直径15 ～ 30cm、深さは2.3 ～ 12.1cm。土師器小片のみの出土で、建物の時期は不明である。

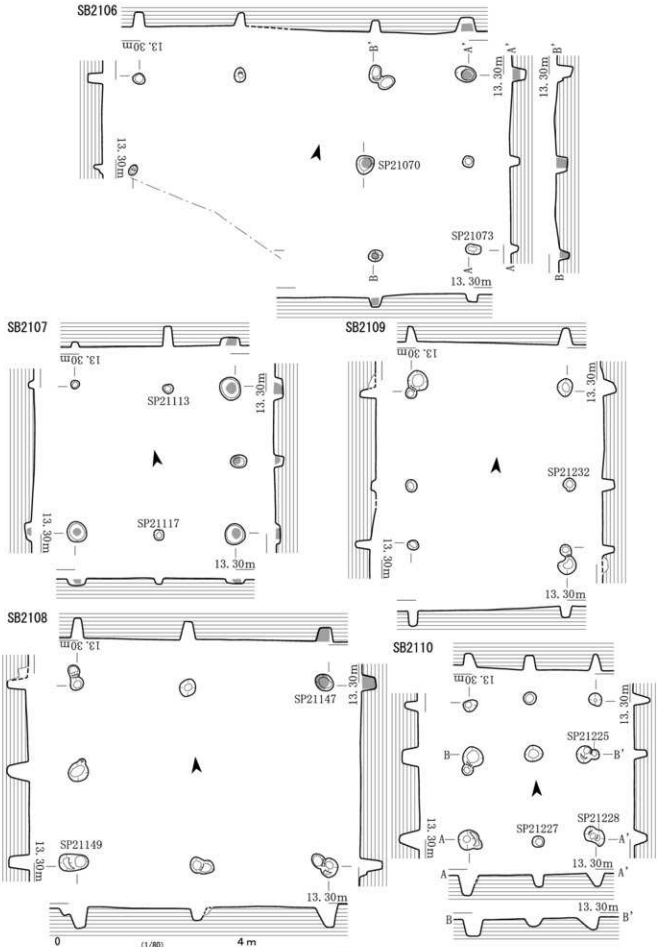
SB1305（第１２図、図版８） １Ｃ地区南側に位置し、SB1302・1303と重複する。規模は１間（3.1m）×１間（2.2m）、床面積6.8㎡。棟方向はN78° W。柱間は桁行3.1m、梁行2.2m。柱穴の規模は直径17 ～ 51cmと幅広く、深さ7.4 ～ 17.1cm。出土遺物は土師器小片のみで、建物の時期は不明である。



第１２図　掘立柱建物跡実測図③



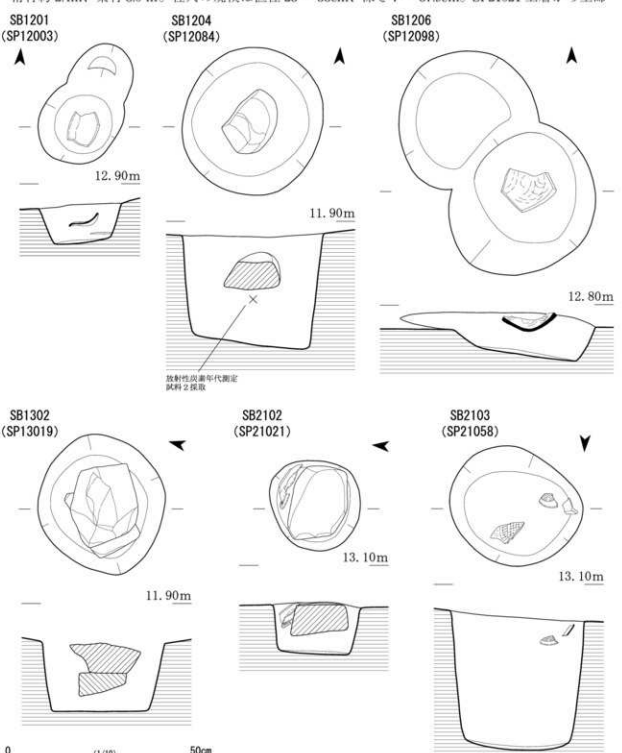
第１３図　掘立柱建物跡実測図④



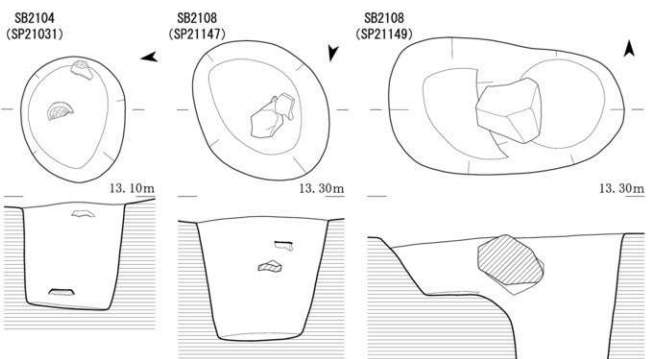
第１４図　掘立柱建物跡実測図⑤

SB2101（第１２図、図版８） ２Ａ地区の西側中央に位置し、建物の北西隅が竪穴建物跡に重複している。SB2102・2103とも重複する。規模は２間（4.8m）×１間（3.1m）、床面積14.9㎡。棟方向はＮ４°Ｅ。柱間の平均は桁行2.4ｍ、梁行3.1ｍで、桁行南側の柱穴間隔が広い。柱穴の規模は直径25～50cm、深さ19.4～34cm。SP21014から土師器杯（16）が出土した。建物の時期は中世に比定される。

SB2102（第１３・１５図、図版８・９） ２Ａ地区の西側中央に位置し、SB2101・2103・2104・2106と重複する。規模は２間（4.7m）×１間（3.0m）、床面積14.1㎡。棟方向はＮ８°Ｗ。柱間の平均は桁行約2.4m、梁行3.0ｍ。柱穴の規模は直径23～33cm、深さ7～37.9cm。SP21021上層から土師



第１５図　掘立柱建物跡構成柱穴実測図①



第１６図　掘立柱建物跡構成柱穴実測図②

第１表　掘立柱建物跡一覧表

番号	地区	遺構番号	規模（間）	棟方向	柱間 桁行	柱間 梁行	面積（㎡）	構成柱穴 平均径（cm）	構成柱穴 平均深度（cm）	出土遺物 ※番号は報告書掲載の遺物番号	柱痕跡	時代	備考
					建物の北西隅から（m）	建物の北西隅から（m）							
1	1 A	SB1101	2 × 1	N72° W	4.1(2.1･2.0)	3.2	13.1	25.2	12.9	土師器	○	–	–
2	1 B	SB1201	2 × 2	N2° W	4.0(1.7･2.3)	3.8(1.9･1.9)	15.2	19.4	13.7	土師器椀(8)〔SP12003〕・白磁椀(9)〔SP12002〕	○	古代	–
3	1 B	SB1202	1 × 1	N0° W	3.0	2.2	6.6	24.5	9.9	土師器	○	–	SP1200を建物構成柱穴とすれば２間×１間。
4	1 B	SB1203	2 × 1	N55° E	※4.6(2.5･2.1)	※3.0	(13.8)	39.5	4.8	–	○	–	一部調査区外。※南西隅から。
5	1 B	SB1204	3 × 2	N85° E	5.9 (2.0･1.9･2.0)	4.4(2.2･2.2)	26.0	35.3	18.5	須恵器杯(11)〔SP12083〕・土師器椀(10･12)〔SP12077〕	○	古代	SP12084 上層出土の石下の炭化物（試料２）の放射性炭素年代測定では、８世紀後半～９世紀中葉に同定。
6	1 B	SB1205	2 × ?	N89° E	3.9(1.8･2.1)	–	–	31.3	14.2	土師器、石器(150)〔SP12095〕	○	–	大部分調査区外。
7	1 B	SB1206	2 × ?	N89° E	3.8(1.9･1.9)	–	–	31.8	9.8	土師器、須恵器壺(13)・甕(14)〔SP12098〕	○	古代	大部分調査区外。
8	1 B	SB1207	2 × ?	N68° E	※4.7 (2.4･2.3)	–	–	25.0	8.2	–	–	–	一部調査区外。※遺構検出時柱穴の位置による推定。
9	1 B	SB1208	2 × ?	N65° E	4.9(2.3･2.6)	–	–	32.1	12.2	土師器	–	–	一部調査区外。
10	1 B	SB1209	3 × 2	N79° E	6.0 (2.1･2.1･1.8)	3.8(1.9･1.9)	22.8	37.0	14.3	須恵器、土師器	○	古代	梁行（残存部）柱間25m。南桁行方向に廂（柱間 20 m）。総面積 34.8㎡（6.0 m × 5.8 m）。
11	1 C	SB1301	1 × 1	N12° W	3.4	3.2	10.9	22.5	10.0	–	–	–	–
12	1 C	SB1302	2 × 1	N16° W	3.5(2.0･1.5)	2.8	9.8	30.9	22.5	土師器	○	–	SP13019 上層より２段重ねの石出土。
13	1 C	SB1303	1 × 1	N40° W	2.5	2.4	6.0	29.2	18.4	須恵器、土師器皿(15)〔SP13025〕	○	–	–
14	1 C	SB1304	2 × 1	N80° E	3.9(2.0･1.9)	2.7	10.5	23.7	6.0	土師器	–	–	–
15	1 C	SB1305	1 × 1	N78° W	3.1	2.2	6.8	23.0	11.8	土師器	○	–	–
16	2 A	SB2101	2 × 1	N4° E	※4.8(1.9･2.9)	※3.1	14.9	32.1	23.9	須恵器、土師器杯(16)〔SP22014〕	○	中世	※南東隅から。
17	2 A	SB2102	2 × 1	N8° W	4.7(2.4･2.3)	3.0	14.1	26.5	22.3	土師器皿(17･18･19)・杯(20)〔SP21021〕	–	中世	SP21021 上層より石出土。
18	2 A	SB2103	2 × 2	N10° W	6.1(3.0･3.1)	5.1(2.8･2.3)	31.1	30.6	28.8	土師器杯（21）〔SP21062〕・杯(22)・鍋(23･24)〔SP21068〕	○	中世	–
19	2 A	SB2104	2 × ?	N87° W	4.8(2.4･2.4)	–	30.3	26.9		土師器皿(25･26)〔SP21032･21031〕・杯(27)〔SP21031〕、白磁	–	中世	大部分調査区外。
20	2 A	SB2105	2 × ?	N86° W	4.4(2.1･2.3)	–	32.2	34.4	14.8	土師器椀(28)〔SP21102〕	○	中世	大部分調査区外。
21	2 A	SB2106	3 × 2	N75° E	※7.0 (2.0･2.8･2.2)	※3.7 (1.8･1.9)	(25.9)	27.8	23.8	土師器鍋(29)〔SP21070〕・石鍋(151)〔SP21073〕	○	中世	柱行一部調査区外。※北東隅から。
22	2 A	SB2107	2 × 2	N77° W	※3.4 (1.4･2.0)	※3.2 (1.5･1.7)	10.9	33.9	19.2	土師器杯(31)〔SP21113〕・青磁椀(30)〔SP21117〕	○	中世	※北東隅から。
23	2 A	SB2108	2 × 2	N85° W	5.2(2.3･2.9)	3.8(1.8･2.0)	19.8	37.5	36.6	土師器皿(90)・杯(91)〔SP21147〕、中世須恵器	○	中世	SP21149 上層より石出土。
24	2 A	SB2109	2 × 1	N3° W	※3.4 (2.1･1.3)	※3.3	11.2	26.1	26.6	土師器椀(132)・鉄釘(156)〔SP21232〕	–	中世	※北東隅から。
25	2 A	SB2110	2 × 2	N2° E	2.9(1.1･1.8)	2.7(1.3･1.4)	7.8	31.3	29.5	土師器皿(32･33)〔SP2127･2128〕・杯(34)〔SP2125〕	–	中世	総柱建物跡。

器皿（17･18･19）と杯（20）が石と共に出土した（第１５図、図版９－６）。遺物は石の隙間に埋められており、柱穴の廃絶時に同時に埋納されたと推測される。建物の時期は中世に比定される。

SB2103（第１３・１５図、図版８・９） ２Ａ地区の西側中央に位置し、SB2101・2102・2104・2106・2107と重複する。規模は２間（6.1m）×２間（5.1m）、床面積は31.1㎡。棟方向はN10°Wで、重複するSB2102とほぼ同じである。柱間の平均は桁行約3.1ｍ、梁行約2.6ｍ。柱穴の規模は直径20～47cm、深さ11.7～40.3cm。建物北東隅の柱穴は、後世の削平によるためか、明瞭な輪郭は検出されなかった。SP21062から土師器杯（21）、SP21058からも土師器杯（22）・鍋（23・24）が出土している。SP21058は深さ37cmで、遺物は上層10cm以内から出土した（第１５図、図版９－７）。建物の時期は中世に比定される。

SB2104（第１３・１６図、図版８・９） ２Ａ地区の中央北端に位置し、SB2102・2103・2105と重複する。建物北側の大部分が調査区外のため、正確な規模は不明だが、桁行２間（4.8m）と推定される。棟方向はN87°W。柱間の平均は桁行2.4ｍ。柱穴の規模は直径30～35cm、深さ22.6～30.2cm。SP21032から土師器皿（25）、SP21031から土師器皿（26）・杯（27）が出土した。SP21031の土師器杯は上層から、土師器皿は下層から出土しており、遺物の埋没に時期差が考えられる（第１６図、図版９－８）。建物の時期は中世に比定される。

SB2105（第１３図、図版８） ２Ａ地区の中央北端に位置し、重複するSB2104と同様、建物の大部分が調査区外で、規模は桁行２間（4.4m）と推定される。棟方向はN86°Wで、SB2104とほぼ同じである。柱間の平均は桁行2.2ｍ。柱穴の規模は直径27～40cm、深さ25.8～49.2cm。SP21102から土師器椀（28）が出土した。建物の時期は中世に比定される。

SB2106（第１４図、図版８） ２Ａ地区の中央南側に位置し、SB2102・2103・2107と重複する。南西角の柱穴は調査区外にあると推定される。規模は３間（7.0m）×２間（3.7m）、推定床面積25.9㎡。棟方向N75°E。柱間の平均は桁行約2.3ｍ、梁行約1.9ｍ。柱穴の規模は直径16～45cm、深さ15.8～30.7cm。SP21070から土師器鍋（29）、SP21073から石鍋（151）が出土した。建物の時期は中世に比定される。

SB2107（第１４図、図版８） ２Ａ地区の中央南側に位置し、SB2103・2106と重複する。規模は２間（3.4m）×２間（3.2m）、床面積10.9㎡。棟方向はN77°W。柱間の平均は桁行1.7ｍ、梁行1.6ｍのほぼ正方形を呈する。柱穴の規模は直径19～48cm、深さ8.5～41.8cm。SP21113から土師器杯(31)、SP21117から青磁椀（30）が出土している。建物の時期は中世に比定される。

SB2108（第１４・１６図、図版８） ２Ａ地区北東側に位置する。規模は２間（5.2m）×２間（3.8m）、床面積19.8㎡。棟方向はN85°W。柱間の平均は桁行2.6ｍ、梁行1.9ｍ。桁行東側の柱穴間隔が広い。柱穴の規模は直径30～60cm、深さ11～48.3cm。SP21147中層からまとまって土師器皿(90)・杯(91)が出土した。SP21149は２段掘りの楕円形柱穴で、遺物は出土しなかったが、建物廃絶後に投棄されたと見られる石が出土した（第１６図）。建物の時期は中世に比定される。

SB2109（第１４図、図版８） ２Ａ地区東側に位置する。SB2110・SD2102と重複する。規模は２間（3.4m）×１間（3.3m）、床面積11.2㎡。棟方向はN３°W。柱間の平均は桁行1.7ｍ、梁行3.3ｍ。柱穴の規模は直径20～37cm、深さ10.2～33.5cm。SP21232から土師器椀（132）と鉄釘（156）が出土した。

建物の時期は中世に比定される。

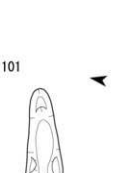
SB2110（第１４図、図版８） ２Ａ地区東側に位置し、SD2101 と SD2102 に囲まれている。SB2109 と重複する。規模は２間（2.9m）×２間（2.7m）の総柱建物跡で床面積 7.8㎡。棟方向は N 2° E 。柱間の平均は桁行約 1.5 m、梁行約 1.4 m。柱穴の規模は直径 22 ～ 43cm、深さ 16.9 ～ 42.3cm。構成柱穴のいくつかは切り合っており、隣接する柱穴とも距離が近いことから、この建物は建て替えが行われたことが推測される。SP21227･21228 から土師器皿（32･33）、SP21225 から土師器杯（34）が出土した。建物の時期は、中世に比定される。

なお、調査区内では検出されなかったが、SD2101 に囲まれた母屋が南側に所在したと推定され、SB2110 はそれに付属する倉庫等の機能を持った建物であった可能性が高い。

４　溝状遺構（第１７・１８図、図版１０）

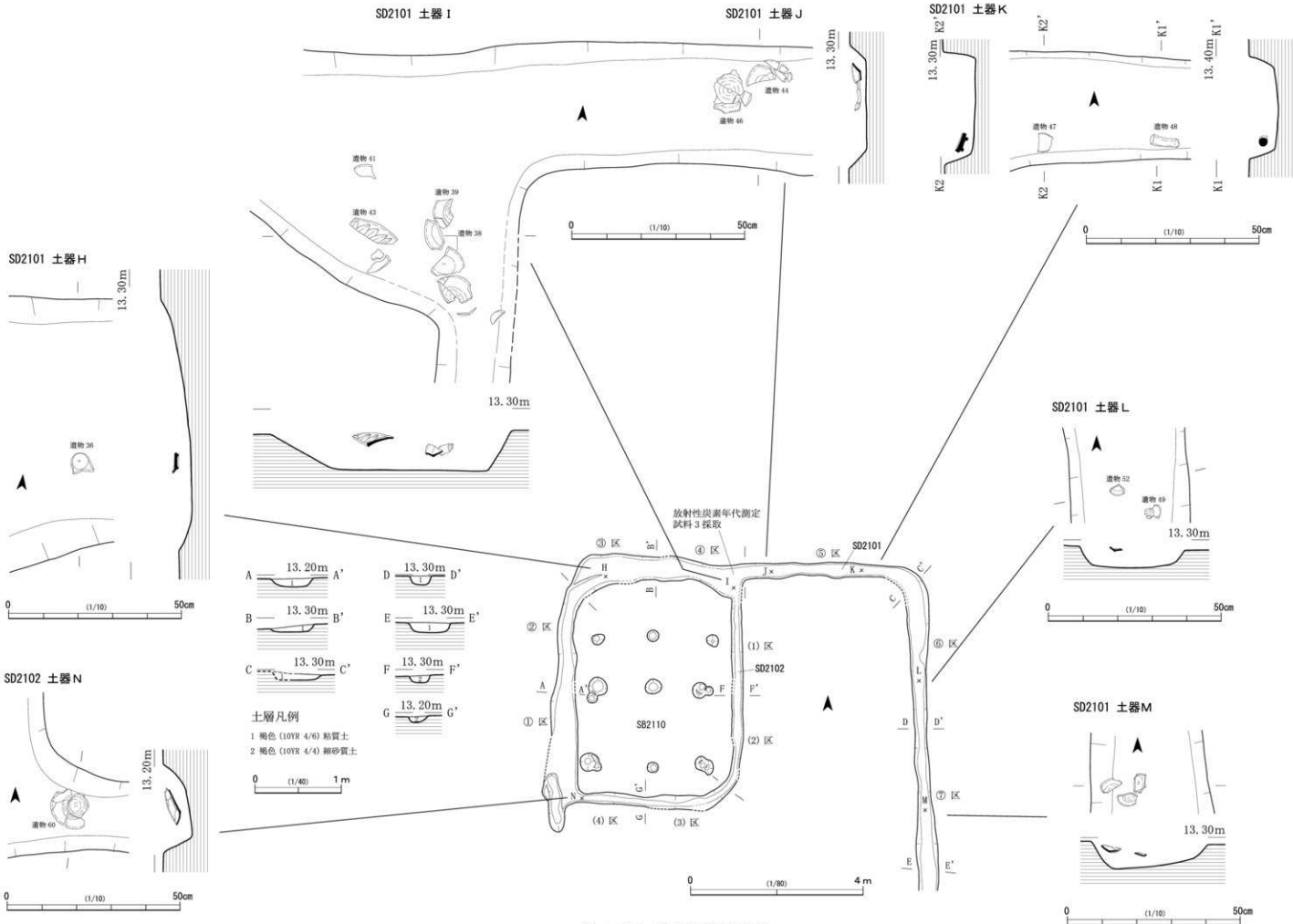
調査区全体から、３条の溝状遺構を検出した。内訳は１地区から１条、２地区から２条である。２地区の溝状遺構は、SB2110 を取り囲む配置や、他の柱穴との切合い関係、出土遺物（土師器・青磁・白磁）などから中世の集落に伴うものと考えられる。以下、各溝状遺構について述べる。

SD1101（第１７図） １Ａ地区南側を東西に伸びる溝状遺構である。検出部分の長さは 128cm、幅 40cm、深さ 10cm。１Ａ地区の南側は後世の削平を大きく受け、遺構の大部分が失われているため、検出できたのは東端の浅い一部分のみであった。埋土は上層が明黄褐色細砂質土、下層が黄褐色細砂質土の２層である。出土遺物はなく、周辺の遺構密度も希薄なため、時期の特定は難しい。



第１７図
溝状遺構実測図①

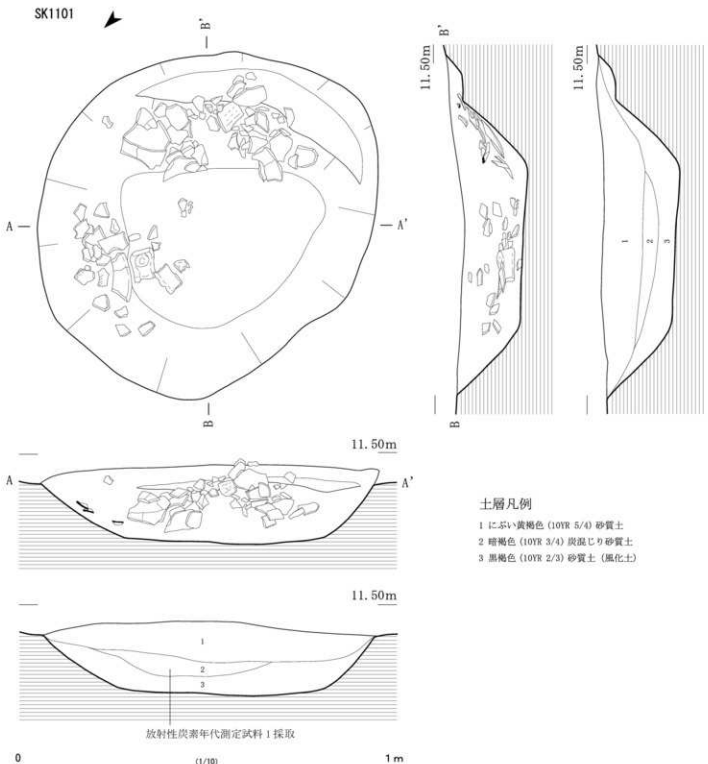
SD2101･SD2102（第１８図、図版１０） ２Ａ地区東側に位置する。検出部分は、全長 29.4m、幅 22.0 ～ 58.0cm、深さ 5.0 ～ 12.0cm。全体的に後世の耕地利用による削平などによって浅い。SD2101 は２Ａ地区東側南寄りから大きく屈曲しながら南北・東西・南北に伸び、調査区外の南側に流れる。長さは 20.8 m と溝状遺構の大部分を占め、埋土は褐色粘質土の単層である。SD2102 は、両端が SD2101 ①・④区に接続し、南北・東西に走る逆Ｌ字型を呈する。長さ 8.6m。埋土は褐色細砂質土の単層である。同一時期・一連と見られる溝状遺構 SD2101･2102 で SB2110 を囲む配置になっている。SB2110 が倉庫等の機能を持つ付属建物であるとすれば、その南側に SD2101 に囲まれた母屋が所在した可能性が高い。SD2101 では③～⑦区から幅広く、SD2102 では掘立柱建物跡南側の（3）･（4）区からも一定量の遺物が出土している（第 18 図　土器Ｈ～Ｎ等）。青磁椀（36･37･43･47･51）、白磁椀（41･42）、青白磁合子蓋（52）、土師器椀（50･61）･杯（38 ～ 40･44 ～ 46･60）･皿（35･49･53 ～ 58）･足鍋脚部（48）、瓦器系の土師器椀（59）と見られるものまでバラエティに富んでいる。SD2101 ③区出土の中国産の輸入青磁椀（36）、⑤区出土の土師器鍋（西長門型）脚部（48）など特徴的な遺物や土師器椀・杯、④区採取の炭化材（試料３）の放射性炭素年代測定などから、時期は 12 世紀末～ 13 世紀代に比定される。



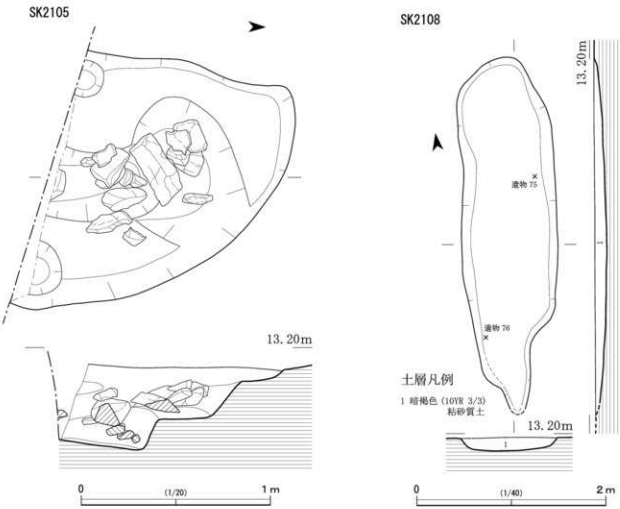
第１８図　溝状遺構実測図②

5　土坑（第19・20図、図版11）

SK1101（第19図、図版11）　1A地区南東部、試掘トレンチ南端に位置する。長径93cm、短径90cmの楕円形を呈する。深さ22cmで、上面は後世削平されたと考えられる。埋土からは、土師器高杯（62・63・64）、甕（66・68・69・70）、壺（67）、ミニチュア土器（65）などが一括廃棄された状態でまとまって出土した。壺（67）、甕（68）は山陰系土器と見られる。出土した遺物や埋土から採取した炭化物（試料1）の放射性炭素年代測定結果から、古墳時代前期の遺構と比定される。



第19図　土坑実測図①



第２０図　土坑実測図②

第２表　土坑一覧表

番号	地区	遺構番号	平面形	規模(cm) 長径	短径	深さ	埋土	出土遺物 ※番号は報告書掲載の遺物番号	時代	備考
1	1 A	SK1101	楕円	93.0	90.0	22.0	上:にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質土 中:暗褐色(10YR3/4)炭混り砂質土 下:黒褐色(10YR2/3)砂質土(風化土)	土師器甕(66・68・69・70)・壺(67)・高杯(62・63・64)・ミニチュア土器(65)	古墳前期	埋土中の炭化物（試料１）の放射性炭素年代測定では、３世紀中葉～４世紀中葉に同定。壺・甕は山陰系。
2	1 A	SK1102	円	55.0	55.0	6.5	明黄褐色(10YR6/6)粘質土	−	−	−
3	1 A	SK1103	楕円	58.0	48.0	5.5	明黄褐色(10YR6/8)粘質土	−	−	−
4	1 A	SK1104	楕円	65.0	50.0	5.0	明黄褐色(10YR7/6)粘質土	−	−	−
5	1 B	SK1201	楕円	80.0	48.0	7.3	黄褐色(10YR5/6)粘質土	−	−	−
6	1 B	SK1202	円	37.0	37.0	16.6	黄褐色(10YR5/7)粘質土	−	−	−
7	1 B	SK1203	円	55.0	55.0	14.7	黄褐色(10YR5/6) 0.5mm大砂粒含む細砂質土	−	−	−
8	1 B	SK1204	楕円	72.0	58.0	18.2	黄褐色(10YR5/6)シルト	土師器	古代	−
9	2 A	SK2101	不整	97.0	75.0	22.2	黒褐色(10YR2/3)砂質土	−	−	SP21296と重複。
10	2 A	SK2102	不整	136.0	40.0	4.9	褐色(10YR4/4)細砂質土	土師器	中世	−
11	2 A	SK2103	楕円	(70.0)	50.0	7.0	褐色(10YR4/4)細砂質土	土師器	中世	一部調査区外。
12	2 A	SK2104	楕円	78.0	62.0	41.7	褐色(7.5YR4/3)細砂質土	土師器、青磁	中世	−
13	2 A	SK2105	不整	(150.0)	140.0	44.0	褐色(10YR4/4)強粘性粘質土	中世須恵器鉢(71・72) 土師器足鍋脚部(73) 土師器椀・皿・杯・鍋、青磁	中世	一部調査区外。多数の石が段棄された状態で出土。
14	2 A	SK2106	不整	77.0	52.0	52.5	褐色(10YR4/4)粘質土	土師器	−	−
15	2 A	SK2107	楕円	123.0	59.0	5.9	オリーブ褐色(2.5Y4/4)シルト	土師器杯(74)	中世	SP21294と重複。
16	2 A	SK2108	不整楕円	380.0	104.0	14.0	暗褐色(10YR3/3)粘砂質土	青磁椀(75・76)、弥生土器(壺)	中世	−
17	2 A	SK2109	不整	195.0	125.0	7.1	褐色(10YR4/6)粘質土	土師器椀(78)・白磁椀(77)・陶器瓶(79)	−	−

SK2105（第２０図、図版１１） ２Ａ地区中央南東の調査区境界、SD2101 の南西、SK2109 の南に位置する。長径は調査区内で 150cm、短径 140cm、深さ 44cm。埋土からは、東播系中世須恵器鉢（71・72）、土師器足鍋の脚部（73）が、多数の石とともに出土したことから、廃棄土坑としての性格を持つと考えられる。出土した遺物から、中世前期の遺構に比定される。

SK2108（第２０図） ２Ａ地区中央北東部、SD2101 の北西部、SB2108 の西部に位置する。長径 380cm、短径 104cmの不整楕円形を呈する。深さ 14cm。埋土からは、鎬連弁文様のある龍泉窯系青磁椀（75・76）が出土した。出土した遺物から、中世前期の遺構に比定される。

６　柱穴（第２１・２２図、図版１２）

今回の調査では、掘立柱建物跡を構成するものを含む 613 個の柱穴が検出された。内訳は、１地区 317 個、２地区 296 個である。両地区とも、後世の削平の影響が大きく浅いものが多いが、２地区は比較的残りがよく、遺物を含むものが多かった。全体的には、約１割の柱穴から遺物が出土している。以下、掘立柱建物跡構成柱穴として既述したもの以外で代表的なものを取り上げる。

SP13022（第２１図、図版１２） １Ｃ地区中央西部、SB1302 内北西部の構成柱穴である SP13017 の東隣に位置する。長径 38cm、短径 30cmの楕円形で、深さ 11.5cm である。柱穴底部から、掘立柱設置時に礎石としたと考えられる表面に加工痕のある石が出土した（図版１２－１）。柱穴上部の削平が顕著で、石以外の遺物が出土していないため時期は不明である。

SP13030（第２１図） １Ｃ地区中央西部、SB1301 内南西部の構成柱穴である SP13011 の北隣に位置する。長径 38cm、短径 33cmの楕円形で、深さ 23.5cm である。柱穴底部から建物廃絶時に投棄されたと見られる石が出土した。柱穴上部の削平が著しく、石以外の出土遺物がないため時期は不明。

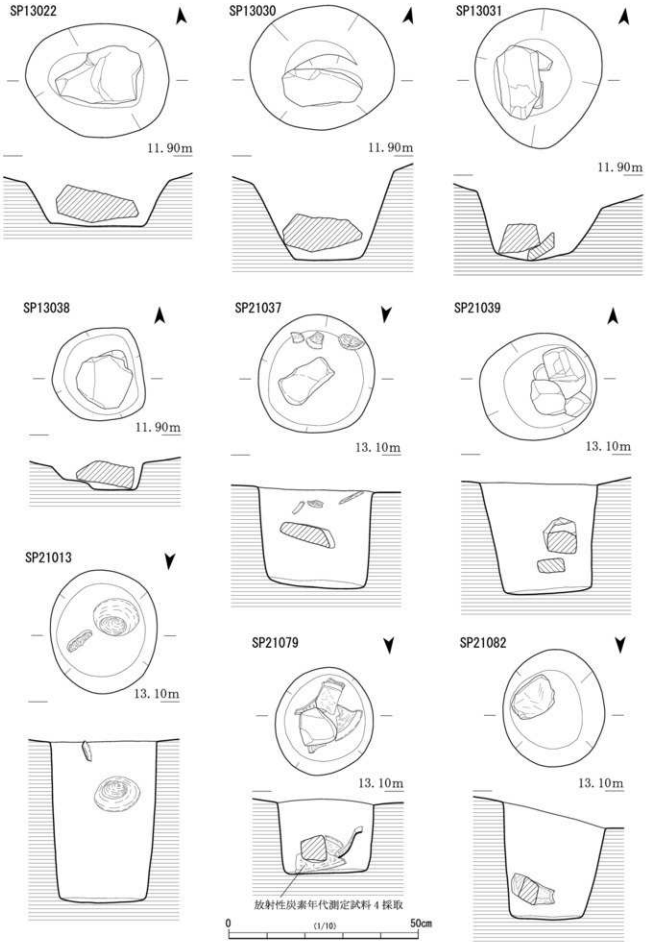
SP13031（第２１図、図版１２） １Ｃ地区中央西部、SB1301 内南西部の SP13030 の東隣に位置する。長径 37cm、短径 34cmの楕円形で、深さ 18.5cmである。建物廃絶時に投棄されたと見られる石が出土した（図版１２－２）。柱穴上部の削平が著しく、石以外の出土遺物がないため時期は不明である。

SP13038（第２１図） １Ｃ地区中央西部、SB1301 内南東部の構成柱穴である SP13012 の西隣、SB1303 内南東部の構成柱穴である SP13028 の西隣に位置する。直径 24cm、深さ８cmである。柱穴底部から建物廃絶時に埋土とともに投棄されたと見られる石が出土した。柱穴上部の削平が著しく、石以外の出土遺物がないため時期は不明である。

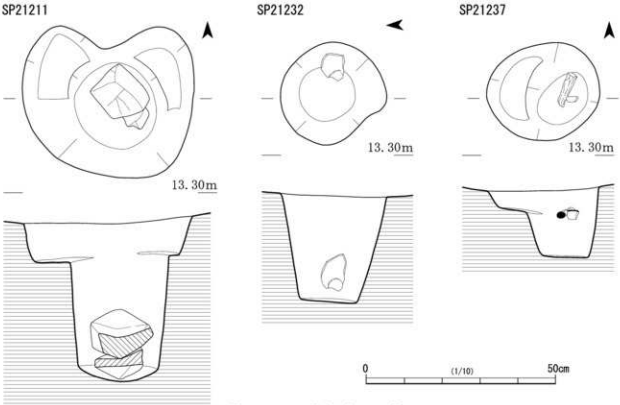
SP21013（第２１図、図版１２） ２Ａ地区中央北西部、竪穴建物跡 SI2101 東部、SB2101 内北東部の構成柱穴である SP21014 の西隣に位置する。長径 34cm、短径 28cmの楕円形で、深さ 42cmである。柱穴遺構検出面からほぼ完形の土師器皿（92）、中層から完形の土師器杯（93）が出土した（図版１２－３）。出土した遺物から、中世前期の遺構と比定される。

SP21037（第２１図、図版１２） ２Ａ地区中央北西部、竪穴建物跡 SI2101 東部、SB2103 内北西部の構成柱穴である SP21057 の南に位置する。直径 31cm、深さ 26.9cmである。柱穴上層部南側から土師器皿（84・85）、中層から石が出土した（図版１２－４）。いずれも、建物廃絶時に柱穴に埋められたと考えられる。出土した遺物から、中世前期の遺構と比定される。

SP21039（第２１図、図版１２） ２Ａ地区中央北西部、SB2102 内北東部、SB2103 内北西部、SP21037


SP13022
11.90m
SP13030
11.90m
SP13031
11.90m
SP13038
11.90m
SP21037
13.10m
SP21039
13.10m
SP21013
13.10m
SP21079
13.10m
SP21082
13.10m
放射性炭素年代測定試料4採取
0
(1/10)
50cm

第２１図　柱穴実測図①



第２２図　柱穴実測図②

の東隣に位置する。直径31cm、深さ29.5cmである。柱穴中層から、建物廃絶時に埋土とともに投棄されたと見られる石が出土した（図版１２－５）。石以外の遺物が出土していないため時期は不明である。

SP21079（第２１図、図版１２）２Ａ地区中央北部、SB2103内北東部、SB2104南西部、SP21082の北東に位置する。直径28cm、深さ19.5cmである。柱穴底部から石および土師器皿（103）、土師器鍋（104・105・106）が出土した（図版１２－６）。なお、土師器鍋（104）に付着した炭化物（試料４）を放射性炭素年代測定のため採取した。出土した遺物の特徴と炭化物の年代測定により、中世前期の遺構と比定される。

SP21082（第２１図、図版１２）２Ａ地区中央北部、SB2103内北東部、SP21079の南西に位置する。長径31cm、短径26cmの楕円形で、深さ31.8cmである。柱穴底部から砥石（154）が出土した（図版１２－７）。砥石以外の遺物が出土していないため時期は不明である。

SP21211（第２２図）２Ａ地区東部中央、SB2108南縁に接し、構成柱穴であるSP21150の東隣に位置する。長径45cm、短径44cmの北東部と北西部に２箇所の重複した掘り込みがある不整形で、深さ44.5cm。柱穴底部から２段重ねの状態で石が出土した。石以外の出土遺物がないため時期は不明である。

SP21232（第２２図）２Ａ地区南東端部、SD2102南東部に接し、SB2109を構成する。直径27cm、深さ29cmである。柱穴低層部付近東壁から土師器椀（132）、他に鉄釘（156）が出土した。出土した遺物から、中世前期の遺構と比定される。

SP21237（第２２図、図版１２）２Ａ地区東部中央、SD2101内中央北部、SB2110北側梁行の構成柱穴であるSP21221の北隣に位置する。長径30cm、短径25cmの楕円形で、深さ19cmである。柱穴中層部、上段底面とほぼ同じ深さで土師器皿（119）、土師器足鍋の脚部（120）が出土した（図版１２－８）。出土した遺物から、中世前期の遺構と比定される。

第3表　柱穴一覧表

※番号は報告書掲載の遺物番号

番号	地区	遺構番号	柱掘方 平面形	規模(cm) 直径	長径	短径	深さ	埋土	※出土遺物	柱痕跡	時代	備考
1	1A	SP11001	円	25.0	−	−	17.0	明褐色(7.5YR5/8)礫混粘質土	土師器	−	−	SB11101
2	1A	SP11002	円	20.0	−	−	5.5	明黄褐色(10YR6/5)粘質土	−	−	−	SB11101
3	1A	SP11003	円	30.0	−	−	21.0	明黄褐色(10YR6/6)粘質土	−	−	−	SB11101
4	1A	SP11004	円	27.0	−	−	12.0	明黄褐色(10YR6/8)粘質土	土師器	○	−	SB11101
5	1A	SP11005	円	25.0	−	−	15.0	明黄褐色(10YR6/8)粘質土	−	○	−	SB11101
6	1A	SP11006	円	24.0	−	−	7.0	明黄褐色(10YR6/8)粘質土	−	○	−	SB11101
7	1A	SP11007	円	15.0	−	−	8.0	灰黄褐色(10YR5/2)粗砂質土	−	−	−	−
8	1A	SP11008	円	20.0	−	−	9.0	黄褐色(10YR5/8)締まった砂質土	−	−	−	−
9	1A	SP11009	円	10.0	−	−	8.0	黄褐色(10YR5/8)締まった砂質土	−	−	−	SP11108と切り合い(古)
10	1A	SP11010	円	30.0	−	−	4.5	灰褐色(7.5YR5/2)締まった砂質土	−	−	−	−
11	1A	SP11011	楕円	−	33.0	27.0	6.5	明褐色(7.5YR5/8)砂質土	−	−	−	−
12	1A	SP11012	楕円	−	28.0	19.0	8.0	明褐色(7.5YR5/8)風化土～粘質土	−	−	−	−
13	1A	SP11013	楕円	−	25.0	17.0	9.5	橙色(7.5YR6/8)粘質土	−	−	−	−
14	1A	SP11014	楕円	−	27.0	20.0	12.0	黄褐色(10YR5/6)粘質土混じり風化土	−	−	−	−
15	1A	SP11015	楕円	−	28.0	16.0	18.0	黄褐色(10YR5/6)粘質土混じり風化土	−	−	−	−
16	1A	SP11016	楕円	−	20.0	15.0	18.0	黄褐色(10YR5/6)粘質土混じり風化土	−	−	−	−
17	1A	SP11017	楕円	−	25.0	18.0	4.0	明褐色(7.5YR5/6)風化土	−	−	−	−
18	1A	SP11018	円	18.0	−	−	5.5	褐色(10YR4/6)砂質土	−	−	−	−
19	1A	SP11019	円	10.0	−	−	16.5	黄褐色(10YR5/6)～褐灰(10YR5/1)粘質土	−	−	−	杭穴
20	1A	SP11020	円	10.0	−	−	11.5	−	−	−	−	定掘杭穴
21	1A	SP11021	円	23.0	−	−	13.5	−	土師器	−	−	定掘
22	1A	SP11022	円	10.0	−	−	2.5	黄褐色(10YR5/6)細砂質土	−	−	−	杭穴
23	1A	SP11023	円	8.0	−	−	4.0	褐色(10YR4/6)細砂質土	−	−	−	−
24	1A	SP11024	円	10.0	−	−	10.5	褐色(10YR4/6)粘土	−	−	−	−
25	1A	SP11025	円	38.0	−	−	13.5	褐色(10YR4/6)風化土～褐色(7.5YR5/6)粘質土	−	−	−	−
26	1A	SP11026	円	23.0	−	−	8.0	黄褐色(10YR5/6)礫混粘質土	−	−	−	−
27	1A	SP11027	円	10.0	−	−	2.3	黄褐色(10YR5/6)粘質土	−	−	−	−
28	1A	SP11028	円	8.0	−	−	1.1	明褐色(7.5YR5/8)砂質土	−	−	−	SP11027と切り合い(古)
29	1A	SP11029	円	20.0	−	−	2.0	にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土	−	−	−	−
30	1A	SP11030	円	15.0	−	−	19.5	褐色(10YR4/4)風化土～黄褐色(10YR5/6)粘質土	−	−	−	−
31	1A	SP11031	楕円	−	25.0	20.0	14.0	褐灰色(7.5YR5/1)締まった砂質土	土師器	−	−	−
32	1A	SP11032	円	18.0	−	−	2.5	にぶい黄褐色(10YR5/3)砂質土	−	−	−	−
33	1A	SP11033	円	12.0	−	−	5.0	明黄褐色(10YR6/6)締まった細砂質土	−	−	−	杭穴
34	1A	SP11034	円	25.0	−	−	5.5	にぶい黄橙色(10YR6/3)砂質土	土師器(椀82)	○	−	−
35	1A	SP11035	円	25.0	−	−	7.0	明黄褐色(10YR6/6)粘質土	−	○	−	−
36	1A	SP11036	円	20.0	−	−	10.0	黄橙色(10YR7/6)砂質土	−	○	−	−
37	1A	SP11037	楕円	−	36.0	24.0	9.0	明褐色(7.5YR5/8)粘質土～礫混砂質土	−	−	−	−
38	1A	SP11038	円	21.0	−	−	5.0	明黄褐色(10YR6/8)砂質土	土師器(皿81)	−	−	−
39	1A	SP11039	円	25.0	−	−	7.5	明黄褐色(10YR6/6)砂質土	須恵器(杯)	−	−	−
40	1A	SP11040	円	24.0	−	−	9.0	明褐色(7.5YR5/6)粗砂質土	土師器	−	−	−
41	1A	SP11041	円	13.0	−	−	6.5	黄褐色(10YR5/6)粘砂質土	−	−	−	−
42	1A	SP11042	楕円	−	47.0	34.0	4.0	明黄褐色(10YR6/8)締まった砂質土	−	−	−	−
43	1A	SP11043	円	19.0	−	−	15.5	−	−	−	−	定掘
44	1A	SP11044	円	20.0	−	−	7.0	明褐色(7.5YR5/8)粘質土～礫混砂質土	−	−	−	SP11037と重複
45	1A	SP11045	円	12.0	−	−	3.0	明褐色(7.5YR5/8)粘質土～礫混砂質土	−	−	−	SP11037と重複
46	1B	SP12001	円	21.0	−	−	20.0	褐色(10YR4/6)砂質土	白磁	−	古代	SB1201
47	1B	SP12002	円	19.0	−	−	16.0	褐色(10YR4/6)粗粘質土	白磁(椀9)	○	古代	SB1201
48	1B	SP12003	円	20.0	−	−	9.5	褐色(10YR4/6)粗粘質土	土師器(椀8)	−	古代	SB1201
49	1B	SP12004	円	21.0	−	−	19.0	褐色(10YR4/6)粘質土	−	−	−	SB1201
50	1B	SP12005	円	12.0	−	−	15.0	褐色(10YR4/6)粘砂質土	−	−	−	SB1201
51	1B	SP12006	円	22.0	−	−	8.5	黄褐色(10YR5/6)粘質土	土師器	−	古代	SB1201
52	1B	SP12007	円	21.0	−	−	13.0	黄褐色(10YR5/6)粘質土	−	−	−	SB1201
53	1B	SP12008	円	19.0	−	−	8.5	褐色(10YR4/4)細砂質土	−	−	−	SB1201
54	1B	SP12009	円	28.0	−	−	14.5	褐色(10YR4/4)粘質土	−	−	−	−
55	1B	SP12010	円	24.0	−	−	20.6	褐色(10YR4/6)粗粘質土	−	−	−	−
56	1B	SP12011	円	36.0	−	−	10.3	褐色(10YR4/6)細砂粒含む粘質土	−	−	−	−
57	1B	SP12012	楕円	−	23.0	15.0	3.1	黄褐色(10YR5/6)細砂質土	−	−	−	−
58	1B	SP12013	楕円	−	46.0	40.0	10.5	にぶい黄褐色(10YR5/4)シルト	土師器	−	−	−
59	1B	SP12014	円	19.0	−	−	14.7	褐色(10YR4/6)砂質土	−	−	−	−
60	1B	SP12015	円	12.0	−	−	5.1	褐色(10YR4/6)粘砂質土	−	−	−	−
61	1B	SP12016	円	13.0	−	−	14.4	褐色(10YR4/6)粘砂質土	−	−	−	−
62	1B	SP12017	円	20.0	−	−	12.1	褐色(10YR4/6)粗砂質土	−	−	−	−
63	1B	SP12018	円	17.0	−	−	6.5	明褐色(7.5YR5/8)砂質土	−	−	−	−

※番号は報告書掲載の遺物番号

番号	地区	遺構番号	平面形	規模(cm) 直径	長径	短径	深さ	柱掘方 埋土	出土遺物	柱痕跡	時代	備考
64	1 B	SP12019	円	15.0	−	−	9.1	褐色(10YR4/6)砂質土	−	−	−	−
65	1 B	SP12020	円	23.0	−	−	21.4	褐色(10YR4/6)砂質土	−	−	−	−
66	1 B	SP12021	楕円	−	34.0	28.0	24.8	黄褐色(10YR5/6)砂質土	−	−	−	−
67	1 B	SP12022	円	20.0	−	−	10.7	明褐色(7.5YR5/8)粗砂質土	−	−	−	−
68	1 B	SP12023	円	20.0	−	−	17.8	褐色(10YR4/6)砂質土	須恵器	−	−	−
69	1 B	SP12024	楕円	−	25.0	20.0	27.5	黄褐色(10YR5/6)砂質土	−	−	−	−
70	1 B	SP12025	円	18.0	−	−	7.7	黄褐色(10YR5/6)砂質土	−	−	−	−
71	1 B	SP12026	楕円	−	30.0	25.0	4.2	褐色(10YR4/6)粗砂質土	−	−	−	−
72	1 B	SP12027	円	11.0	−	−	3.4	褐色(10YR4/6)粘砂質土	−	−	−	杭穴
73	1 B	SP12028	円	10.0	−	−	8.0	褐色(10YR4/6)粘砂質土	−	−	−	杭穴
74	1 B	SP12029	円	20.0	−	−	4.5	褐色(10YR4/6)粘質土	−	−	−	−
75	1 B	SP12030	円	23.0	−	−	12.4	オリーブ褐色(2.5Y4/6)細砂質土	−	−	−	−
76	1 B	SP12031	楕円	−	32.0	28.0	10.2	褐色(10YR4/6)細砂質土	−	−	−	−
77	1 B	SP12032	楕円	−	30.0	23.0	16.1	褐色(10YR4/6)粘質土	土師器	−	−	−
78	1 B	SP12033	楕円	−	28.0	18.0	4.9	にぶい黄褐色(10YR5/4)細砂質土	−	−	−	−
79	1 B	SP12034	円	22.0	−	−	4.2	褐色(10YR4/6)粘質土	−	−	−	−
80	1 B	SP12035	円	23.0	−	−	6.6	褐色(10YR4/6)細砂粒含む粘土	−	−	−	−
81	1 B	SP12036	円	27.0	−	−	17.3	褐色(10YR4/6)粗粘質土	−	−	−	−
82	1 B	SP12037	円	23.0	−	−	5.4	明褐色(7.5YR5/8)砂質土	−	−	−	−
83	1 B	SP12038	円	20.0	−	−	6.7	明褐色(7.5YR5/6)粘質土	−	−	−	−
84	1 B	SP12039	円	21.0	−	−	20.7	にぶい黄褐色(10YR5/3)粘砂質土	−	−	−	−
85	1 B	SP12040	円	23.0	−	−	17.7	褐色(10YR4/4)粘砂質土	−	−	−	−
86	1 B	SP12041	円	18.0	−	−	5.0	−	−	−	−	完掘
87	1 B	SP12042	円	25.0	−	−	15.5	にぶい黄褐色(10YR4/3)粘質土	−	−	−	−
88	1 B	SP12043	円	23.0	−	−	25.4	褐色(10YR4/4)粘質土	−	−	−	−
89	1 B	SP12044	円	11.0	−	−	9.1	褐色(10YR4/4)粘質土	−	−	−	−
90	1 B	SP12045	円	16.0	−	−	8.0	褐色(10YR4/4)細砂質土	−	−	−	−
91	1 B	SP12046	円	16.0	−	−	6.8	明褐色(7.5YR5/8)細砂粒含む粘質土	−	−	−	−
92	1 B	SP12047	円	28.0	−	−	7.6	明褐色(7.5YR5/8)粘質土	−	−	−	−
93	1 B	SP12048	円	22.0	−	−	17.4	にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質土	−	−	−	−
94	1 B	SP12049	円	40.0	−	−	9.5	褐色(10YR4/6)粗砂質土	−	−	−	−
95	1 B	SP12050	円	27.0	−	−	8.4	にぶい黄褐色(10YR5/4)細砂質土	−	−	−	−
96	1 B	SP12051	円	30.0	−	−	6.7	褐色(10YR4/6)粗粘質土	−	−	−	−
97	1 B	SP12052	円	30.0	−	−	13.5	褐色(10YR4/6)粘砂質土	−	−	−	−
98	1 B	SP12053	円	27.0	−	−	11.9	にぶい黄褐色(10YR4/3)粗砂質土	−	−	−	−
99	1 B	SP12054	円	15.0	−	−	4.5	褐色(10YR4/6)細砂質土	−	−	−	−
100	1 B	SP12055	円	40.0	−	−	8.3	明褐色(7.5YR5/8)シルト	−	−	−	−
101	1 B	SP12056	円	25.0	−	−	13.5	褐色(10YR5/6)細粘質土	−	−	−	SB1202
102	1 B	SP12057	円	25.0	−	−	17.0	にぶい黄褐色(10YR5/4)細粘砂質土	−	○	−	SB1202
103	1 B	SP12058	円	26.0	−	−	5.8	黄褐色(10YR5/6)シルト	−	○	−	SB1202
104	1 B	SP12059	円	22.0	−	−	3.1	黄褐色(10YR5/6)シルト	−	−	−	SB1202
105	1 B	SP12060	円	30.0	−	−	22.6	にぶい黄褐色(10YR4/3)粘質土	土師器	−	−	−
106	1 B	SP12061	楕円	−	38.0	23.0	4.0	褐色(10YR4/6)シルト	−	−	−	−
107	1 B	SP12062	円	17.0	−	−	9.3	黄褐色(10YR5/6)砂質土	−	−	−	−
108	1 B	SP12063	楕円	−	36.0	28.0	8.5	黄褐色(10YR5/6)シルト	−	−	−	SB1203
109	1 B	SP12064	半円	−	24.0	13.0	2.5	黄褐色(10YR5/6)シルト	−	−	−	SB1203
110	1 B	SP12065	円	27.0	−	−	3.7	黄褐色(10YR5/8)シルト	−	○	−	SB1203
111	1 B	SP12066	楕円	−	35.0	25.0	7.0	黄褐色(10YR5/6)細砂質土	−	−	−	SB1203
112	1 B	SP12067	円	21.0	−	−	5.8	にぶい黄褐色(10YR5/4)シルト	−	−	−	SB1203
113	1 B	SP12068	楕円	−	25.0	19.0	4.0	褐色(10YR4/6)シルト	−	−	−	−
114	1 B	SP12069	円	22.0	−	−	14.3	褐色(7.5YR4/4)粘砂質土	−	−	−	−
115	1 B	SP12070	楕円	−	27.0	20.0	10.6	黄褐色(10YR5/6)シルト	−	−	−	−
116	1 B	SP12071	円	36.0	−	−	10.3	暗褐色(10YR3/4)粘砂質土	−	−	−	−
117	1 B	SP12072	楕円	−	30.0	20.0	5.2	褐色(10YR4/6)粗砂質土	−	−	−	−
118	1 B	SP12073	円	28.0	−	−	6.5	黄褐色(10YR5/6)粗粘砂質土	−	−	−	−
119	1 B	SP12074	円	33.0	−	−	5.0	黄褐色(10YR5/6)細粘土	須恵器,土師器	○	古代	SB1204
120	1 B	SP12075	円	36.0	−	−	13.0	黄褐色(10YR5/4)シルト	−	○	−	SB1204
121	1 B	SP12076	円	33.0	−	−	30.0	黄褐色(10YR5/6)粘質シルト	土師器	○	古代	SB1204
122	1 B	SP12077	楕円	−	44.0	42.0	24.0	暗褐色(10YR3/4)シルト	土師器(椀10-12)	−	古代	SB1204
123	1 B	SP12078	円	30.0	−	−	20.5	褐色(10YR4/6)シルト	土師器	○	古代	SB1204
124	1 B	SP12079	円	37.0	−	−	6.6	黄褐色(10YR5/6)シルト	−	−	古代	SB1204
125	1 B	SP12080	円	25.0	−	−	7.5	褐色(10YR4/6)シルト	土師器	○	古代	SB1204
126	1 B	SP12081	円	36.0	−	−	20.0	黄褐色(10YR5/6)シルト	土師器	○	古代	SB1204
127	1 B	SP12082	円	40.0	−	−	13.0	褐色(10YR4/6)シルト	−	○	−	SB1204
128	1 B	SP12083	円	40.0	−	−	26.5	褐色(10YR4/6)細砂質土	須恵器(杯11),土師器	○	古代	SB1204
129	1 B	SP12084	円	35.0	−	−	28.5	褐色(10YR4/6)細粘砂質土	土師器	○	古代	SB1204,炭化物「試料2) 放射性炭素年代測定では、8世紀後半～9世紀中葉
130	1 B	SP12085	楕円	−	30.0	22.0	5.7	褐色(10YR4/6)粗砂質土	−	−	−	−
131	1 B	SP12086	円	21.0	−	−	11.3	褐色(10YR4/6)粗粘砂質土	土師器	−	−	−
132	1 B	SP12087	楕円	−	32.0	20.0	4.8	褐色(10YR4/6)細砂質土	−	−	−	−
133	1 B	SP12088	円	16.0	−	−	7.2	褐色(10YR4/6)砂質土	−	−	−	−
134	1 B	SP12089	円	20.0	−	−	3.7	黄褐色(10YR5/6)シルト	−	−	−	−
135	1 B	SP12090	楕円	−	32.0	25.0	4.1	褐色(10YR4/6)シルト	−	−	−	−

※番号は報告書掲載の遺物番号

番号	地区	遺構番号	柱掘方					埋土	※出土遺物	柱抜跡	時代	備考
			平面形	規模(cm)								
				直径	長径	短径	深さ					
136	1 B	SP12091	円	18.0	−	−	6.8	褐色(10YR4/4)粘砂質土	−	−	−	−
137	1 B	SP12092	円	35.0	−	−	18.4	褐色(7.5YR4/3)粘質土	−	−	−	−
138	1 B	SP12093	円	32.0	−	−	14.0	黄褐色(10YR5/6)砂質土	土師器	○	−	SB1205
139	1 B	SP12094	円	30.0	−	−	12.5	褐色(10YR4/6)粘砂質土	土師器	○	−	SB1205
140	1 B	SP12095	円	32.0	−	−	16.0	褐色(10YR4/6)粘質土	石器(150)	○	−	SB1205
141	1 B	SP12096	円	30.0	−	−	10.5	黄褐色(10YR5/6)細粘質土	−	○	−	SB1206
142	1 B	SP12097	楕円	−	39.0	28.0	13.0	褐色(10YR4/6)細粘質土	土師器	○	古代	SB1206
143	1 B	SP12098	円	32.0	−	−	6.0	褐色(10YR4/6)粘砂質土	須恵器(壺 13・甕 14)、土師器(甕)	○	古代	SB1206
144	1 B	SP12099	円	23.0	−	−	4.5	褐色(10YR4/6)粗粘砂質土	−	−	−	−
145	1 B	SP12100	円	25.0	−	−	8.8	にぶい黄褐色(10YR4/3)細砂質土	−	−	−	−
146	1 B	SP12101	円	35.0	−	−	17.3	褐色(10YR4/6)粗粘質土	土師器	○	−	−
147	1 B	SP12102	楕円	−	40.0	28.0	13.7	褐色(10YR4/4)細粘質土	−	−	−	−
148	1 B	SP12103	円	25.0	−	−	8.6	褐色(10YR4/6)砂質土	土師器	−	−	−
149	1 B	SP12104	円	27.0	−	−	10.5	褐色(7.5YR4/4)粘砂質土	−	−	−	SB1207
150	1 B	SP12105	円	23.0	−	−	5.0	黄褐色(10YR5/8)粘質土	−	−	−	SB1207
151	1 B	SP12106	円	25.0	−	−	9.0	褐色(10YR4/6)粗粘質土	−	−	−	SB1207
152	1 B	SP12107	−	−	−	−	−	−	−	−	−	SB1207、遺構検出時確認
153	1 B	SP12108	円	27.0	−	−	14.0	明褐色(7.5YR5/8)砂質土	−	−	−	SB1208
154	1 B	SP12109	円	33.0	−	−	4.0	黄褐色(10YR5/8)粘質土	−	−	−	SB1208
155	1 B	SP12110	円	30.0	−	−	10.5	褐色(10YR4/6)粗粘質土	−	−	−	SB1208
156	1 B	SP12111	楕円	−	47.0	30.0	20.2	にぶい黄褐色(10YR5/4)粗砂質土	土師器	−	−	SB1208
157	1 B	SP12112	円	34.0	−	−	8.8	褐色(7.5YR4/6)粗砂質土	−	○	−	SB1209
158	1 B	SP12113	円	33.0	−	−	4.0	黄褐色(10YR5/6)砂質土	−	○	−	SB1209
159	1 B	SP12114	円	36.0	−	−	12.0	黄褐色(10YR5/6)粗粘質風化土	−	○	−	SB1209
160	1 B	SP12115	楕円	−	45.0	41.0	35.2	黄褐色(2.5Y5/3)風化土	土師器	○	古代	SB1209
161	1 B	SP12116	楕円	−	36.0	31.0	11.0	褐色(10YR4/6)粗粘質土	土師器	○	古代	SB1209
162	1 B	SP12117	円	34.0	−	−	6.0	褐色(10YR4/6)シルト	−	○	−	SB1209
163	1 B	SP12118	円	39.0	−	−	22.5	黄褐色(10YR5/6)粘質土	土師器	○	古代	SB1209
164	1 B	SP12119	円	40.0	−	−	14.0	褐色(10YR4/6)粘砂質土	土師器	○	古代	SB1209
165	1 B	SP12120	楕円	−	44.0	38.0	17.5	黄褐色(10YR5/6)粗粘質土	−	○	−	SB1209
166	1 B	SP12121	円	36.0	−	−	12.5	褐色(10YR4/6)細粘質土	須恵器	○	古代	SB1209
167	1 B	SP12122	−	−	−	−	−	−	−	−	古代	SB1209(暗)、柱穴と切り合い
168	1 B	SP12123	円	23.0	−	−	9.9	褐色(10YR4/6)粘質土	−	−	古代	SB1209(暗)
169	1 B	SP12124	円	17.0	−	−	9.9	褐色(7.5YR4/6)粗粘砂質土	−	−	古代	SB1209(暗)
170	1 B	SP12125	円	21.0	−	−	8.3	黄褐色(10YR5/6)粗粘質土	−	−	古代	SB1209(暗)
171	1 B	SP12126	円	15.0	−	−	4.8	褐色(10YR4/6)粘質土	白磁(椀83)	−	−	−
172	1 B	SP12127	円	30.0	−	−	9.1	褐色(10YR4/6)砂質土	−	−	−	−
173	1 B	SP12128	円	20.0	−	−	6.4	褐色(10YR4/6)シルト	−	−	−	−
174	1 B	SP12129	円	17.0	−	−	9.3	褐色(10YR4/6)粗粘砂質土	−	−	−	−
175	1 B	SP12130	円	33.0	−	−	8.3	褐色(7.5YR4/4)細粘砂質土	土師器	−	−	−
176	1 B	SP12131	円	22.0	−	−	5.9	褐色(7.5YR4/6)粗粘質土	−	−	−	−
177	1 B	SP12132	楕円	−	37.0	21.0	13.4	褐色(10YR4/6)細粘質土	土師器	−	−	−
178	1 B	SP12133	楕円	−	21.0	17.0	6.4	黄褐色(10YR5/6)粗粘質土	−	−	−	−
179	1 B	SP12134	円	25.0	−	−	6.0	褐色(10YR4/6)粗粘質土	−	−	−	−
180	1 B	SP12135	円	27.0	−	−	4.9	褐色(10YR4/6)シルト	−	−	−	−
181	1 B	SP12136	円	23.0	−	−	13.0	褐色(10YR4/6)粘質土	−	−	−	−
182	1 B	SP12137	円	28.0	−	−	12.4	褐色(10YR4/6)砂質土	−	−	−	−
183	1 B	SP12138	円	25.0	−	−	10.3	暗褐色(10YR3/4)粗粘質土	土師器	−	−	−
184	1 B	SP12139	円	20.0	−	−	9.0	褐色(10YR4/6)粗粘砂質土	−	−	−	−
185	1 B	SP12140	円	13.0	−	−	10.1	褐色(10YR4/6)粗砂質土	−	−	−	−
186	1 B	SP12141	円	30.0	−	−	9.0	褐色(10YR4/4)細砂質土	土師器	−	−	−
187	1 B	SP12142	円	22.0	−	−	14.3	褐色(10YR4/6)粘質土	土師器	−	−	−
188	1 B	SP12143	円	18.0	−	−	6.8	黄褐色(10YR5/6)粘質土	−	−	−	−
189	1 B	SP12144	円	25.0	−	−	7.5	黄褐色(10YR5/6)粗砂質土	−	−	−	−
190	1 B	SP12145	円	26.0	−	−	9.8	黄褐色(10YR5/6)粘質土	−	−	−	−
191	1 B	SP12146	円	8.0	−	−	6.3	褐色(10YR4/6)粘質土	−	−	−	柱穴
192	1 B	SP12147	円	26.0	−	−	5.4	褐色(10YR4/6)細砂質土	−	−	−	−
193	1 B	SP12148	楕円	−	26.0	21.0	11.1	褐色(10YR4/6)粗粘砂質土	−	−	−	−
194	1 B	SP12149	円	25.0	−	−	8.7	黄褐色(10YR5/6)粗粘質土	−	−	−	−
195	1 B	SP12150	円	18.0	−	−	20.8	褐色(10YR4/6)粘質土	土師器	−	−	−
196	1 B	SP12151	楕円	−	23.0	16.0	15.7	褐色(10YR4/6)粘質土	−	−	−	−
197	1 B	SP12152	円	20.0	−	−	5.9	黄褐色(10YR5/6)粘砂質土	−	−	−	−
198	1 B	SP12153	円	22.0	−	−	25.2	褐色(10YR4/6)細砂質土	−	−	−	−
199	1 B	SP12154	円	22.0	−	−	4.1	黄褐色(10YR5/6)シルト	−	−	−	−
200	1 B	SP12155	円	20.0	−	−	13.0	褐色(10YR4/6)細粘質土	−	−	−	−
201	1 B	SP12156	円	11.0	−	−	5.0	−	−	−	−	完掘
202	1 B	SP12157	円	20.0	−	−	10.4	黄褐色(10YR5/8)粘質土	−	−	−	−
203	1 B	SP12158	円	20.0	−	−	17.1	暗褐色(10YR3/4)粘質土	土師器	−	−	−
204	1 B	SP12159	円	10.0	−	−	9.9	褐色(10YR4/6)粘質土	−	−	−	柱穴
205	1 B	SP12160	円	22.0	−	−	5.9	褐色(10YR4/6)粘質土	−	−	−	−
206	1 B	SP12161	楕円	−	26.0	17.0	3.3	褐色(10YR4/6)細粘質土	−	−	−	−
207	1 B	SP12162	楕円	−	26.0	22.0	10.3	褐色(7.5YR4/4)粗砂質土	−	−	−	−
208	1 B	SP12163	円	18.0	−	−	12.8	褐色(10YR4/4)粗砂質土	−	−	−	−
209	1 B	SP12164	楕円	−	25.0	15.0	13.4	褐色(10YR4/6)細粘質土	−	−	−	−

※番号は報告書掲載の遺物番号

番号	地区	遺構番号	平面形	柱掘方 規模(cm) 直径	長径	短径	深さ	埋土	出土遺物	柱痕跡	時代	備考
210	1 B	SP12165	円	30.0	−	−	7.2	黄褐色(10YR5/6)粗粘質土	−	−	−	−
211	1 B	SP12166	円	27.0	−	−	11.9	暗褐色(10YR3/4)シルト	土師器	−	−	−
212	1 B	SP12167	円	20.0	−	−	14.7	褐色(10YR4/6)細粘砂質土	−	−	−	−
213	1 B	SP12168	円	16.0	−	−	7.4	にぶい黄褐色(10YR4/3)粗粘砂質土	−	−	−	−
214	1 B	SP12169	円	35.0	−	−	11.7	褐色(10YR4/4)粘砂質土	−	−	−	−
215	1 B	SP12170	円	33.0	−	−	11.0	褐色(10YR4/6)風化土	−	−	−	−
216	1 B	SP12171	楕円	−	25.0	23.0	5.8	−	−	−	−	完掘
217	1 B	SP12172	円	20.0	−	−	6.5	褐色(10YR4/4)砂質土	−	−	−	−
218	1 C	SP13001	楕円	−	30.0	17.0	15.8	褐色(10YR4/4)粗粘質土	土師器(皿・杯)	−	中世	−
219	1 C	SP13002	円	20.0	−	−	6.6	褐色(10YR4/4)粘質土	土師器	−	−	−
220	1 C	SP13003	円	17.0	−	−	9.2	褐色(10YR4/4)砂質土	土師器,白磁	−	古代	−
221	1 C	SP13004	楕円	−	33.0	27.0	5.2	黄褐色(10YR5/6)粘砂質土	−	−	−	−
222	1 C	SP13005	楕円	−	22.0	16.0	1.6	−	土師器(皿・椀)	−	中世	完掘
223	1 C	SP13006	円	23.0	−	−	2.7	褐色(10YR4/4)粘質土	土師器	−	−	−
224	1 C	SP13007	楕円	−	33.0	27.0	16.4	褐色(10YR4/4)粗粘質土	白磁,土師器	−	古代	−
225	1 C	SP13008	円	32.0	−	−	10.4	オリーブ褐色(2.5Y4/4)粗粘質土	−	−	−	−
226	1 C	SP13009	楕円	−	32.0	22.0	10.7	にぶい黄褐色(10YR5/4)粘砂質土	−	−	−	SB1301
227	1 C	SP13010	楕円	−	23.0	15.0	6.5	褐色(10YR4/6)細砂質土	−	−	−	SB1301
228	1 C	SP13011	楕円	−	28.0	20.0	15.6	にぶい黄褐色(10YR4/3)粘砂質土	−	−	−	SB1301
229	1 C	SP13012	円	20.0	−	−	7.2	褐色(7.5YR4/4)砂質土	−	−	−	SB1301
230	1 C	SP13013	楕円	−	45.0	36.0	15.7	褐色(10YR4/4)粘砂質土	土師器	−	−	−
231	1 C	SP13014	円	17.0	−	−	11.2	黄褐色(10YR5/6)砂質土	−	−	−	−
232	1 C	SP13015	楕円	−	22.0	7.0	7.4	褐色(10YR4/6)粗砂質土	−	−	−	−
233	1 C	SP13016	円	21.0	−	−	10.8	褐色(10YR4/6)粗砂質土	−	−	−	−
234	1 C	SP13017	楕円	−	40.0	29.0	19.5	褐色(10YR4/6)砂質土	土師器	−	−	SB1302
235	1 C	SP13018	円	30.0	−	−	31.9	褐色(7.5YR4/4)砂質土	土師器	−	−	SB1302
236	1 C	SP13019	円	32.5	−	−	18.5	褐色(10YR4/4)粗粘質土	−	−	−	SB1302
237	1 C	SP13020	楕円	−	40.0	33.0	26.2	褐色(10YR4/6)粘質土	−	−	−	SB1302
238	1 C	SP13021	楕円	−	24.0	18.0	16.3	褐色(10YR4/6)細砂質土	−	○	−	SB1302
239	1 C	SP13022	楕円	−	38.0	30.0	11.5	褐色(7.5YR4/3)粗砂質土	−	−	−	−
240	1 C	SP13023	円	35.0	−	−	16.9	暗褐色(10YR3/4)粗粘質土	−	−	−	−
241	1 C	SP13024	円	36.0	−	−	18.5	暗褐色(10YR3/4)砂質土	土師器	−	−	−
242	1 C	SP13025	円	29.0	−	−	27.8	褐色(10YR4/6)粗砂質土	須恵器,土師器(皿15)	−	−	SB1303
243	1 C	SP13026	楕円	−	46.5	31.0	22.0	にぶい黄褐色(10YR4/3)細砂質土	−	−	−	SB1303
244	1 C	SP13027	円	24.0	−	−	11.1	黄褐色(10YR5/8)シルト	須恵器	○	−	SB1303
245	1 C	SP13028	円	25.0	−	−	12.6	暗褐色(10YR3/4)粗粘質土	土師器(皿)	−	−	SB1303
246	1 C	SP13029	楕円	−	32.0	25.0	19.7	にぶい黄褐色(10YR4/3)粗粘質土	土師器	−	−	−
247	1 C	SP13030	楕円	−	38.0	33.0	23.5	明黄褐色(10YR6/8)細粘質土	−	−	−	−
248	1 C	SP13031	楕円	−	37.0	34.0	18.5	褐色(10YR4/4)粗砂質土	土師器(皿80・杯)	−	中世	−
249	1 C	SP13032	円	28.0	−	−	10.2	暗褐色(10YR3/4)粗砂質土	−	−	−	−
250	1 C	SP13033	円	20.0	−	−	14.5	黄褐色(10YR5/6)粘質土	−	−	−	−
251	1 C	SP13034	楕円	−	29.0	22.0	8.1	褐色(10YR4/6)粗砂質土	−	−	−	−
252	1 C	SP13035	円	13.0	−	−	8.6	暗褐色(10YR3/3)粗砂質土	−	−	−	−
253	1 C	SP13036	円	30.0	−	−	20.0	暗褐色(10YR3/3)粗粘質土	土師器(皿)	−	中世	−
254	1 C	SP13037	円	35.0	−	−	15.3	褐色(10YR4/4)粗粘質土	−	−	−	−
255	1 C	SP13038	円	24.0	−	−	8.0	明黄褐色(10YR6/8)シルト	−	−	−	−
256	1 C	SP13039	円	20.0	−	−	2.4	褐色(10YR4/6)粗砂質土	−	−	−	−
257	1 C	SP13040	楕円	−	20.0	15.0	5.1	褐色(10YR4/6)粗砂質土	−	−	−	−
258	1 C	SP13041	円	21.0	−	−	15.0	褐色(10YR4/6)砂質土	−	−	−	−
259	1 C	SP13042	円	27.0	−	−	19.8	暗褐色(10YR3/4)細粘質土	−	−	−	−
260	1 C	SP13043	円	10.0	−	−	6.3	オリーブ褐色(2.5Y4/6)粘質土	−	−	−	杭穴
261	1 C	SP13044	円	20.0	−	−	22.4	オリーブ褐色(2.5Y4/6)粘質シルト	−	−	−	−
262	1 C	SP13045	円	16.0	−	−	7.3	褐色(10YR4/6)シルト	−	−	−	−
263	1 C	SP13046	円	25.0	−	−	10.3	褐色(7.5YR4/3)粗砂質土	−	−	−	−
264	1 C	SP13047	円	22.0	−	−	8.7	暗褐色(7.5YR3/4)粘質土	−	−	−	−
265	1 C	SP13048	楕円	−	34.0	28.0	17.6	褐色(10YR4/6)粗粘質土	−	−	−	−
266	1 C	SP13049	円	30.0	−	−	22.1	にぶい黄褐色(10YR4/3)粘質土	土師器(杯)	−	中世	−
267	1 C	SP13050	円	14.0	−	−	3.9	−	土師器(皿)	−	−	完掘
268	1 C	SP13051	円	23.0	−	−	12.7	褐色(10YR4/4)風化土	−	−	−	−
269	1 C	SP13052	円	27.0	−	−	25.7	にぶい黄褐色(10YR4/3)細粘質土	−	−	−	−
270	1 C	SP13053	円	23.0	−	−	27.8	にぶい黄褐色(10YR4/3)粗粘質土	−	−	−	−
271	1 C	SP13054	円	17.0	−	−	8.5	暗褐色(10YR3/4)粗粘質土	−	−	−	−
272	1 C	SP13055	円	11.0	−	−	9.4	暗褐色(10YR3/3)粗粘質土	−	−	−	−
273	1 C	SP13056	円	11.0	−	−	5.0	にぶい黄褐色(10YR4/3)粘質土	−	−	−	−
274	1 C	SP13057	円	23.0	−	−	4.8	黒褐色(7.5YR3/2)粘砂質土	−	−	−	−
275	1 C	SP13058	円	34.0	−	−	18.4	暗褐色(10YR3/4)粘砂質土	−	−	−	−
276	1 C	SP13059	楕円	−	22.0	14.0	11.5	暗褐色(10YR3/4)シルト	−	−	−	−
277	1 C	SP13060	円	22.0	−	−	17.3	暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)砂質土	土師器(杯)	−	中世	−
278	1 C	SP13061	円	17.0	−	−	7.5	褐色(10YR4/6)粘砂質土	−	−	−	SB1305
279	1 C	SP13062	円	18.0	−	−	17.1	褐色(10YR4/6)粗砂質土	−	−	−	SB1305
280	1 C	SP13063	楕円	−	51.0	29.0	15.0	暗褐色(10YR3/4)粘砂質土	土師器	−	中世	SB1305
281	1 C	SP13064	円	17.0	−	−	7.4	褐色(10YR4/6)粘質土	−	−	−	SB1305
282	1 C	SP13065	円	27.0	−	−	5.8	オリーブ褐色(2.5Y4/6)細砂質土	−	−	−	SB1304
283	1 C	SP13066	円	20.0	−	−	4.1	褐色(10YR4/6)粗砂質土	−	−	−	SB1304
284	1 C	SP13067	円	30.0	−	−	5.8	暗褐色(10YR3/4)粗砂質土	−	−	−	SB1304

※番号は報告書掲載の遺物番号

番号	地区	遺構番号	平面形	柱掘方 規模(cm) 直径	長径	短径	深さ	埋土	※出土遺物	柱抜跡	時代	備考
285	1 C	SP13068	楕円	−	20.0	15.0	5.6	オリーブ褐色(2.5Y4/6)砂質土	−	−	−	SB1304
286	1 C	SP13069	円	17.0	−	−	2.3	褐色(10YR4/4)砂質土	−	−	−	SB1304
287	1 C	SP13070	楕円	−	35.0	26.0	12.1	褐色(10YR4/4)礫砂質土	土師器	−	−	SB1304
288	1 C	SP13071	円	40.0	−	−	7.7	暗褐色(10YR3/4)砂質土	−	−	−	−
289	1 C	SP13072	円	30.0	−	−	6.8	褐色(10YR4/6)粗砂質土	−	−	−	−
290	1 C	SP13073	楕円	−	30.0	23.0	9.5	褐色(10YR4/4)砂質土	−	−	−	−
291	1 C	SP13074	楕円	−	21.0	14.0	4.1	暗褐色(10YR3/4)粗砂質土	−	−	−	−
292	1 C	SP13075	円	16.0	−	−	5.3	褐色(10YR4/4)粗砂質土	土師器(杯)	−	中世	−
293	1 C	SP13076	円	25.0	−	−	4.4	オリーブ褐色(2.5Y4/6)砂質土	−	−	−	−
294	1 C	SP13077	円	18.0	−	−	5.1	にぶい黄褐色(10YR4/3)礫砂質土	−	−	−	−
295	1 C	SP13078	円	45.0	−	−	15.0	褐色(10YR4/6)粗砂質土	−	−	−	−
296	1 C	SP13079	円	22.0	−	−	8.4	黒褐色(10YR3/2)砂質土	−	−	−	−
297	1 C	SP13080	円	17.0	−	−	2.2	暗褐色(10YR3/4)粘砂質土	−	−	−	−
298	1 C	SP13081	円	24.0	−	−	4.3	褐色(10YR4/4)粗砂質土	−	−	−	−
299	1 C	SP13082	円	13.0	−	−	3.2	−	−	−	−	完掘
300	1 C	SP13083	楕円	−	15.0	10.0	6.1	暗褐色(10YR3/4)粗砂質土	−	−	−	−
301	1 C	SP13084	円	10.0	−	−	7.9	褐色(10YR4/4)粘質土	−	−	−	−
302	1 C	SP13085	楕円	−	36.0	26.0	3.5	黄褐色(10YR5/6)礫砂質土	−	−	−	−
303	1 C	SP13086	円	30.0	−	−	2.9	にぶい黄褐色(10YR5/4)粗砂質土	−	−	−	−
304	1 C	SP13087	楕円	−	20.0	12.0	10.2	褐色(10YR3/4)粗砂質土	−	−	−	−
305	1 C	SP13088	円	14.0	−	−	10.4	−	−	−	−	完掘
306	1 C	SP13089	円	18.0	−	−	16.1	褐色(7.5YR4/4)砂質土	−	−	−	SP13018と切り合い
307	1 C	SP13090	円	22.0	−	−	6.2	褐色(10YR4/6)粗砂質土	−	−	−	−
308	1 C	SP13091	半円	−	30.0	21.0	10.2	−	−	−	−	完掘
309	1 C	SP13092	円	34.0	−	−	12.3	にぶい黄褐色(10YR5/4)礫砂質土	−	−	−	−
310	1 C	SP13093	円	20.0	−	−	8.7	黄褐色(10YR5/6)礫砂質土	−	−	−	−
311	1 C	SP13094	円	22.0	−	−	5.1	黄褐色(10YR5/6)礫砂質土	−	−	−	−
312	1 C	SP13095	円	20.0	−	−	3.0	暗褐色(7.5YR3/4)砂質土	−	−	−	−
313	1 C	SP13096	円	18.0	−	−	9.7	−	−	−	−	完掘
314	1 D	SP14001	楕円	−	20.0	13.0	7.5	褐色(10YR4/6)粘質土	−	−	−	−
315	1 D	SP14002	円	45.0	−	−	6.5	褐色(10YR4/4)粘質土	−	−	−	−
316	1 D	SP14003	楕円	−	50.0	35.0	8.9	褐色(10YR4/4)粘質土	−	−	−	−
317	1 D	SP14004	半円	−	20.0	10.0	13.0	褐色(10YR4/4)粗砂質土	−	−	−	半分調査区外
318	2 A	SP21001	楕円	−	35.0	28.0	22.5	にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土	土師器	−	中世	−
319	2 A	SP21002	円	14.0	−	−	19.5	褐色(7.5YR4/4)粘質土	−	−	−	−
320	2 A	SP21003	円	35.0	−	−	17.9	褐色(10YR4/4)粘砂質土	−	−	−	−
321	2 A	SP21004	円	45.0	−	−	41.2	暗褐色(10YR3/3)粘砂質土	土師器、石器(149)	−	中世	−
322	2 A	SP21005	楕円	−	35.0	30.0	11.1	にぶい黄褐色(10YR5/4)粘砂質土	−	−	−	−
323	2 A	SP21006	円	35.0	−	−	7.2	暗褐色(10YR3/4)礫砂質土	−	−	−	−
324	2 A	SP21007	円	22.0	−	−	18.3	−	−	−	−	完掘
325	2 A	SP21008	円	29.0	−	−	13.7	暗褐色(10YR3/4)礫砂質土	−	−	−	−
326	2 A	SP21009	円	25.0	−	−	11.1	褐色(7.5YR4/3)礫砂質土	−	−	−	−
327	2 A	SP21010	円	45.0	−	−	26.4	暗褐色(10YR3/4)粘砂質土	土師器	−	中世	−
328	2 A	SP21011	円	30.0	−	−	27.1	暗褐色(10YR3/4)粘砂質土	−	−	−	−
329	2 A	SP21012	円	22.0	−	−	31.5	暗褐色(10YR3/4)粘質土	土師器、石錘(153)	−	中世	−
330	2 A	SP21013	楕円	−	34.0	28.0	42.0	褐色(10YR4/6)砂質土	土師器(皿92・杯93)	−	中世	−
331	2 A	SP21014	楕円	−	50.0	35.0	34.0	褐色(10YR4/6)粗粘質土	土師器(杯16)	○	中世	SB2101
332	2 A	SP21015	円	26.0	−	−	23.4	褐色(10YR4/4)粘質土	−	−	−	SB2101
333	2 A	SP21016	円	35.0	−	−	8.4	褐色(10YR4/6)砂質土	土師器	−	中世	SB2101
334	2 A	SP21017	円	25.0	−	−	21.3	暗褐色(10YR3/4)砂質土	土師器	−	中世	SB2101
335	2 A	SP21018	円	32.0	−	−	21.2	褐色(7.5YR4/3)粘質土	土師器	○	中世	SB2101
336	2 A	SP21019	円	25.0	−	−	9.7	暗褐色(10YR3/4)炭混粘砂質土	須恵器、土師器	−	−	−
337	2 A	SP21020	円	31.0	−	−	9.9	にぶい黄褐色(10YR4/3)粗砂質土	−	−	−	−
338	2 A	SP21021	円	23.0	−	−	20.1	褐色(10YR4/4)砂質土	土師器(皿17・18・19・杯20)	−	中世	SB2102
339	2 A	SP21022	円	26.0	−	−	35.1	暗褐色(10YR3/4)礫砂質土	土師器	−	中世	SB2102
340	2 A	SP21023	円	26.0	−	−	11.6	暗褐色(10YR3/4)粘質土	土師器(杯)	−	中世	SB2102
341	2 A	SP21024	円	28.0	−	−	37.9	暗褐色(10YR3/4)砂質土	土師器	−	中世	SB2102
342	2 A	SP21025	楕円	−	33.0	26.0	7.0	褐色(10YR4/4)礫砂質土	土師器	−	中世	SB2102
343	2 A	SP21026	円	31.0	−	−	7.5	褐色(7.5YR4/3)砂質土	−	−	−	−
344	2 A	SP21027	円	16.0	−	−	6.7	暗褐色(7.5YR3/4)礫砂質土	−	−	−	−
345	2 A	SP21028	楕円	−	31.0	26.0	16.9	暗褐色(10YR3/4)礫砂質土	土師器(皿117・杯)、青磁(椀118)	−	中世	−
346	2 A	SP21029	円	26.0	−	−	31.1	暗褐色(10YR3/4)礫砂質土	土師器(杯)	−	中世	−
347	2 A	SP21030	円	31.0	−	−	28.0	褐色(10YR4/4)砂質土	土師器	−	中世	−
348	2 A	SP21031	楕円	−	35.0	27.0	28.0	褐色(10YR4/6)礫粘砂質土	土師器(皿26・杯27)、白磁	−	中世	SB2104
349	2 A	SP21032	円	30.0	−	−	22.6	暗褐色(7.5YR3/3)粘砂質土	土師器(皿25・杯)	−	中世	SB2104
350	2 A	SP21033	円	30.0	−	−	30.2	暗褐色(10YR3/3)粘質土	土師器	−	中世	SB2104
351	2 A	SP21034	円	25.0	−	−	11.5	褐色(10YR4/6)砂質土	土師器	−	中世	−
352	2 A	SP21035	円	27.0	−	−	7.7	褐色(10YR4/4)シルト	土師器(杯)	−	中世	−
353	2 A	SP21036	円	20.0	−	−	17.6	暗褐色(10YR3/4)粘質土	−	−	−	−
354	2 A	SP21037	円	31.0	−	−	26.9	暗褐色(10YR3/3)砂質土	土師器(皿84・85)	−	中世	−
355	2 A	SP21038	円	25.0	−	−	6.0	暗褐色(10YR3/4)礫粘質土	土師器	−	中世	−
356	2 A	SP21039	円	31.0	−	−	29.5	暗褐色(7.5YR4/4)礫粘質土	−	−	−	−
357	2 A	SP21040	楕円	−	41.0	24.0	9.9	暗褐色(10YR3/3)砂質土	土師器	−	中世	−

※番号は報告書掲載の遺物番号

番号	地区	遺構番号	柱掘方 平面形	規模(cm) 直径	長径	短径	深さ	埋土	出土遺物	柱痕跡	時代	備考
358	2 A	SP21041	円	26.0	−	−	28.8	暗褐色(10YR3/3)砂質土	土師器	−	中世	−
359	2 A	SP21042	楕円	−	35.0	25.0	20.0	暗褐色(10YR3/4)粘質土	土師器(杯)	−	中世	−
360	2 A	SP21043	楕円	−	40.0	22.0	11.0	にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土	土師器	−	中世	−
361	2 A	SP21044	円	34.0	−	−	31.2	褐色(10YR4/4)粘砂質土	土師器	−	中世	−
362	2 A	SP21045	円	30.0	−	−	7.0	暗褐色(10YR3/4)細砂質土	土師器	−	中世	−
363	2 A	SP21046	円	35.0	−	−	23.8	褐色(10YR4/4)粘質土	−	−	−	−
364	2 A	SP21047	円	25.0	−	−	17.5	褐色(10YR4/4)細砂質土	−	−	−	−
365	2 A	SP21048	円	15.0	−	−	3.8	暗褐色(10YR3/4)粘質土	−	−	−	−
366	2 A	SP21049	円	25.0	−	−	14.6	暗褐色(10YR3/4)粘質土	土師器	−	中世	−
367	2 A	SP21050	楕円	−	19.0	14.0	27.5	暗褐色(10YR3/4)細粘砂質土	土師器(皿123)	−	中世	−
368	2 A	SP21051	円	30.0	−	−	11.6	暗褐色(10YR3/4)細砂質土	−	−	−	−
369	2 A	SP21052	円	24.0	−	−	26.3	暗褐色(10YR3/4)細粘質土	土師器(杯)	−	中世	−
370	2 A	SP21053	楕円	−	38.0	30.0	37.3	暗褐色(10YR3/4)細粘質土	土師器	−	中世	−
371	2 A	SP21054	楕円	−	31.0	22.0	14.8	暗褐色(10YR3/4)細粘質土	土師器	−	中世	−
372	2 A	SP21055	円	30.0	−	−	22.7	暗褐色(10YR3/4)粘質土	−	−	−	−
373	2 A	SP21056	円	34.0	−	−	28.7	暗褐色(10YR3/3)粘質土	須恵器、土師器	−	中世	−
374	2 A	SP21057	楕円	−	37.0	29.0	24.4	にぶい黄褐色(10YR4/3)粘質土	土師器(杯)	−	中世	SB2103
375	2 A	SP21058	楕円	−	35.0	30.0	37.0	暗褐色(10YR3/4)砂質土	土師器(杯C2?-鍋25-24)	−	中世	SB2103
376	2 A	SP21059	円	(20.0)	−	−	−	−	−	−	−	SB2103
377	2 A	SP21060	円	34.0	−	−	22.5	褐色(10YR4/6)粘質土	土師器	○	−	SB2103
378	2 A	SP21061	円	22.0	−	−	11.7	褐色(10YR4/4)砂質土	土師器(杯)	−	中世	SB2103
379	2 A	SP21062	円	28.0	−	−	26.7	褐色(10YR4/4)粘質土	土師器(杯C21)	○	中世	SB2103
380	2 A	SP21063	円	33.0	−	−	39.3	にぶい黄褐色(10YR4/3)粘砂質土	土師器(鍋・杯)	−	中世	SB2103
381	2 A	SP21064	楕円	−	47.0	38.0	40.3	褐色(10YR4/4)細砂質土	−	−	−	SB2103
382	2 A	SP21065	円	24.0	−	−	30.7	暗褐色(10YR3/4)粘質土	土師器	−	中世	SB2106
383	2 A	SP21066	楕円	−	31.0	23.0	27.5	褐色(10YR4/6)粘質土	土師器	−	中世	SB2106
384	2 A	SP21067	円	(25.0)	−	−	28.1	にぶい黄褐色(10YR5/4)細砂質土	−	−	−	SB2106
385	2 A	SP21068	楕円	−	45.0	32.0	29.5	褐色(10YR4/4)粘砂質土	土師器	○	中世	SB2106
386	2 A	SP21069	楕円	−	23.0	16.0	18.1	褐色(10YR4/6)砂質土	−	−	−	SB2106
387	2 A	SP21070	楕円	−	40.0	36.0	23.8	暗褐色(10YR3/4)細砂質土	土師器(鍋29)	−	中世	SB2106
388	2 A	SP21071	円	25.0	−	−	19.4	にぶい黄褐色(10YR4/3)細砂質土	−	−	−	SB2106
389	2 A	SP21072	楕円	−	30.0	23.0	21.5	褐色(7.5YR4/3)粘質土	−	○	−	SB2106
390	2 A	SP21073	楕円	−	33.0	21.0	15.8	にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト	土師器、石錘(151)	−	中世	SB2106
391	2 A	SP21074	円	25.0	−	−	12.4	暗褐色(7.5YR3/4)細砂質土	土師器	−	中世	−
392	2 A	SP21075	円	(28.0)	−	−	13.6	暗褐色(10YR3/4)砂質土	土師器(鍋108・杯)、中世須恵器(鉢107)	−	中世	−
393	2 A	SP21076	円	(35.0)	−	−	37.5	暗褐色(10YR3/4)砂質土	−	−	−	−
394	2 A	SP21077	円	(32.0)	−	−	11.7	暗褐色(10YR3/4)砂質土	土師器	−	中世	−
395	2 A	SP21078	円	30.0	−	−	18.9	にぶい黄褐色(10YR4/3)粘砂質土	土師器	−	中世	−
396	2 A	SP21079	円	28.0	−	−	19.5	暗褐色(10YR3/4)砂質土	土師器(皿103・鍋104・105・106・杯)	−	中世	土師器鍋(104)炭化物(試料4)放射性炭素年代測定では、13世紀前葉～中葉
397	2 A	SP21080	円	25.0	−	−	27.2	暗褐色(10YR3/4)粘質土	土師器(杯)	−	中世	−
398	2 A	SP21081	円	28.0	−	−	30.7	暗褐色(10YR3/4)細粘砂質土	土師器(杯・鍋133)	−	中世	−
399	2 A	SP21082	楕円	−	31.0	26.0	31.8	暗褐色(10YR3/4)粘質土	土師器(杯)、紡石(154)	−	中世	−
400	2 A	SP21083	円	15.0	−	−	24.8	褐色(7.5YR4/4)シルト	土師器(椀・皿)	−	中世	−
401	2 A	SP21084	円	30.0	−	−	22.7	褐色(10YR4/6)細粘質土	土師器	−	中世	−
402	2 A	SP21085	楕円	−	50.0	30.0	13.1	暗褐色(10YR3/4)粘質土	土師器(杯)	−	中世	−
403	2 A	SP21086	円	(33.0)	−	−	31.5	暗褐色(10YR3/4)細粘砂質土	土師器(皿・杯・鉢)、製塩土器	−	中世	−
404	2 A	SP21087	楕円	−	40.0	30.0	42.2	褐色(10YR4/6)シルト	土師器(杯・鍋)	−	中世	−
405	2 A	SP21088	楕円	−	37.0	33.0	26.1	暗褐色(10YR3/4)細粘質土	土師器(杯94・96)	−	中世	−
406	2 A	SP21089	楕円	−	35.0	26.0	40.6	暗褐色(10YR3/4)細粘砂質土	土師器(杯)	−	中世	−
407	2 A	SP21090	楕円	−	(30.0)	(29.0)	12.1	−	−	−	−	−
408	2 A	SP21091	円	28.0	−	−	29.2	暗褐色(10YR3/4)粘質土	土師器(杯)	−	中世	−
409	2 A	SP21092	円	14.0	−	−	7.2	−	−	−	−	完掘
410	2 A	SP21093	(楕円)	−	36.0	(20.0)	13.7	褐色(10YR4/6)粘質土	土師器	−	中世	完掘
411	2 A	SP21094	円	22.0	−	−	14.5	褐色(10YR4/4)砂質土	−	−	−	一部調査区外
412	2 A	SP21095	楕円	−	20.0	16.0	10.5	暗褐色(10YR3/4)粘質土	−	−	−	−
413	2 A	SP21096	(楕円)	−	35.0	20.0	13.4	−	−	−	−	完掘
414	2 A	SP21097	楕円	−	38.0	25.0	19.7	暗褐色(10YR3/4)砂質土	土師器(杯)	−	中世	−
415	2 A	SP21098	円	18.0	−	−	15.2	−	−	−	−	完掘
416	2 A	SP21099	円	20.0	−	−	34.1	暗褐色(10YR3/4)シルト	土師器(皿)	−	中世	−
417	2 A	SP21100	円	15.0	−	−	7.5	褐色(10YR4/4)細砂質土	−	−	−	−
418	2 A	SP21101	楕円	−	32.0	27.0	49.2	暗褐色(7.5YR3/4)粘質土	土師器(鍋)	−	中世	SB2105
419	2 A	SP21102	円	(27.0)	−	−	28.3	暗褐色(10YR4/6)細粘質土	土師器(椀28・杯)	○	中世	SB2105
420	2 A	SP21103	円	40.0	−	−	25.8	暗褐色(10YR4/6)細粘質土	土師器	○	中世	SB2105
421	2 A	SP21104	楕円	−	46.0	32.0	−	褐色(10YR4/4)粘砂質土	土師器(皿122・杯)、黒曜石剥片	○	中世	−
422	2 A	SP21105	楕円	−	29.0	20.0	−	暗褐色(10YR3/4)細砂質土	土師器(椀127)	−	中世	−
423	2 A	SP21106	楕円	−	(40.0)	(33.0)	−	暗褐色(10YR3/4)粘質土	土師器(皿・杯96・97)	−	中世	−
424	2 A	SP21107	円	(30.0)	−	−	−	暗褐色(10YR3/4)細砂質土	土師器	−	中世	−

※番号は報告書掲載の遺物番号

番号	地区	遺構番号	柱掘方 平面形	規模(cm) 直径	長径	短径	深さ	埋土	※出土遺物	柱抜跡	時代	備考
425	2 A	SP21108	円	27.0	−	−	−	褐色(10YR4/4)細粘質土	土師器	−	中世	−
426	2 A	SP21109	円	25.0	−	−	−	暗褐色(10YR3/4)細粘砂質土	土師器(杯・鍋)	−	中世	−
427	2 A	SP21110	円	27.0	−	−	−	−	−	−	−	完掘
428	2 A	SP21111	円	10.0	−	−	12.1	−	−	−	−	完掘 抜穴
429	2 A	SP21112	−	−	−	−	−	−	−	○	−	SB2107 柱穴密集による切り合いで掘方不明瞭
430	2 A	SP21113	円	20.0	−	−	41.8	黒褐色(10YR2/3)細粘質土	土師器(杯31)	−	中世	SB2107
431	2 A	SP21114	円	48.0	−	−	18.0	褐色(10YR4/6)細粘砂質土	土師器(皿)	○	中世	SB2107
432	2 A	SP21115	楕円	−	34.0	27.0	18.0	褐色(10YR4/4)細粘質土	−	○	−	SB2107
433	2 A	SP21116	円	40.0	−	−	15.6	黄褐色(10YR5/6)細砂質土	−	○	−	SB2107
434	2 A	SP21117	円	22.0	−	−	13.1	褐色(10YR4/4)シルト	土師器、青磁(椀30)	−	中世	SB2107
435	2 A	SP21118	円	43.0	−	−	8.5	褐色(10YR4/6)粘質土	−	○	−	SB2107
436	2 A	SP21119	円	25.0	−	−	15.5	暗褐色(10YR3/4)砂質土	土師器	−	中世	−
437	2 A	SP21120	円	23.0	−	−	23.7	褐色(10YR4/4)細粘質土	−	−	−	−
438	2 A	SP21121	円	18.0	−	−	33.5	褐色(10YR4/4)シルト	−	−	−	−
439	2 A	SP21122	円	14.0	−	−	17.1	褐色(10YR4/6)粘質土	土師器(杯128)	−	中世	−
440	2 A	SP21123	円	21.0	−	−	39.6	暗褐色(10YR3/4)シルト	土師器	−	中世	−
441	2 A	SP21124	円	34.0	−	−	25.2	褐色(10YR4/6)細粘砂質土	土師器	−	中世	−
442	2 A	SP21125	円	12.0	−	−	13.8	−	−	−	−	完掘 抜穴
443	2 A	SP21126	円	13.0	−	−	11.9	−	土師器	−	中世	完掘 抜穴
444	2 A	SP21127	円	15.0	−	−	6.3	−	−	−	−	完掘
445	2 A	SP21128	楕円	−	35.0	29.0	31.4	にぶい黄褐色(10YR4/3)粘質土	青磁(椀134)	−	中世	−
446	2 A	SP21129	円	20.0	−	−	16.9	褐色(10YR4/6)砂質土	−	−	−	−
447	2 A	SP21130	円	31.0	−	−	22.0	褐色(10YR4/4)砂質土	土師器(皿121)	−	中世	−
448	2 A	SP21131	円	30.0	−	−	17.3	褐色(10YR4/4)粗砂質土	−	−	−	−
449	2 A	SP21132	円	30.0	−	−	19.8	暗褐色(10YR3/4)細砂質土	−	−	−	−
450	2 A	SP21133	円	23.0	−	−	20.4	暗褐色(7.5YR3/4)細砂質土	−	−	−	−
451	2 A	SP21134	円	20.0	−	−	9.2	にぶい黄褐色(10YR4/3)粘砂質土	土師器	−	中世	−
452	2 A	SP21135	円	34.0	−	−	30.5	−	土師器(杯)	−	中世	完掘
453	2 A	SP21136	円	37.0	−	−	19.9	褐色(10YR4/6)砂質土	土師器	−	中世	−
454	2 A	SP21137	円	20.0	−	−	9.4	褐色(10YR4/4)シルト	−	−	−	−
455	2 A	SP21138	円	14.0	−	−	6.9	褐色(10YR4/6)シルト	−	−	−	−
456	2 A	SP21139	楕円	−	31.0	23.0	5.1	黄褐色(10YR5/6)シルト	−	−	−	−
457	2 A	SP21140	楕円	−	44.0	17.0	38.5	−	−	−	−	完掘
458	2 A	SP21141	円	12.0	−	−	25.4	−	−	−	−	完掘
459	2 A	SP21142	(楕円)	−	47.0	33.0	31.8	にぶい黄褐色(10YR4/3)粗粘砂質	土師器(杯)	−	中世	−
460	2 A	SP21143	楕円	−	9.0	6.0	4.6	−	黒曜石剥片	−	−	完掘
461	2 A	SP21144	円	25.0	−	−	22.2	暗褐色(10YR3/3)粗粘質土	土師器(杯129)	−	中世	−
462	2 A	SP21145	円	30.0	−	−	42.9	暗褐色(10YR3/4)粘砂質土	土師器(鍋・杯)、青磁	−	中世	SB2108
463	2 A	SP21146	円	34.0	−	−	38.1	にぶい黄褐色(10YR4/3)細粘質土	−	−	−	SB2108
464	2 A	SP21147	楕円	−	40.0	34.0	11.0	褐色(10YR4/6)細粘質土	土師器(皿90・杯91)、中世須恵器	−	中世	SB2108
465	2 A	SP21148	楕円	−	50.0	41.0	47.4	暗褐色(10YR3/4)砂質土	土師器	−	中世	SB2108
466	2 A	SP21149	楕円	−	60.0	34.0	45.1	暗褐色(10YR3/4)細砂質土	土師器(鍋)	−	中世	SB2108
467	2 A	SP21150	円	31.0	−	−	23.3	褐色(10YR4/4)粘砂質土	−	−	−	SB2108
468	2 A	SP21151	円	(38.0)	−	−	48.3	褐色(10YR4/4)シルト	土師器	−	中世	SB2108
469	2 A	SP21152	円	(45.0)	−	−	46.6	にぶい黄褐色(10YR4/3)粗粘質土	須恵器、土師器(杯)、石鍋(152)	−	中世	−
470	2 A	SP21153	円	(50.0)	−	−	43.6	暗褐色(10YR3/3)粘砂質土	−	−	−	−
471	2 A	SP21154	円	20.0	−	−	28.5	にぶい黄褐色(10YR4/3)粗砂質土	土師器(皿)	−	中世	−
472	2 A	SP21155	楕円	−	28.0	22.0	35.7	褐色(10YR4/4)細粘質土	土師器	−	中世	−
473	2 A	SP21156	円	10.0	−	−	10.9	−	−	−	−	完掘 抜穴
474	2 A	SP21157	楕円	−	24.0	17.0	34.3	にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土	土師器	−	中世	−
475	2 A	SP21158	半円	(17.0)	−	−	7.3	褐灰色(10YR4/1)シルト	−	−	−	完掘
476	2 A	SP21159	円	26.0	−	−	23.0	褐色(10YR4/4)粘砂質土	土師器	−	中世	−
477	2 A	SP21160	円	17.0	−	−	34.2	−	土師器(皿・杯)	−	中世	完掘
478	2 A	SP21161	円	20.0	−	−	16.4	褐色(10YR4/4)粘砂質土	土師器	−	中世	−
479	2 A	SP21162	円	10.0	−	−	12.3	−	−	−	−	完掘 抜穴
480	2 A	SP21163	円	10.0	−	−	11.8	−	−	−	−	完掘 抜穴
481	2 A	SP21164	楕円	−	12.0	9.0	16.6	−	土師器(皿)	−	中世	完掘 抜穴
482	2 A	SP21165	円	8.0	−	−	14.4	−	土師器(杯)	−	中世	完掘 抜穴
483	2 A	SP21166	円	11.0	−	−	22.1	−	土師器	−	中世	完掘 抜穴
484	2 A	SP21167	楕円	−	14.0	6.0	14.9	−	土師器	−	中世	完掘 抜穴
485	2 A	SP21168	楕円	−	10.0	6.0	7.3	−	−	−	−	完掘 抜穴

※番号は報告書掲載の遺物番号

番号	地区	遺構番号	柱掘方 平面形	規模(cm) 直径	長径	短径	深さ	埋土	出土遺物	柱痕跡	時代	備考
486	2A	SP21169	楕円	−	9.0	5.0	14.3	−	−	−	−	完掘 柱穴
487	2A	SP21170	円	10.0	−	−	12.6	−	−	−	−	完掘 柱穴
488	2A	SP21171	円	6.0	−	−	6.5	−	−	−	−	完掘 柱穴
489	2A	SP21172	円	8.0	−	−	13.5	−	−	−	−	完掘 柱穴
490	2A	SP21173	楕円	−	18.0	13.0	10.2	褐色(10YR4/6)細砂質土	−	−	−	−
491	2A	SP21174	円	30.0	−	−	29.9	褐色(10YR4/4)細砂質土	土師器(皿・杯)	−	中世	−
492	2A	SP21175	円	8.0	−	−	9.2	−	−	−	−	完掘 柱穴
493	2A	SP21176	円	27.0	−	−	24.0	暗褐色(10YR3/4)粘砂質土	土師器	−	中世	−
494	2A	SP21177	円	32.0	−	−	43.6	にぶい黄褐色(10YR4/3)粘質土	土師器(皿・杯)	−	中世	−
495	2A	SP21178	円	33.0	−	−	43.1	にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土	須恵器、土師器(皿)	−	中世	−
496	2A	SP21179	円	40.0	−	−	27.4	にぶい黄褐色(10YR4/3)粘質土	土師器(椀)、石鍋	−	中世	−
497	2A	SP21180	円	10.0	−	−	15.7	−	−	−	−	完掘 柱穴
498	2A	SP21181	円	28.0	−	−	28.8	褐色(7.5YR4/6)細砂質土	土師器	−	中世	−
499	2A	SP21182	円	10.0	−	−	10.3	−	土師器	−	中世	完掘 柱穴
500	2A	SP21183	円	33.0	−	−	30.0	褐色(10YR4/4)砂質土	土師器(皿88・杯89)	−	中世	−
501	2A	SP21184	(円)	23.0	−	−	23.2	−	−	−	−	完掘
502	2A	SP21185	円	11.0	−	−	17.2	−	土師器	−	中世	完掘 柱穴
503	2A	SP21186	楕円	−	35.0	28.0	28.3	暗褐色(10YR3/4)粘質土	土師器(皿86・杯87)	−	中世	−
504	2A	SP21187	楕円	−	40.0	33.0	37.7	にぶい黄褐色(10YR4/3)粗砂質土	土師器、硯石	−	中世	−
505	2A	SP21188	楕円	−	34.0	25.0	39.8	にぶい黄褐色(10YR4/3)粗粘質土	土師器	−	中世	−
506	2A	SP21189	円	21.0	−	−	24.3	暗褐色(10YR3/4)粘砂質土	−	−	−	−
507	2A	SP21190	楕円	−	46.0	30.0	30.5	にぶい黄褐色(10YR4/3)細粘質土	土師器、石器	−	中世	黒曜石剥片(姫島産)
508	2A	SP21191	楕円	−	20.0	16.0	19.9	褐色(10YR4/4)砂質土	−	−	−	−
509	2A	SP21192	円	15.0	−	−	21.3	−	土師器	−	中世	完掘
510	2A	SP21193	円	14.0	−	−	7.6	−	−	−	−	完掘 柱穴
511	2A	SP21194	円	10.0	−	−	5.2	−	−	−	−	完掘 柱穴
512	2A	SP21195	円	18.0	−	−	22.0	−	−	−	−	完掘
513	2A	SP21196	円	10.0	−	−	8.5	−	−	−	−	完掘 柱穴
514	2A	SP21197	円	12.0	−	−	4.0	−	−	−	−	完掘 柱穴
515	2A	SP21198	楕円	−	30.0	26.0	5.5	褐色(10YR4/4)細粘質土	−	−	−	−
516	2A	SP21199	楕円	−	15.0	12.0	10.8	−	−	−	−	完掘
517	2A	SP21200	円	14.0	−	−	22.6	−	土師器	−	中世	完掘
518	2A	SP21201	円	15.0	−	−	23.4	−	−	−	−	完掘
519	2A	SP21202	円	23.0	−	−	16.5	褐色(10YR4/6)砂質土	−	−	−	−
520	2A	SP21203	円	15.0	−	−	14.0	−	−	−	−	完掘
521	2A	SP21204	円	10.0	−	−	5.4	−	−	−	−	完掘 柱穴
522	2A	SP21205	円	26.0	−	−	22.6	暗褐色(10YR3/3)細粘砂質土	土師器(杯)	−	中世	−
523	2A	SP21206	楕円	−	22.0	18.0	27.1	−	土師器	−	中世	完掘
524	2A	SP21207	円	28.0	−	−	19.9	にぶい黄褐色(10YR4/3)粘砂質土	土師器	−	中世	−
525	2A	SP21208	円	25.0	−	−	36.6	にぶい黄褐色(10YR4/3)細粘砂質土	土師器(杯)	−	中世	−
526	2A	SP21209	円	23.0	−	−	24.8	−	土師器	−	中世	完掘
527	2A	SP21210	楕円	−	(35.0)	25.0	15.7	暗褐色(10YR3/3)粘砂質土	−	−	−	−
528	2A	SP21211	不整	−	45.0	44.0	44.5	にぶい黄褐色(10YR4/3)粘質土混砂質土	土師器(皿109・110・鍋111)、白磁(椀112)	−	中世	−
529	2A	SP21212	楕円	−	37.0	27.0	41.1	褐色(10YR4/6)シルト	土師器(皿・杯)	−	中世	−
530	2A	SP21213	(楕円)	−	(35.0)	25.0	41.5	−	土師器	−	中世	完掘
531	2A	SP21214	円	33.0	−	−	17.0	暗褐色(10YR3/4)細粘質土	−	−	−	−
532	2A	SP21215	円	25.0	−	−	33.4	−	土師器	−	中世	完掘
533	2A	SP21216	楕円	−	35.0	20.0	36.6	にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト	土師器(杯・鍋)	−	中世	−
534	2A	SP21217	楕円	−	32.0	24.0	42.2	暗褐色(7.5YR3/4)礫混砂質土	土師器	−	中世	−
535	2A	SP21218	楕円	−	30.0	21.0	44.7	暗褐色(10YR3/4)粘質土	−	−	−	−
536	2A	SP21219	円	18.0	−	−	7.1	−	−	−	−	完掘
537	2A	SP21220	楕円	−	30.0	23.0	28.5	暗褐色(10YR3/3)礫混粘質土	−	−	−	SB2110
538	2A	SP21221	円	26.0	−	−	29.9	灰黄褐色(10YR4/2)砂質土	土師器(杯)	−	中世	SB2110
539	2A	SP21222	円	28.0	−	−	34.6	褐色(10YR4/4)細砂質土	土師器(杯)	−	中世	SB2110
540	2A	SP21223	円	(43.0)	−	−	34.6	暗褐色(10YR3/3)礫混粘質土	土師器	−	中世	SB2110
541	2A	SP21224	円	36.0	−	−	16.9	褐色(10YR4/6)真砂混砂質土	−	−	−	SB2110
542	2A	SP21225	円	22.0	−	−	26.9	褐色(10YR4/4)粗粘質土	土師器(杯34・鍋)	−	中世	SB2110
543	2A	SP21226	円	43.0	−	−	42.3	暗褐色(10YR3/4)礫混粗砂質土	土師器	−	中世	SB2110
544	2A	SP21227	円	26.0	−	−	24.9	にぶい黄褐色(10YR4/3)粗砂質土	土師器(皿32)	−	中世	SB2110
545	2A	SP21228	楕円	−	37.0	(25.0)	26.9	にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土	土師器(皿33)	−	中世	SB2110
546	2A	SP21229	円	(24.0)	−	−	32.3	にぶい黄褐色(10YR4/3)細砂質土	土師器	−	中世	SB2109
547	2A	SP21230	楕円	−	37.0	31.0	33.5	黒褐色(10YR2/3)粗質土	土師器(杯)	−	中世	SB2109
548	2A	SP21231	円	25.0	−	−	10.2	暗褐色(10YR3/4)礫混粗粘砂質土	土師器	−	中世	SB2109

※番号は報告書掲載の遺物番号

番号	地区	遺構番号	柱掘方 平面形	規模(cm) 直径	長径	短径	深さ	埋土	※出土遺物	柱抜跡	時代	備考
549	2 A	SP21232	円	27.0	−	−	29.0	褐色(10YR4/4)粘質土	土師器(椀132)、鉄釘(156)	−	中世	SB2109
550	2 A	SP21233	楕円	−	25.0	20.0	31.1	褐色(7.5YR4/4)粗砂質土	土師器(皿)	−	中世	SB2109
551	2 A	SP21234	円	24.0	−	−	23.3	褐色(10YR4/4)砂質土	−	−	−	SB2109
552	2 A	SP21235	円	20.0	−	−	20.1	−	−	−	−	完掘 柱穴
553	2 A	SP21236	楕円	−	30.0	25.0	32.7	暗褐色(10YR3/4)粘質土	土師器	−	中世	−
554	2 A	SP21237	楕円	−	30.0	25.0	19.0	褐色(10YR4/6)シルト	土師器(皿119・足鍋脚部1)20)	−	中世	−
555	2 A	SP21238	円	23.0	−	−	20.8	褐色(10YR4/4)粘砂質土	土師器(杯)	−	中世	−
556	2 A	SP21239	円	14.0	−	−	6.3	−	−	−	−	完掘
557	2 A	SP21240	円	35.0	−	−	26.8	灰黄褐色(10YR4/2)粘質土	土師器 (杯98・99・100)	−	中世	−
558	2 A	SP21241	円	25.0	−	−	33.0	暗褐色(10YR3/3)粘質土	土師器(杯)、青磁	−	中世	−
559	2 A	SP21242	楕円	−	31.0	22.0	17.4	褐色(10YR4/4)砂質土	−	−	−	−
560	2 A	SP21243	楕円	−	30.0	24.0	25.6	褐色(10YR4/4)砂質土	土師器(皿)	−	中世	−
561	2 A	SP21244	円	9.0	−	−	9.7	−	−	−	−	完掘 柱穴
562	2 A	SP21245	円	22.0	−	−	18.5	−	土師器	−	中世	完掘
563	2 A	SP21246	円	(32.0)	−	−	29.7	−	土師器	−	中世	完掘
564	2 A	SP21247	楕円	−	29.0	25.0	29.2	暗褐色(10YR3/3)砂質土	土師器	−	中世	−
565	2 A	SP21248	楕円	−	26.0	20.0	16.9	褐色(7.5YR4/3)砂質土	−	−	−	−
566	2 A	SP21249	楕円	−	25.0	18.0	17.8	暗褐色(10YR3/3)粘質土	−	−	−	−
567	2 A	SP21250	楕円	−	40.0	30.0	11.3	褐色(10YR4/6)砂質土	土師器	−	中世	−
568	2 A	SP21251	(円)	(30.0)	−	−	27.3	にぶい黄褐色(10YR4/3)粘質土	土師器	−	中世	−
569	2 A	SP21252	楕円	−	40.0	30.0	7.6	褐色(7.5YR4/6)粘質土	土師器	−	中世	−
570	2 A	SP21253	楕円	−	55.0	38.0	12.9	褐色(10YR4/6)細砂質土	土師器(皿・杯)	−	中世	−
571	2 A	SP21254	楕円	−	39.0	27.0	21.6	にぶい黄褐色(10YR4/3)粘質土	−	−	−	−
572	2 A	SP21255	円	10.0	−	−	5.8	−	土師器	−	中世	完掘
573	2 A	SP21256	円	20.0	−	−	7.4	−	−	−	−	完掘
574	2 A	SP21257	円	23.0	−	−	37.6	褐色(10YR4/4)細砂質土	−	−	−	−
575	2 A	SP21258	楕円	−	35.0	30.0	24.1	褐色(10YR4/6)粘質土	−	−	−	−
576	2 A	SP21259	楕円	−	16.0	11.0	10.8	−	−	−	−	完掘
577	2 A	SP21260	楕円	−	47.0	40.0	16.1	−	−	−	−	完掘
578	2 A	SP21261	円	(45.0)	−	−	35.3	暗褐色(10YR3/3)細粘質土	土師器(杯)、青磁(椀135)、中世陶器(甕)	−	中世	−
579	2 A	SP21262	円	(45.0)	−	−	44.8	褐色(10YR4/4)粘質土	−	−	−	−
580	2 A	SP21263	円	26.0	−	−	13.9	褐色(10YR4/6)粘砂質土	−	−	−	−
581	2 A	SP21264	楕円	−	31.0	26.0	16.0	褐色(7.5YR4/3)細砂質土	土師器(皿124)	−	中世	−
582	2 A	SP21265	楕円	−	40.0	21.0	47.3	褐色(10YR4/4)粘質土	土師器(皿125)	−	中世	−
583	2 A	SP21266	円	23.0	−	−	12.3	褐色(10YR4/6)細砂質土	−	−	−	−
584	2 A	SP21267	円	25.0	−	−	31.7	褐色(10YR4/4)粘質土	土師器	−	中世	−
585	2 A	SP21268	円	25.0	−	−	17.5	褐色(7.5YR4/4)細砂質土	−	−	−	−
586	2 A	SP21269	楕円	−	28.0	22.0	27.6	褐色(7.5YR4/4)細砂質土	土師器(鉢)	−	中世	−
587	2 A	SP21270	楕円	−	33.0	28.0	28.1	暗褐色(10YR3/4)粘砂質土	土師器(杯)	−	中世	−
588	2 A	SP21271	円	22.0	−	−	33.9	褐色(10YR4/4)砂質土	−	−	−	−
589	2 A	SP21272	円	28.0	−	−	23.4	−	土師器	−	中世	完掘
590	2 A	SP21273	円	(21.0)	−	−	19.2	−	−	−	−	完掘
591	2 A	SP21274	楕円	−	40.0	24.0	36.8	−	土師器(皿・杯)	−	中世	完掘
592	2 A	SP21275	楕円	−	32.0	27.0	12.1	褐色(10YR4/6)粗砂質土	−	−	−	−
593	2 A	SP21276	楕円	−	42.0	32.0	46.6	暗褐色(10YR3/4)細砂質土	土師器(杯)	−	中世	−
594	2 A	SP21277	楕円	−	40.0	34.0	39.2	褐色(10YR4/4)細砂質土	土師器(皿113・杯114・椀115・鍋)、青磁(椀116)	−	中世	−
595	2 A	SP21278	円	15.0	−	−	23.2	褐色(10YR4/4)真砂混砂質土	土師器	−	中世	−
596	2 A	SP21279	円	24.0	−	−	22.5	−	土師器(椀130・鍋)	−	中世	完掘
597	2 A	SP21280	楕円	−	30.0	(22.0)	28.8	−	−	−	−	完掘
598	2 A	SP21281	楕円	−	44.0	(35.0)	35.6	−	土師器	−	中世	完掘
599	2 A	SP21282	楕円	−	(45.0)	(33.0)	45.9	−	土師器(皿126・杯)	−	中世	完掘
600	2 A	SP21283	円	7.0	−	−	10.3	−	−	−	−	完掘 柱穴
601	2 A	SP21284	円	27.0	−	−	23.1	−	白磁	−	中世	完掘
602	2 A	SP21285	楕円	−	30.0	24.0	10.4	−	−	−	−	完掘
603	2 A	SP21286	円	25.0	−	−	24.8	−	−	−	−	完掘
604	2 A	SP21287	楕円	−	36.0	29.0	28.4	−	土師器	−	中世	完掘
605	2 A	SP21288	円	22.0	−	−	20.2	−	土師器	−	中世	完掘
606	2 A	SP21289	楕円	−	41.0	33.0	37.4	−	土師器(杯・椀131)	−	中世	完掘
607	2 A	SP21290	楕円	−	40.0	25.0	24.6	−	土師器 (杯101・椀102)	−	中世	完掘
608	2 A	SP21291	半円	22.0	−	−	10.4	褐灰色(10YR4/1)シルト	−	−	−	一部調査区外
609	2 A	SP21292	円	11.0	−	−	15.5	−	−	−	−	完掘
610	2 A	SP21293	円	16.0	−	−	5.6	−	−	−	−	完掘
611	2 A	SP21294	円	11.0	−	−	3.4	オリーブ褐色(2.5Y4/4)シルト	−	−	−	SK2107内柱穴
612	2 A	SP21295	円	35.0	−	−	20.9	暗褐色(10YR3/3)粘砂質土	−	−	古墳前期	SI2101内主柱穴
613	2 A	SP21296	円	12.0	−	−	28.8	黒褐色(10YR2/3)砂質土	−	−	−	SK2101内柱穴

Ⅳ　遺物

調査の結果、古墳時代前期、古代（奈良時代末期～平安時代）、中世前期（鎌倉時代～室町時代前期）の各時期の遺構に伴う遺物が出土している。主な遺物の種類としては、弥生土器・土師器・須恵器・製塩土器・輸入磁器（青磁・白磁）、石器・石製品、鉄製品（鉄釘）などがある。

柱穴、溝状遺構ならびに一部の土坑、竪穴建物跡からの出土遺物が大半を占め、出土遺物数は平均的な集落遺跡での出土数に相当する。

なお、各遺物の法量や調整・特徴などについては、章末の遺物観察一覧表に一括して掲載した。

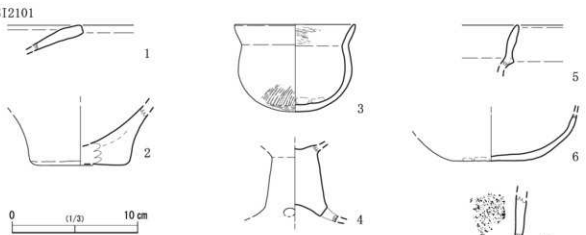
1　土器・陶磁器（第２３～２９図、図版１３～２２）

（1）竪穴建物跡出土遺物（第２３図、図版１３）

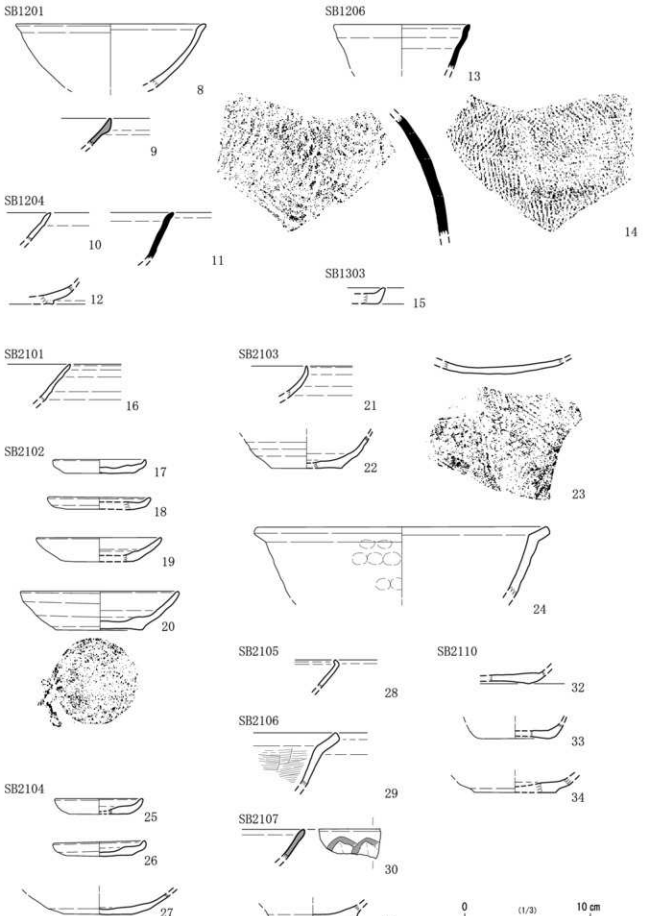
１～７は竪穴建物跡出土遺物。１～２は建物跡への流れ込み埋土中に含まれていた弥生土器。１は弥生土器甕の口縁部か。２は弥生土器壺の底部。平底で弥生中期と見られる。３～６は建物跡埋土の中・下層～床面出土の土器。３は土師器の小型丸底鉢と見られ、底部外面はタタキ・ケズリのちナデ調整。４は土師器高杯の脚部。中実の低脚部裾に透かし孔(復元径1.1cm)が３箇所空けられている。３・４は竪穴建物跡の床面付近からの出土で、時期比定の資料となる。５は山陰系土師器甕の口縁部。６は土師器杯（鉢）で、内外面とも明赤褐色の鮮やかな色調を呈し、外面ナデ調整。以上、古墳時代前期の特徴を有する土師器である。７は穴(ひつた)連式製塩土器。竪穴建物跡の埋土上層からの出土であり、直上の遺物包含層との関連で流れ込み遺物と見られる。内面にわずかに成形時の布目圧痕が確認される。外面は剥離により調整不明。奈良時代末期～平安時代前期（８～９世紀）の所産。

（2）掘立柱建物跡出土遺物（第２４図、図版１４・１５）

８～34は掘立柱建物跡出土遺物。８～９はSB1201構成柱穴から出土。８は土師器椀。体部は内湾しながら立ち上がり、口縁部がわずかに外反する。復元口径は15.0cmで、やや大ぶりの器形である。平安時代後期と見られる。９は中国産輸入白磁椀。玉縁状の口縁を呈し、11世紀後半～12世紀半ばの製品と見られる。10～12はSB1204出土。10は土師器椀の口縁部か。わずかにロクロ回転痕が外面に認められ、器壁は薄手である。11は小破片のため器形の判断が難しいが、古代の須恵器杯（身）



第２３図　竪穴建物跡出土遺物実測図

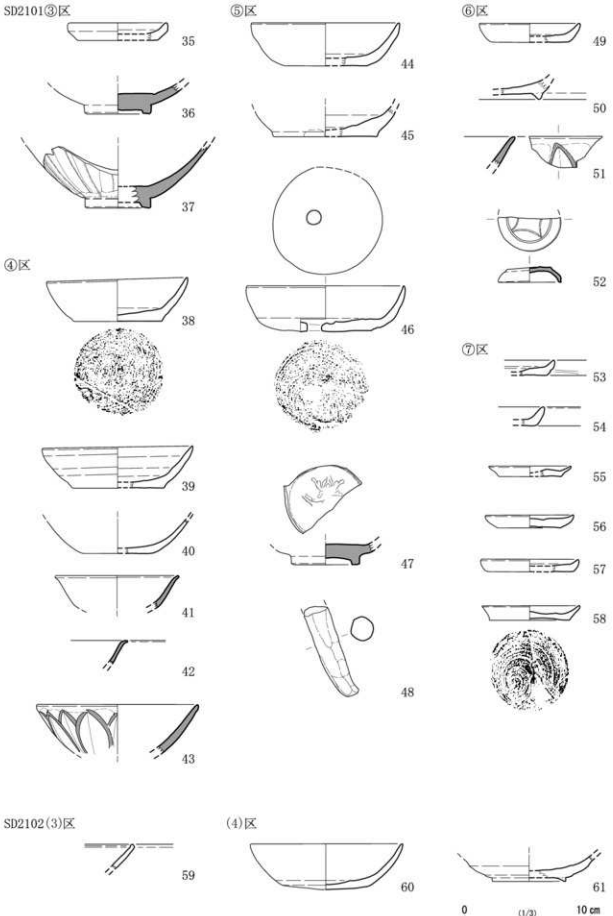


第２４図　掘立柱建物跡出土遺物実測図

と考えられる。12は土師器椀。底部には板状の高台の貼り付けが確認される。以上、古代の所産。13・14はSB1206出土。13は外開き気味に立ち上がる須恵器壺の口縁部破片ではないかと見られる。古代の所産か。14は須恵器甕の胴部破片。内面同心円文タタキ、外面格子目タタキ。焼成不良（生焼け）により、器面のタタキ凹凸は不明瞭。幅約3cm粘土帯積み上げ痕が確認される。15はSB1303出土の土師器皿。16はSB2101出土の土師器杯の口縁部破片。器壁は薄く、内外面に明瞭なロクロ回転痕が残る。古代と見られる。17～20はSB2102出土。17～19は土師器皿。17･18は口径が8cm以下、器高は0.9～1.1cmの小型品。19は復元径9.8cm、器高1.9cmで前者に比べ中型品。20は土師器杯。内外面回転ナデ調整で、底部外面に回転糸切り痕が明瞭に残る。21～24はSB2103出土。21～22は土師器杯。23～24は土師器鍋。23は外面に格子目タタキ痕が残る。24は「く」の字状に屈曲する外面口縁下～体部にかけて指オサエ痕があり、スス付着。25～27はSB2104出土。25～26は土師器皿。口径7.0～7.2cmの小型品。27は土師器杯。器壁は薄い。28はSB2105出土の土師器椀か。外面の口縁～体部が灰色を呈する。瓦器の系統か。29はSB2106出土の土師器鍋。「く」の字状の口縁で、内面は横方向のハケのちナデ。30～31はSB2107出土。30は龍泉窯系青磁椀。外面に片切り彫りの鎬蓮弁文様がある。31は土師器杯。32～34はSB2110出土。32～33は土師器皿、34は土師器杯と見られる。

（3）溝状遺構出土遺物（第25図、図版15～17）

35～61は溝状遺構出土遺物。遺物構成は、土師器の皿・杯が主体で、椀・足鍋脚部を含み、中国産輸入磁器（青磁・白磁）の占める割合が高いことが特徴的である。35～58はSD2101出土で、出土地点により③区から⑦区に区分して掲載してある。なお、出土状況の一部については、第18図、図版10に示したとおりである。35～37はSD2101③区出土。35は土師器皿。36～37は龍泉窯系の青磁椀。13世紀前後～13世紀前半に比定される。36は断面四角形の削り出し高台で、オリーブ色を呈する。37は外面にやや退化傾向の見られる片切り彫り鎬蓮弁文様が施されている。断面四角形の削り出し高台で、オリーブ色を呈する。38～43はSD2101④区出土。38～40は土師器杯。38は口径11.2cm、底径7.0cm、器高3.5cm。黄橙色。39は口径12.0cm、底径7.2cm、器高3.3cm。橙色。いずれも内外面回転ナデ、底部回転糸切り。この2点は、器形・法量・調整ともSD2101出土の土師器杯の典型ともいえるもので、器壁の色もこの2種類に分けられる。41は白磁椀。口縁部が端反り・口禿げで、13世紀後半～14世紀初頭。42は白磁。口縁部が端反りで、第Ⅴ類の12世紀後半に比定。43は外面に明瞭な片切り彫り鎬蓮弁文様が施されている。緑灰色の鮮やかな釉が掛けられた龍泉窯系のいわゆる砧青磁であり、13世紀前後～13世紀前半。44～48はSD2101⑤区出土。44～46は土師器杯。44は復元口径11.8cm、復元底径6.6cm、器高3.4cmで、SD2101出土杯の典型的器形を呈する。45は体部外面から底部にかけての位置に指オサエ痕が確認される。46は復元口径12.4cm、底径7.0cm、器高3.6cmで、器高がやや低く、体部が少し内湾ぎみに立ち上がる中型サイズである。底部に焼成前の穿孔（直径1.1cm）があり、燈明や祭祀等に関わる特殊な用途が考えられる。底部回転糸切り。47は青磁椀。見込みに印花文が施され、断面四角形の削り出し高台が付く龍泉窯系。13世紀後半～14世紀前後。48は土師器足鍋脚部。なお、47と48は隣接して溝の底部から出土した共伴遺物であり、時期比定の資料となる。時期は13世紀後半。49～52はSD2101⑥区出土。49は小型の土師器皿。50は土師器椀。51は青磁椀。外面片切り彫りの鎬蓮弁文様があり、龍泉窯系で36と同じ時期。52は青白磁合子（蓋）。外面は施釉、



第２５図　溝状遺構出土遺物実測図

内面は露胎。外側面に菊花文様は施されず、頂部文様のみ隆起した線で描かれており、最も退化した型式で12世紀頃。53～58はSD2101⑦地区出土の土師器皿。55～57は復元口径6.6～7.8cm、器高0.8～1.0cmで、器高が低く扁平な小型皿。58は器高1.4cmで器壁が薄く、小型で容量が大きい。底部回転糸切り。59～61はSD2102出土。59は（3）区出土の瓦器系の土師器椀。60～61は（4）区出土。60は復元口径12.1cm、底径7.0cm、器高3.6cmで、やや器高の低いSD2101出土の典型的な杯と共通する。61は貼り付け高台の土師器椀。硬質な焼成で緑釉陶器に似た胎土生地。内面にミガキ痕。

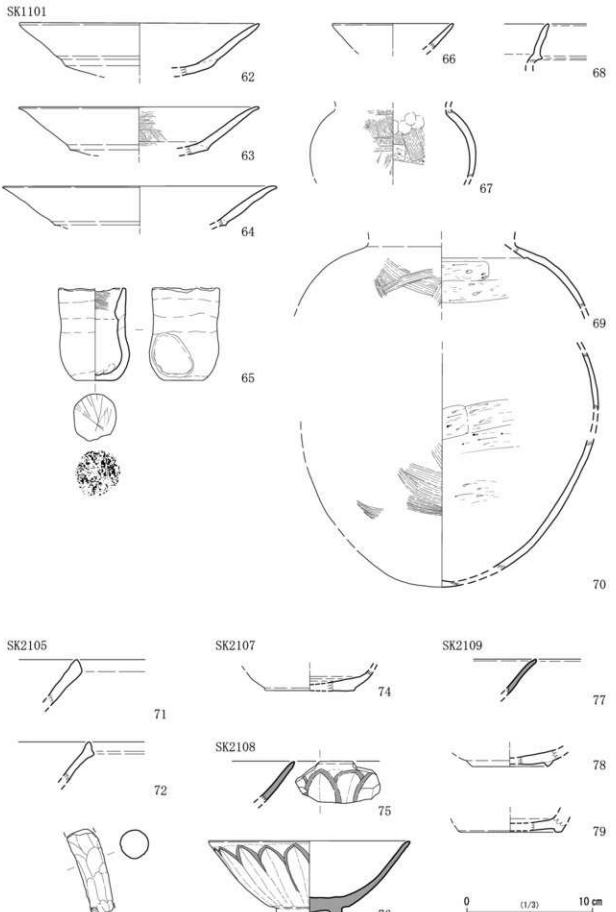
（4）土坑出土遺物（第26図、図版17・18）

62～79は土坑出土遺物。62～70はSK1101出土。62～64は土師器高杯の杯部。63は内面に横、斜め方向のハケ後、ナデ調整の痕跡が残る。65はミニチュア土器。内面外面手づくね成形のちナデ、内面底部に指オサエ痕がある。口縁部は布状のものでのナデか。底部外面に植物の葉脈状文様がある。胴部外面に剥離痕が認められる。定型化したミニチュア土器ではなく、個性的な習作品ではないかと推測される。祭祀に使用したものか。66は土師器の小型甕の口縁部破片か。67は土師器壺の胴部。内面は、胴部中央が右方向ケズリ、胴部上半が左斜め方向ハケ、頸部に指オサエによる接合痕が残る。外面はハケのちナデ。山陰系土器の可能性がある。68は土師器甕の口縁部破片で、山陰系土器の特徴を有する。69は土師器甕の肩部～頸部の破片。70は土師器甕の胴部～底部。いずれも外面にハケ、内面にケズリ調整が施されている。明確な接合面が確認できないため別図面にしたが、形状・胎土・色調・調整などの点で同一個体の可能性が高い。以上、古墳時代前期の様相を示す共伴土器群である。

71～73はSK2105出土。71～72は中世須恵器鉢の口縁部破片で、東播系の製品。73は土師器足鍋脚部。やや軟質で灰白色を呈する。74はSK2107出土の土師器杯の底部。回転糸切り痕あり。75～76はSK2108出土の青磁椀。いずれも外面に片切り彫りの鎬蓮弁文様が施されているが、75は文様がやや粗雑である。76は文様の作りが良質で、断面四角形の削り出し高台の典型的な龍泉窯系の椀である。釉は灰オリーブ色を呈する。13世紀前後～13世紀前半。77～79はSK2109出土。77は口禿げ白磁椀で、13世紀後半～14世紀初頭。78は土師器椀。断面三角形の退化した貼り付け高台。79は内外面が焼成時の発色によるものか褐灰色を呈し、硬質である。陶器の瓶または壺の底部ではないかと見られる。

（5）柱穴出土遺物（第27・28図、図版19～21）

80～135は柱穴出土遺物。80はSP13031出土の土師器皿。81はSP11038出土の土師器皿。82はSP11034出土の土師器椀口縁部で、やや端反であり、古代の所産である様相を示す。83はSP12126出土の中国産白磁椀。第Ⅴ類で11世紀後半～12世紀半ば。84～85はSP21037出土の土師器皿。84は口径7.0cm、底径4.5cm、器高1.5cmの小型でやや器高の高いタイプ、85は復元口径8.2cm、復元底径6.0cm、器高0.9cmの中型で器高の低い扁平なタイプである。この2タイプは、本遺跡の一連の柱穴出土の皿の典型的な器形である。86～87はSP21186出土。86は土師器皿。復元口径6.2cm、復元底径5.4cm、器高1.0cmの小型品。87は土師器の小型鉢か。胎土はきめ細かく表面は円滑である。88～93は土師器皿・杯のセットで柱穴から出土。88～89はSP21183出土。88は小型の土師器皿。89は土師器杯。復元口径12.0cm、底径6.8cm、器高3.5cmで、出土した他の杯に比べてやや器高が高いタイプで、緩やかに内湾して立ち上がる形状とも合わせてやや古い様相を呈する。90～91はSP21147（SB2108）出土。90は土師器皿。復元口径8.4cm、復元底径7.0cm、器高1.0cmの扁平な中型品。91は土師器杯で、

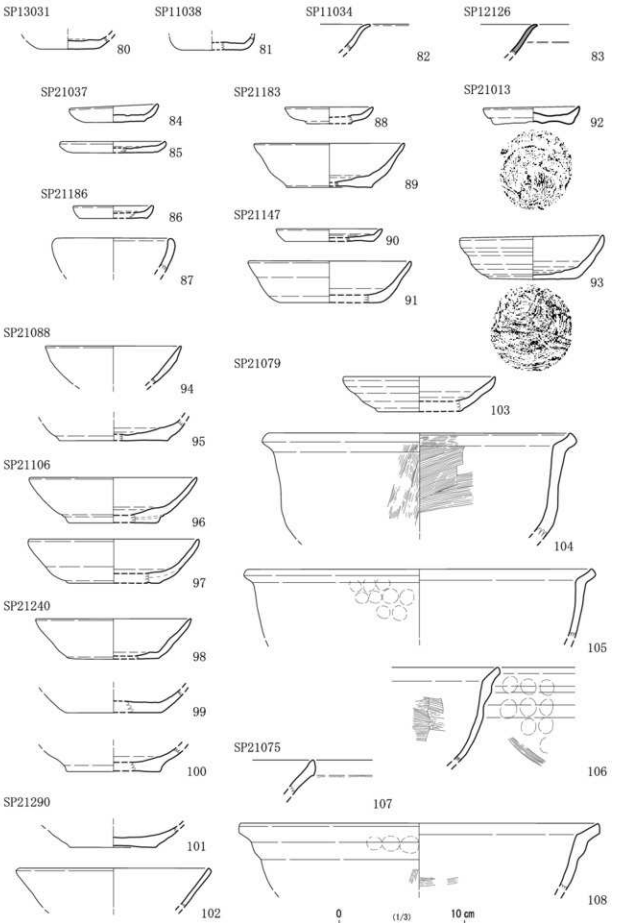


第２６図　土坑出土遺物実測図

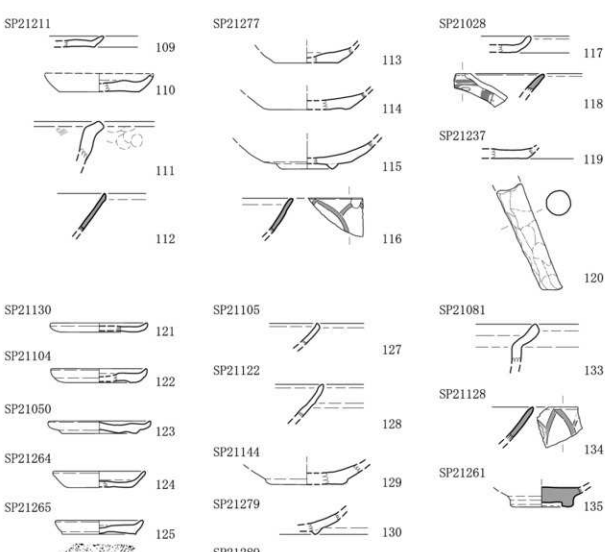
復元口径 12.8cm、復元底径 7.8cm、器高 3.3cmで、柱穴出土の杯の標準的法量・器形を呈する。92 ～ 93 は SP21013 出土。92 は土師器皿。底部回転糸切り痕が明瞭に残る。外形にいびつなゆがみや凹凸が見られ、やや粗雑な大量生産品であると考えられる。93 は土師器杯。内外面に明瞭なロクロ回転・ナデ痕、底部外面に回転糸切り痕が認められる。

94 ～ 100 は杯 2 個体以上のセットで柱穴から出土。94 ～ 95 は SP21088 出土の土師器杯。95 は粗雑な底部回転糸切りのため底部に凹凸がある。96 ～ 97 は SP21106 出土の土師器杯。96 は底部断面に高台貼り付け痕が観察され、2 層・3 層目で剥離している。97 も高台貼り付け面で剥離が認められる。98 ～ 100 は SP21240 出土の土師器杯。98 は体部が直線的に外開きに立ち上がり、復元口径 12.4cm、復元底径 7.2cm、器高 3.2cmで、器壁も薄く、96・97 に比べて小ぶりであり、やや新しい時期の様相がうかがわれる。101 ～ 102 は SP21290 出土。101 は土師器杯。102 は瓦器系の土師器椀。内面口縁部の器面円滑。外面口縁～体部上方は暗灰色に黒変している。103 ～ 106 は皿・鍋のセットで SP21079 から出土。103 は土師器皿。復元口径 12.0cm、復元底径 6.3cm、器高 2.7cmのやや大ぶりで器高が高いタイプ。104 は土師器鍋。復元口径 24.0cm、復元胴径 22.0cmの中型サイズ。口縁は、端部内面がわずかに内湾し、全体的には「く」の字状に屈曲する。胴部外面は縦方向のハケのちナデ、内面は横・斜め方向のハケ調整が施されている。外面にススが付着し、放射性炭素年代測定のため炭化物を採取して分析試料 4 とした。西長門地域で分布が確認される土師器鍋のタイプで、13 世紀代の製品と見られる。105 は土師器鍋。器形は 104 と同じ型式で、外面の体部から口縁部にかけて指オサエ。106 は土師器鍋で、口縁部の屈曲はやや鈍角となっている。内面胴部はハケのちナデ、外面は指オサエ。107 ～ 108 は SP21075 出土。107 は東播系の中世須恵器鉢。108 は土師器鍋で、106 と同様に口縁部外面の屈曲部に指オサエ痕が認められる。西長門型の鍋で 13 世紀後半代と見られる。109 ～ 112 は SP21211 出土。109・110 は土師器皿。111 は土師器鍋。112 は白磁椀。口禿げ系で、13 世紀後半～ 14 世紀初頭。113 ～ 116 は SP21277 出土。113 は土師器皿。114 は土師器杯。115 は土師器椀。断面三角形を呈する貼り付け高台が一部のみ残り、他は剥離している。116 は青磁椀。外面は片切り彫りの鎬蓮弁文様。龍泉窯系。13 世紀前後～ 13 世紀前半。117 ～ 118 は SP21028 出土。117 は土師器皿。118 は青磁椀。口縁内面～体部に劃花文。12 世紀中葉～後半。119 ～ 120 は SP21237 出土。119 は土師器皿。120 は土師器足鍋脚部。脚端部は接地面が平坦で、先端がわずかに外側に張り出す。

121 ～ 135 は柱穴から単体出土の遺物である。121 ～ 126 は土師器皿で、それぞれ SP21130・21104・21050・21264・21265・21282 から出土。121 ～ 123 は、復元口径 7.6 ～ 8.2cm、復元底径 5.0 ～ 6.0cm、器高 0.7 ～ 1.1cmで、器高の低い扁平なタイプの皿。124 ～ 125 は復元口径 6.8 ～ 7.2cm、復元底径 5.6 ～ 5.8cm、器高 1.1 ～ 1.3cmの小型タイプの皿。126 は復元口径 10.3cm、復元底径 5.5cm、器高 1.9cmで、やや器高の高い中型タイプの皿。127 は SP21105 出土の瓦器系の土師器椀口縁部破片。128 は SP21122 出土の土師器杯口縁部。129 は SP21144 出土の土師器杯。130 は SP21279 出土の土師器椀。断面三角形の貼り付け高台。131 は SP21289 出土で、須恵器に類似する硬質焼成の土師器椀。断面三角形の貼り付け高台。132 は SP21227（SB2109）出土の土師器椀 。断面三角形の貼り付け高台が痕跡的に残る。133 は SP21081 出土の土師器鍋。「く」の字状に屈折する口縁部の特徴がある。134 は SP21128 出土の青磁椀の口縁部破片。外面は片切り彫り鎬蓮弁文様。龍泉窯系。135 は SP21261 出土の青磁椀の底



第２７図　柱穴出土遺物実測図①

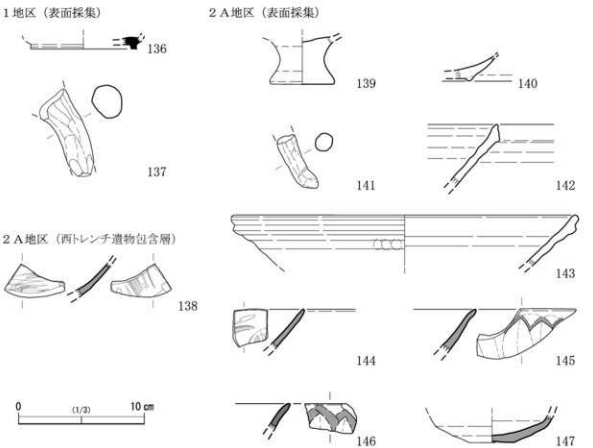


第２８図　柱穴出土遺物実測図②

部。断面四角形の削り出し高台で、露胎。２点とも 116 と同じ時期。

（６）遺物包含層出土・表面採集遺物（第２９図、図版２２）

136 ～ 137 は１地区表面採集遺物。136 は古代の須恵器の高台付杯身。137 は土師器足鍋脚部。138 は２Ａ地区遺物包含層出土の青磁椀。内面劃花文、外面櫛描き文。福建省周辺の窯産（同安窯系か）。12 世紀中葉～後半。139 ～ 147 は２Ａ地区表面採集遺物。139 は土師器台付皿。140 は土師器椀 。断面三角形の貼り付け高台が付く。141 は土師器足鍋脚部。先端部が獣足状にわずかに外側に屈折する。142・143 は東播系の中世須恵器鉢。144 ～ 147 は青磁。144 は中国産の青磁椀。口縁部内面に劃花文。12 世紀中葉～後半。145・146 は龍泉系の青磁椀。外面に片切り彫りの鎬蓮弁文様。116 と同じ時期。147 は福建省産と見られる白磁椀。底部は削り出しで、露胎。12 世紀後半。



第２９図　遺物包含層出土・表面採集遺物実測図

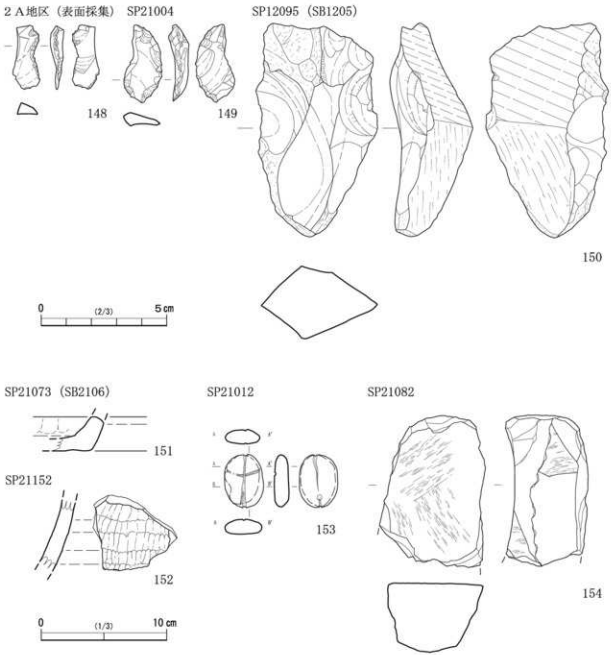
２　石器・石製品（第３０図、図版２２）

148 ～ 150 は石器類。148 は２A地区の表土除去時の表面採集品。黒曜石の剥片石器で、刃部を剥離加工。西北九州（佐賀県腰岳）産の石材と見られる。表面全体の風化が認められ、旧石器・縄文時代の古い時期の剥片を再加工したものか。149 は SP21004 の埋土に流れ込んだ状態で見つかった黒曜石の剥片石器で、刃部を剥離加工。西北九州（佐賀県腰岳）産の石材と考えられる。150 は SP12095（SB1205）の埋土から出土した姫島産黒曜石。石器製作用石材としての搬入品と見られる。

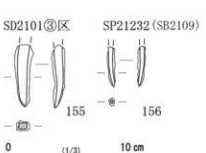
151 ～ 154 は石製品。151 は SP21073（SB2106）出土の滑石製石鍋。底部から体部に立ち上がる箇所の破片で、体部破片上端部は再加工・転用されている。152 は SP21152 出土の滑石製石鍋。外面には、うろこ状に細かく縦方向に削り加工した痕跡が残る。151･152 は長崎県西彼杵半島産と見られる。153 は SP21012 出土の有溝石錘。表面に十字状を呈する縦・横の溝が刻まれ、裏面に縦方向の溝が部分的に刻まれている。溝幅 0.2cm。154 は SP21082 出土の砥石の破片。２面に使用痕が残る。

３　鉄製品（第３１図、図版２２）

155 ～ 156 は鉄釘と見られる先端部破片。２点とも表面に厚く錆が固着しているため、推定される原形を図化した。断面四角形で、頭部が欠損しているため全長は不明。それぞれ SD2101、SP21232（ＳＢ 2109）からの出土で、建物に関連して使用された可能性が考えられる。



第３０図　石器・石製品実測図



第３１図　鉄製品実測図

第４表　遺物観察一覧表

土器・陶磁器観察一覧表

※「復」は復元値、「残」は残存値

番号	地区	遺構番号	種類	器種	法量(cm) 口径	胴径	底径	器高	胎土 粗密	砂粒	焼成	色調 内面	外面	調整・備考
1	2A	SI2101（北東区）	弥生土器	甕	–	–	–	残 2.0	やや粗	含砂粒多	やや軟質	橙色	橙色	内外面ともナデ調整。
2	2A	SI2101（北側中央中～下層）	弥生土器	壺	–	–	復 7.8	残 4.7	やや粗	含砂粒少	やや軟質	にぶい黄褐色	にぶい黄橙色	内外面とも剥離・磨耗が著しい。胎土に黒雲母片を含む。
3	2A	SI2101（北東区下層床面）	土師器	鉢	復 9.6	–	–	6.9	やや粗	含砂粒多	やや軟質	にぶい橙色	にぶい橙色	内面口縁部ハケのちナデ、胴部ナデ、底部指オサエ痕。外面口縁～胴部ナデ、底部タタキ・ケズリのちナデ。小型丸底。
4	2A	SI2101（北側中央床面付近）	土師器	高杯	–	最大径5.0	–	残 6.0	やや粗	含砂粒多	やや軟質	淡黄色	淡黄色	内外面器面磨耗により調整不明瞭。中実の脚部裾に透かし孔(復1.1cm）が３箇所に空けられている。
5	2A	SI2101（北側中～下層）	土師器	甕	–	–	–	残 3.4	やや粗	含砂粒多	やや軟質	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	内外面ともナデ。山陰系。
6	2A	SI2101（南西区）	土師器	杯	–	–	6.0	残 3.7	密	含砂粒少	やや軟質	明赤褐色	明赤褐色	内面表面剥離により不明。外面ナデ調整。
7	2A	SI2101（南東区上層）	土師器	製塩土器	–	–	–	残 3.2	粗	含細粒少	やや軟質	橙色	明黄褐色	内面布目痕。外面剥離のため調整不明。六連式。８～９世紀（奈良末～平安）。
8	1B	SP12003	土師器	椀	復 15.0	–	–	残 5.0	密	含細粒少	やや軟質	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	SB1201 構成柱穴出土。外面回転ナデ。表面が黒褐色。
9	1B	SP12002	白磁	椀	–	–	–	残 2.2	密	–	硬質	生地：灰白色	釉：灰白色	SB1201 構成柱穴出土。内外面施釉、玉縁口縁。第Ⅳ類で 11 世紀後半～ 12 世紀半ば。
10	1B	SP12077	土師器	椀	–	–	–	残 2.3	密	含細粒少	やや軟質	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	SB1204 構成柱穴出土。ロクロ回転痕１条（外）だが、内外面共に不明瞭。
11	1B	SP12083	須恵器	杯	–	–	–	残 3.7	密	含砂粒少	硬質	灰白色	灰白色	SB1204 構成柱穴出土。内外面共に回転ナデ。
12	1B	SP12077	土師器	椀	–	–	–	残 1.5	密	含細粒少	やや軟質	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	SB1204 構成柱穴出土。内外面共に不明瞭。
13	1B	SP12098	須恵器	壺	復 10.8	–	–	残 3.5	密	含砂粒少	硬質	灰色	灰色	SB1206 構成柱穴出土。内外面共に回転ナデ。
14	1B	SP12098	須恵器	甕	–	–	–	残復 9.4	密	含細粒ごく少	硬質	灰白色	灰白色	SB1206 構成柱穴出土。内面同心円文タタキ。外面格子目タタキ。焼成不良（生焼け）により内外面のタタキ目不明瞭。外面器壁の凹凸により、幅約 3cm の粘土帯積み上げ痕が観察される。
15	1C	SP13025	土師器	皿	–	–	–	残 1.3	密	含細粒少	やや軟質	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	SB1303 構成柱穴出土。内外面共に磨耗により調整不明瞭。
16	2A	SP21014	土師器	杯	–	–	–	残 3.0	密	–	やや軟質	灰白色	灰白色	SB2101 構成柱穴出土。内外面とも回転ナデ。外面明瞭な回転痕。
17	2A	SP21021	土師器	皿	復 7.2	–	復 5.4	1.1	密	含砂粒少	やや軟質	橙色	にぶい黄橙色	SB2102 構成柱穴出土。内外面とも回転ナデ、底部回転糸切り。器壁に歪みがあり、やや粗雑なつくりの大量生産品。
18	2A	SP21021	土師器	皿	8.0	–	5.6	0.9	密	含細粒少	やや軟質	明褐色	明褐色	SB2102 構成柱穴出土。内外面とも回転ナデ。底部回転糸切り。
19	2A	SP21021	土師器	皿	復 9.8	–	復 5.4	残 1.9	密	含砂粒少	やや軟質	黒褐色	橙色	SB2102 構成柱穴出土。内外面とも回転ナデ。底部回転糸切り痕は不明瞭。内面にスス付着。灯明皿か。
20	2A	SP21021	土師器	杯	12.5	–	6.9	3.0	密	含細粒少	やや軟質	橙色	にぶい黄橙色	SB2102 構成柱穴出土。内外面とも回転ナデ、口縁部ナデ。底部回転糸切り。
21	2A	SP21062	土師器	杯	–	–	–	残 2.5	密	含細粒少	やや軟質	橙色	橙色	SB2103 構成柱穴出土。内外面とも回転ナデ。外面明瞭な回転痕。
22	2A	SP21058	土師器	杯	–	–	復 5.6	残 2.5	密	–	やや軟質	灰白色	浅黄色	SB2103 構成柱穴出土。内外面とも回転ナデ。不明瞭ながら底部回転糸切り痕。
23	2A	SP21058	土師器	鍋	–	–	–	残 1.3	密	含砂粒少	やや軟質	にぶい黄橙色	浅黄橙色	SB2103 構成柱穴出土。内面ナデ調整により平滑。外面格子目タタキ。
24	2A	SP21058	土師器	鍋	復 23.0	–	–	残 5.5	密	含砂粒ごく少	やや軟質	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	SB2103 構成柱穴出土。内面ナデ、外面口縁下胴部～体部は指オサエ後、ナデ。外面スス付着。
25	2A	SP21032	土師器	皿	復 7.0	–	復 4.8	1.2	密	含細粒少	軟質	橙色	橙色	SB2104 構成柱穴出土。内外面とも回転ナデ。底部回転糸切り。
26	2A	SP21031	土師器	皿	7.2	–	5.2	1.2	密	含細粒少	やや軟質	橙色	橙色	SB2104 構成柱穴出土。内外面とも回転ナデ。底部回転糸切りか。
27	2A	SP21031	土師器	杯	–	–	復 5.4	残 1.5	密	含細粒少	やや軟質	橙色	橙色	SB2104 構成柱穴出土。内外面とも回転ナデ、底部回転糸切り痕不明瞭。
28	2A	SP21102	土師器（瓦器系）	椀	–	–	–	残 2.2	密	含砂粒多	やや軟質	灰色～灰白色	灰色～灰白色	SB2105 構成柱穴出土。内面回転ナデか。外面回転ナデ。口縁～体部が灰色を呈する。
29	2A	SP21070	土師器	鍋	–	–	–	残 4.3	密	含砂粒多	やや軟質	黄橙色	灰白色	SB2106 構成柱穴出土。内面ヨコ方向のハケのちナデ。口縁部ナデ。外面ナデ。

※「復」は復元値、「残」は残存値

番号	地区	遺構番号	種類	器種	法量(cm)				胎土		焼成	色調		調整・備考
					口径	胴径	底径	器高	粗密	砂粒		内面	外面	
30	2 A	SP21117	青磁	椀	－	－	－	残 2.4	密	－	硬質	生地：灰白色	釉：灰色	SB2107 構成柱穴出土。外面鎬蓮弁文様(片切り彫り)。龍泉窯系。13 世紀前後～ 13 世紀前半。
31	2 A	SP21113	土師器	杯	－	－	復 7.0	残 1.2	密	含砂粒少	やや軟質	橙色	明褐色	SB2107 構成柱穴出土。内面指オサエ後ナデ。底部回転糸切り。
32	2 A	SP21227	土師器	皿	－	－	－	残 1.1	密	含砂粒少	やや軟質	浅黄色	にぶい黄橙色	SB2110 構成柱穴出土。内面ナデ、外面回転ナデ、底部回転糸切り。
33	2 A	SP21228	土師器	皿	－	－	復 6.0	残 1.2	密	含砂粒多	やや軟質	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	SB2110 構成柱穴出土。内外面とも磨耗により不明瞭。
34	2 A	SP21225	土師器	杯	－	－	復 6.4	残 1.2	密	－	軟質	橙色	にぶい黄褐色	SB2110 構成柱穴出土。内面回転ナデか。外面底回転糸切りか。内外面とも不明瞭。
35	2 A	SD2101③区	土師器	皿	復 7.8	－	復 6.4	1.4	密	含砂粒少	やや軟質	にぶい黄橙色	灰黄褐色	内外面とも回転ナデ。底部切り離し痕不明瞭。
36	2 A	SD2101③区	青磁	椀	－	－	5.0	残 2.4	密	－	硬質	生地：灰白色	釉：灰オリーブ色	SD2101 土器 H。内面見込みに貫入あり、削り出し高台。龍泉窯系。13 世紀前後～ 13 世紀前半。
37	2 A	SD2101③区	青磁	椀	－	－	復 5.2	残 5.0	密	－	硬質	生地：灰白色	釉：オリーブ色	SD2101 土器 H 周辺。外面鎬蓮弁文様（片切り彫り）やや退化気味。削り出し高台。龍泉窯系。13 世紀前後～ 13 世紀前半。
38	2 A	SD2101④区	土師器	杯	11.2	－	7.0	3.5	密	含細粒少	やや軟質	黄橙色	黄橙色	SD2101 土器 I。内外面とも回転ナデ。底部回転糸切り。
39	2 A	SD2101④区	土師器	杯	12.0	－	7.2	3.3	密	含砂粒少	やや軟質	橙色	橙色	SD2101 土器 I。内外面とも回転ナデ。底部回転糸切り。
40	2 A	SD2101④区	土師器	杯	－	－	復 5.4	残 2.7	粗	含砂粒少	やや軟質	にぶい黄橙色	灰黄褐色	内外面とも剥離・磨耗のため調整不明瞭。
41	2 A	SD2101④区	白磁	椀	復 9.8	－	－	残 2.6	密	－	硬質	生地：灰白色	釉：灰白色	SD2101 土器 I。透明釉施釉、口禿げ、施釉部貫入あり。13 世紀後半～ 14 世紀初頭。
42	2 A	SD2101④区	白磁	椀	－	－	－	残 1.9	密	－	硬質	生地：灰白色	釉：にぶい黄色	SD2101 土器 I 周辺。口縁部端反り。第Ⅴ類で 12 世紀後半。
43	2 A	SD2101④区	青磁	椀	復 12.8	－	－	残 3.9	密	－	硬質	生地：灰白色	釉：緑灰色	SD2101 土器 I。外面鎬蓮弁文様(片切り彫り)。砧青磁、龍泉窯系、13 世紀前後～ 13 世紀前半。
44	2 A	SD2101⑤区	土師器	杯	復 11.8	－	復 6.6	3.4	密	含砂粒ごく少	やや軟質	橙色	にぶい黄橙色	SD2101 土器 J。内外面とも回転ナデ。底部回転糸切り。
45	2 A	SD2101⑤区	土師器	杯	－	－	復 8.2	残 2.4	密	含砂粒少	やや軟質	灰黄褐色	にぶい黄橙色	内面回転ナデ、外面体～底部指オサエ痕、底部回転糸切り。
46	2 A	SD2101⑤区	土師器	杯	復 12.4	－	7.0	3.6	密	含砂粒少	やや軟質	にぶい黄色	暗灰黄色	SD2101 土器 J。内面回転ナデ、底部中央指オサエ後、粗雑な回転ナデ。外面回転ナデ、底部回転糸切り。底部に焼成前穿孔(1.1cm) あり。
47	2 A	SD2101⑤区	青磁	椀	－	－	5.4	残 1.8	密	－	硬質	生地：灰白色	釉：オリーブ灰色	SD2101 土器 K。見込みに印花文。削り出し高台。龍泉窯系。13 世紀後半～ 14 世紀前後。
48	2 A	SD2101⑤区	土師器	足鍋脚部	残長 7.3	径1.8	－	－	やや粗	含砂粒多	やや軟質	橙色	－	SD2101 土器 K。タテ方向の指オサエ成形後、ナデ。西長門型鍋の脚部。13 世紀後半か。
49	2 A	SD2101⑥区	土師器	皿	復 8.0	－	復 6.2	1.5	密	－	やや軟質	灰黄褐色	にぶい橙色	SD2101 土器 L。内外面とも回転ナデ。底部回転糸切り。
50	2 A	SD2101⑥区	土師器	椀	－	－	－	残 1.5	密	含砂粒ごく少	やや軟質	浅黄橙色	浅黄橙色	内外面とも器面磨耗で調整不明瞭。断面三角形の貼り付け高台。
51	2 A	SD2101⑥区	青磁	椀	－	－	－	残 2.4	密	－	硬質	生地：明オリーブ灰色	釉：灰オリーブ色	内外面に貫入あり。外面鎬蓮弁文様（片切り彫り）。龍泉窯系。13 世紀前後～ 13 世紀前半。
52	2 A	SD2101⑥区	青白磁	合子(蓋)	5.0	－	－	1.2	密	－	硬質	生地：灰色	釉：明緑灰色	SD2101 土器 L。内面露胎、外面施釉、頂部文様は隆起。体部に菊花文様はなく、最も退化型式。12 世紀頃。
53	2 A	SD2101⑦区	土師器	皿	－	－	－	1.2	密	含砂粒少	やや軟質	にぶい橙色	にぶい橙色	内外面とも回転ナデ。底部回転糸切りか。体部に糸切りの糸があたったと思われる痕跡。
54	2 A	SD2101⑦区	土師器	皿	－	－	－	1.5	密	含砂粒少	やや軟質	橙色	橙色	内外面とも磨耗により不明瞭。
55	2 A	SD2101⑦区	土師器	皿	復 6.6	－	復 5.0	0.8	密	含細粒少	やや軟質	黒褐色	にぶい黄橙色	内外面とも回転ナデ。底部回転糸切り。
56	2 A	SD2101⑦区	土師器	皿	復 7.0	－	復 5.0	1.0	密	含細粒少	やや軟質	灰黄褐色	褐灰色	内外面とも回転ナデ。底部回転糸切り。
57	2 A	SD2101⑦区	土師器	皿	復 7.8	－	復 7.0	1.0	密	含砂粒少	やや軟質	黒褐色	灰黄褐色	内外面とも回転ナデ。底部外面にやや歪みあり。粗雑なつくり。
58	2 A	SD2101⑦区	土師器	皿	復 7.8	－	6.4	1.4	密	含砂粒少	やや軟質	灰黄褐色	にぶい黄橙色	内外面とも回転ナデ。底部回転糸切り。
59	2 A	SD2102(3)区	土師器(瓦器系)	椀	－	－	－	残 1.9	密	含砂粒少	やや軟質	灰白色	灰色	内外面とも回転ナデ。口縁端内面に折り返し。口縁部外面のみ黒色。
60	2 A	SD2102(4)区	土師器	杯	復 12.1	－	7.0	3.6	密	含細粒ごく少	やや軟質	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	SD 土器 N。内外面とも回転ナデ。底部回転糸切り、平坦でなく外湾する。
61	2 A	SD2102(4)区	土師器	椀	－	－	復 5.8	残 2.1	密	含砂粒少	硬質	灰白色	灰白色	内面ミガキ。外面回転ナデ。貼り付け高台。緑釉陶器風の胎土生地。
62	1 A	SK1101	土師器	高杯	復 19.0	－	－	残 4.2	粗	含砂粒多	やや軟質	橙色	橙色	内面ナデのちナデ消し。外面ナデ。

番号	地区	遺構番号	種類	器種	法量(cm)				胎土		成成	色調		調整・備考
					口径	胴径	底径	器高	粗密	砂粒		内面	外面	
63	1 A	SK1101（南西区）	土師器	高杯	復19.0	－	－	残3.8	密	含砂粒少	やや軟質	橙色	にぶい橙色	内面ヨコ・ナナメ方向のハケのちナデ消し。外面表面調整・磨耗により調整不明。
64	1 A	SK1101（北東区）	土師器	高杯	復21.8	－	－	残3.2	密	含砂粒少	やや軟質	橙色	橙色	内外面共に器面磨耗により調整不明。
65	1 A	SK1101	土師器	ミニチュア土器	5.2	－	3.4	残7.4	粗	含砂粒多	やや軟質	明赤褐色	明黄褐色	内面手づくね成形、ナデ、底部指オサエ、口縁部布状のものでナデ。外面手づくね成形、ナデ、底部に植物の葉脈状文様。胴部（外）に円形剥離痕。
66	1 A	SK1101（北東区）	土師器	壺	復9.6	－	－	残2.0	密	含砂粒少	やや軟質	明赤褐色	橙色	内面器面剥離により調整不明。外面ヨコナデ。
67	1 A	SK1101（北東区）	土師器	壺	－	復13.2	－	残5.3	密	含砂粒やや多	やや軟質	褐色	にぶい赤褐色	内面胴部右方向ケズリ、胴部上半左斜め方向ハケ、胴部～頚部ケズリ、ハケ、指オサエ。外面ハケのちナデ。山除痕。
68	1 A	SK1101	土師器	甕	－	－	－	残3.1	密	含砂粒多	やや軟質	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	内面器壁の磨耗により調整不明。外面ヨコナデ痕がわずかに残る。山除痕。
69	1 A	SK1101	土師器	甕	－	－	－	残5.2	粗	含砂粒多	やや軟質	にぶい黄橙色	橙色	内面左方向ケズリ（ほぼ磨滅）。外面ハケ、ナデ。
70	1 A	SK1101	土師器	甕	－	23.8	－	残18.5	粗	含砂粒多	やや軟質	にぶい黄橙色	橙色	内面左方向ケズリ（ほぼ磨滅）のちナデ。外面ハケ、ナデ。60と同一個体の可能性あり。
71	2 A	SK2105	中世須恵器	鉢	－	－	－	残3.7	密	含砂粒少	硬質	灰色	暗灰色～灰色	内外面とも回転ナデ。口縁部外面暗褐色変。東播系。
72	2 A	SK2105	中世須恵器	鉢	－	－	－	残3.2	密	含砂粒少	硬質	灰色	灰色	内外面とも回転ナデ。口縁部外面暗褐色変。重ね焼き溶着痕。東播系。
73	2 A	SK2105	土師器	足鍋脚部	残長7.0	径2.2	－	－	密	含砂粒少	やや軟質	灰白色	灰白色	指ナデ成形。
74	2 A	SK2107	土師器	杯	－	－	復7.0	残1.6	密	含細粒少	やや軟質	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	内外面とも回転ナデ。底部回転糸切り。
75	2 A	SK2108	青磁	椀	－	－	－	残3.2	密	－	硬質	生地：灰白色	釉：灰オリーブ色	外面鎬蓮弁文様（片切り彫り）でやや粗雑、龍泉窯系。13世紀前後～13世紀前半。
76	2 A	SK2108	青磁	椀	復16.0	－	復5.0	6.1	密	－	硬質	生地：灰白色	釉：オリーブ灰色	外面鎬蓮弁文様（片切り彫り）、彫り出し高台、貫入あり。龍泉窯系。13世紀前後～13世紀前半。
77	2 A	SK2109	白磁	椀	－	－	－	残2.8	密	－	硬質	生地：灰白色	釉：灰白色	透明釉施釉。口縁部口禿げ。13世紀後半～14世紀初頭。
78	2 A	SK2109	土師器	椀	－	－	高台6.0	残1.3	密	含細粒やや多	やや軟質	にぶい黄橙色	灰黄褐色	内面ナデ、外面体部回転ナデ。底部回転糸切り後、貼り付け高台。
79	2 A	SK2109	陶器	甕	－	－	復8.2	残1.4	密	含砂粒少	硬質	褐灰色	褐灰色	壺とも見られる。内外面ロクロの回転痕。
80	1 C	SP13031	土師器	皿	－	－	復4.8	残1.0	密	含砂粒少	やや軟質	橙色	にぶい黄橙色	内面回転ナデ。外面底部回転糸切り痕。
81	1 A	SP11038	土師器	皿	－	－	復5.0	残1.1	密	含砂粒少	やや軟質	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	内面体部回転ナデ。外面底部切り離し痕不明瞭。
82	1 A	SP11034	土師器	椀	－	－	－	残2.0	密	含細粒ごく少	やや軟質	にぶい黄橙色	にぶい橙色	内外面共に回転ナデ。
83	1 B	SP12126	白磁	椀	－	－	－	残2.4	密	－	硬質	灰白色	灰白色	内外面透明釉施釉。第V類で、11世紀後半～12世紀半ば。
84	2 A	SP21037	土師器	皿	7.0	－	4.5	1.5	密	含砂粒少	やや軟質	にぶい橙色	にぶい橙色	内外面とも丁寧な回転ナデ。底部回転糸切り後、丁寧なナデ。
85	2 A	SP21037	土師器	皿	復8.2	－	復6.0	0.9	密	含砂粒少	やや軟質	橙色	にぶい橙色	内外面とも丁寧な回転ナデ。底部回転糸切り後、丁寧なナデ。
86	2 A	SP21186	土師器	皿	復6.2	－	復5.4	1.0	密	含細粒少	やや軟質	橙色	にぶい黄橙色	内外面とも回転ナデ。底部回転糸切り。
87	2 A	SP21186	土師器	鉢	復9.0	－	－	残2.7	密	－	やや軟質	にぶい黄橙色	浅黄橙色	内外面とも回転ナデ。
88	2 A	SP21183	土師器	皿	復7.0	－	復3.4	1.3	密	含砂粒少	やや軟質	明赤褐色	明赤褐色	内外面とも回転ナデ。
89	2 A	SP21183	土師器	杯	復12.0	－	6.8	3.5	密	含砂粒ごく少	やや軟質	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	内外面とも回転ナデ。底部切り離し痕不明瞭。
90	2 A	SP21147	土師器	皿	復8.4	－	復7.0	1.0	密	含砂粒少	やや軟質	橙色	橙色	SB2108構成柱穴出土。内外面とも回転ナデ。底部切り離し痕不明瞭、指オサエ痕あり。
91	2 A	SP21147	土師器	杯	復12.8	－	復7.8	3.3	密	含砂粒少	やや軟質	灰白色	橙色	SB2108構成柱穴出土。内外面とも回転ナデ。底部回転糸切り。
92	2 A	SP21013	土師器	皿	7.4	－	6.0	1.3	密	含砂粒少	やや軟質	橙色（にぶい橙色）	橙色	内外面とも回転ナデ。底部明瞭な回転糸切り。外形が円形でなく、かなりいびつ。表面に多数の凹凸あり。
93	2 A	SP21013	土師器	杯	11.4	－	7.0	3.5	密	含砂粒少	やや軟質	浅黄橙色	橙色	内外面とも明瞭な回転ナデ。底部回転糸切り。
94	2 A	SP21088	土師器	杯	復10.4	－	－	残3.0	密	含砂粒少	やや軟質	浅黄色	浅黄色	内外面とも回転ナデ。
95	2 A	SP21088	土師器	杯	－	－	復8.6	残1.7	密	含砂粒少	やや軟質	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	内外面とも回転ナデ。底部回転糸切り。粗雑な切り離しにより、底部に凹凸あり。
96	2 A	SP21106	土師器	杯	復13.2	－	復7.0	3.6	密	含砂粒少	やや軟質	橙色	にぶい橙色	内外面とも回転ナデのち丁寧なナデ。底部に高台貼り付け痕があり、2層目と3層目で剥離している。

※「復」は復元値、「残」は残存値

番号	地区	遺構番号	種類	器種	法量(cm)				胎土		焼成	色調		調整・備考
					口径	胴径	底径	器高	粗密	砂粒		内面	外面	
97	2 A	SP21106	土師器	杯	復13.4	–	復7.3	3.5	密	含砂粒少	やや軟質	橙色～にぶい黄橙色	橙色	内外面とも回転ナデのち「寒なナデ。底部に高台貼り付け痕があり、剥離している。
98	2 A	SP21240	土師器	杯	復12.4	–	復7.2	3.2	密	含細粒少	やや軟質	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	内面器面磨耗により不明瞭。外面わずかに回転ナデ痕。底部磨耗により切り離し痕不明瞭。
99	2 A	SP21240	土師器	杯	–	–	復7.6	残1.8	密	含砂粒少	やや軟質	橙色	橙色	内外面とも回転ナデ。底部明瞭な回転糸切り。
100	2 A	SP21240	土師器	杯	–	–	復11.4	残1.9	密	含砂粒多	やや軟質	橙色	橙色	内外面とも回転ナデ。底部回転糸切り。
101	2 A	SP21290	土師器	杯	–	–	復6.8	残1.7	密	含砂粒少	やや軟質	浅黄色	浅黄色	内外面とも器面磨耗により不明瞭。底部回転糸切り。
102	2 A	SP21290	土師器(瓦器系)	椀	復15.0	–	–	残3.1	密	含砂粒多	やや軟質	灰白色～灰色	暗灰色～灰白色	内面口縁部の器面円滑。外面口縁～体部上方回転ナデ・黒変、下方は器面磨耗により不明瞭。
103	2 A	SP21079	土師器	皿	復12.0	–	復6.6	2.7	密	含砂粒少	やや軟質	橙色	橙色	内外面とも回転ナデ。
104	2 A	SP21079	土師器	鍋	復24.0	復22.0	–	残8.4	密	含砂粒少	やや軟質	浅黄色	黒色	内面ヨコ・ナナメ方向のハケ。外面タテ方向のハケのちナデ消し。外面スス付着。放射性炭素年代測定試料4。13世紀代。
105	2 A	SP21079	土師器	鍋	復27.2	–	–	残5.3	密	含砂粒少	やや軟質	浅黄橙色	にぶい黄橙色	内外面とも回転ナデ。外面に指オサエ痕。
106	2 A	SP21079	土師器	鍋	–	–	–	残6.5	密	含砂粒少	やや軟質	橙色	褐色	内面ハケのちナデ。外面指オサエ痕。
107	2 A	SP21075	中世須恵器	鉢	–	–	–	残2.7	密	含砂粒少	硬質	灰色	暗灰色～灰色	内外面とも回転ナデ。東播系。
108	2 A	SP21075	土師器	鍋	復28.4	–	–	残5.3	密	–	やや軟質	橙色	黒褐色	内面ヨコ方向のハケのちナデ消し。外面口縁下端と体部の接合面に指オサエ痕。体部下端ハケのちナデ消し。西長門型、13世紀代後半か。
109	2 A	SP21211	土師器	皿	–	–	–	残0.9	密	–	やや軟質	にぶい黄橙色	褐灰色	内外面とも磨耗により調整不明。底部回転糸切り。
110	2 A	SP21211	土師器	皿	–	–	復6.4	残1.3	密	含砂粒多	やや軟質	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	内外面とも回転ナデ。底部回転糸切り。
111	2 A	SP21211	土師器	鍋	–	–	–	残3.4	密	含砂粒少	やや軟質	橙色	橙色	内面ハケのちナデ。外面指オサエ痕。焼成不良で胎土内部が黒変。
112	2 A	SP21211	白磁	椀	–	–	–	残3.0	密	–	硬質	生地：灰白色	釉：灰白色	透明釉施釉。口禿げで、13世紀後半～14世紀初頭。
113	2 A	SP21277	土師器	皿	–	–	復4.8	残1.3	密	含砂粒少	やや軟質	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	内外面とも磨耗により調整不明。底部回転糸切り。
114	2 A	SP21277	土師器	杯	–	–	復6.8	残1.3	密	含砂粒少	やや軟質	灰白色	灰白色	内面ナデ、指オサエ痕。外面ナデ、底部回転糸切りのちナデ。
115	2 A	SP21277	土師器	椀	–	–	4.0	残2.2	密	含砂粒少	やや軟質	にぶい黄橙色	黒褐色	内面ナデ、外面体部回転ナデ、底部回転糸切り後、貼り付け高台（一部のみ残存し、他は剥離）。
116	2 A	SP21277	青磁	椀	–	–	–	残2.8	密	–	硬質	生地：灰黄褐色	釉：黄褐色	外面鎬蓮弁文様（片切り彫り）。龍泉窯系。13世紀前後～13世紀前半。
117	2 A	SP21028	土師器	皿	–	–	–	残1.3	密	含砂粒少	やや軟質	橙色	浅黄橙色	内外面とも回転ナデ。器面磨耗により、底部回転糸切り痕不明瞭。
118	2 A	SP21028	青磁	椀	–	–	–	残1.9	密	–	硬質	生地：灰白色	釉：灰オリーブ色	内面口縁～体部に劃花文。12世紀中葉～後半。
119	2 A	SP21237	土師器	皿	–	–	–	残0.8	密	含砂粒少	やや軟質	橙色	橙色	内外面とも磨耗により調整不明。底部回転糸切り。
120	2 A	SP21237	土師器	足鍋脚部	残長8.4	径1.9	–	–	密	含砂粒少	やや軟質	にぶい黄橙色	–	指オサエ成形後、ナデ。
121	2 A	SP21130	土師器	皿	復7.6	–	復6.0	0.7	密	含砂粒少	やや軟質	橙色	橙色	内外面とも回転ナデ。底部切り離し痕不明瞭。
122	2 A	SP21104	土師器	皿	復7.6	–	復5.0	1.1	密	含細粒多	やや軟質	橙色	橙色	内外面とも回転ナデ。底部回転糸切り。粗雑な切り離しによる、底部に歪みあり。
123	2 A	SP21050	土師器	皿	復8.2	–	復6.0	1.0	密	含砂粒少	やや軟質	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	内外面とも回転ナデ。底部粗雑な回転糸切りで、器面の凹凸が著しい。
124	2 A	SP21264	土師器	皿	復7.2	–	復5.6	1.3	密	含砂粒少	やや軟質	にぶい橙色	橙色	内外面とも回転ナデ。底部回転糸切り。
125	2 A	SP21265	土師器	皿	復6.8	–	復5.8	1.1	密	含砂粒少	やや軟質	橙色	橙色	内外面とも回転ナデ。底部回転糸切り。指オサエ痕。
126	2 A	SP21282	土師器	皿	復10.3	–	復5.5	1.9	密	含砂粒多	やや軟質	にぶい橙色	にぶい褐色	内外面とも回転ナデか。磨耗によりさだかでない。底部切り離し痕不明瞭。
127	2 A	SP21105	土師器(瓦器系)	椀	–	–	–	残1.7	密	–	やや軟質	灰白色	灰色	内外面とも回転ナデ。外面口縁部のみ黒色。
128	2 A	SP21122	土師器	杯	–	–	–	残2.6	密	含砂粒少	やや軟質	橙色	にぶい橙色	内外面とも回転ナデ。
129	2 A	SP21144	土師器	杯	–	–	復5.6	残1.6	密	含砂粒少	やや軟質	浅黄橙色	浅黄橙色	内面ナデ、外面回転ナデ。底部切り離し痕不明瞭。
130	2 A	SP21279	土師器	椀	–	–	–	残1.6	密	含砂粒少	やや軟質	にぶい橙色	灰褐色	内外面ともナデ。断面三角形貼り付け高台。

※「復」は復元値、「残」は残存値

番号	地区	遺構番号	種類	器種	法量(cm) 口径	胴径	底径	器高	胎土 粗密	砂粒	焼成	色調 内面	色調 外面	調整・備考
131	2 A	SP21289	土師器	椀	−	−	復 7.0	残 1.4	密	含砂粒少	硬質	灰白色	灰白色	内外面ともナデ。高台部分指オサエ。断面三角形貼り付け高台。やや須恵質。
132	2 A	SP21232	土師器	椀	−	−	復 6.2	残 2.4	密	含砂粒少	硬質	褐灰色	灰白色	SB2109 構成柱穴出土。内外面ともナデ。底部回転糸切りのちナデ。断面三角形貼り付け高台部に指オサエ痕。
133	2 A	SP21081	土師器	鍋	−	−	−	残 3.1	密	含砂粒多	やや軟質	浅黄橙色	浅黄橙色	内外面とも回転ナデ。焼成不足のため断面が黒変している。
134	2 A	SP21128	青磁	椀	−	−	−	残 2.7	密	−	硬質	生地：灰色	釉：灰オリーブ色	外面鎬連弁文様（片切り彫り）。龍泉窯系。13 世紀前後～ 13 世紀前半。
135	2 A	SP21261	青磁	椀	−	−	5.0	残 1.6	密	−	硬質	生地：灰色	釉：灰オリーブ色	施釉。削り出し高台。高台部分露胎。龍泉窯系。13 世紀前後～ 13 世紀前半。
136	1 B	表面採集	須恵器	杯身	−	−	復 8.4	残 0.9	密	含砂粒少	硬質	灰白色	灰色	内外面回転ナデ（外底部擬地面除く）。
137	1 A	表面採集	土師器	足鍋脚部	残長 7.2	径 2.8	−	−	密	含砂粒少	やや軟質	灰白色	灰白色	脚先端方向に引き伸ばした指オサエ痕がわずかに残る。脚部付け根・先端は欠損。
138	2 A	西トレンチ遺物包含層	青磁	椀	−	−	−	残 2.6	密	−	硬質	灰オリーブ色	灰オリーブ色	内面劃花文。外面櫛描き文様。下半にヘラズリ。福建省産（同安窯系か）。12 世紀中葉～後半。
139	2 A	表面採集	土師器	台付皿	−	−	復 5.0	残 3.7	密	含砂粒多	やや軟質	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	台部ナデ調整、大部分は器面磨耗により調整不明。
140	2 A	表面採集	土師器	椀	−	−	−	残 1.8	密	含砂粒少	やや軟質	灰オリーブ色	褐色	内外面ともナデ。磨耗により不明瞭。断面三角形貼り付け高台。
141	2 A	表面採集	土師器	足鍋脚部	残長 4.2	径1.5	−	−	密	含砂粒少	やや軟質	橙色	−	指ナデ形成、指オサエ痕がわずかに残る。磨耗により不明瞭。
142	2 A	表面採集	中世須恵器	鉢	−	−	−	残 4.9	密	−	硬質	灰色	灰色	内外面とも回転ナデ。外面検痕にタテ方向のキズ多数。東播系。
143	2 A	表面採集	中世須恵器	鉢	復 27.0	−	−	残 4.0	密	含細粒少	硬質	灰色	灰色	内外面とも回転ナデのちナデ。外面に指オサエ痕あり。東播系。
144	2 A	表面採集	青磁	椀	−	−	−	残 3.2	密	−	硬質	生地：灰白色	釉：明緑灰色	内面とも施釉。外面体部施釉、口縁部内面に劃花文。12 世紀中葉～後半。
145	2 A	表面採集	青磁	椀	−	−	−	残 3.5	密	−	硬質	生地：灰白色	釉：オリーブ灰色	内外面とも施釉。外面鎬連弁文様（片切り彫り）。龍泉窯系。13 世紀前後～ 13 世紀前半。
146	2 A	表面採集	青磁	椀	−	−	−	残 2.1	密	−	硬質	生地：灰白色	釉：灰オリーブ色	内外面とも施釉、外面鎬連弁文様（片切り彫り）。龍泉窯系。13 世紀前後～ 13 世紀前半。
147	2 A	表面採集	白磁	椀	−	−	復 3.6	残 2.1	密	−	硬質	生地：灰白色	釉：灰色	内面施釉。外面体部施釉、底部削り出して露胎。福建省産か。12 世紀後半。

石器・石製品観察一覧表

※「復」は復元値、「残」は残存値

番号	地区	遺構番号	種類	器種	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	器高	色調 内面	色調 外面	調整・備考
148	2A	表面採集	石器	剝片石器	2.5	1.1	0.5	−	加工面：黒色	風化面：暗灰色	側辺および刃部に調整加工痕あり。表面全体が風化。旧石器・縄文時代の一時期の剝離を再加工したものか。西北九州（佐賀県腰岳）産黒曜石か。縄文時代。
149	2A	SP21004	石器	剝片石器	残 3.1	1.5	0.7	−	黒色	黒色	原材料石から全体を調整したのち刃部を調整加工。表面全体が風化（光沢なし）。上半部一部欠損。刃部に新しい剝れ口あり。西北九州（佐賀県腰岳）産黒曜石か。2.2g
150	1B	SP12005	石器	石器製作用石材	8.5	4.3	3.3	−	灰白色	灰白色	SB1205 構成柱穴出土。表裏両面に石器製作の剝ぎとりが認められる。節理面黒曜石。81.4g
151	2A	SP21073	石錘	鍋	−	−	−	残 27	灰白色	灰白色	SB2106 構成柱穴出土。滑石製で内外面ともノミの削り成形痕。口縁部に再加工痕あり。長崎県西彼杵半島産。
152	2A	SP21152	石錘	鍋	−	−	−	残 5.4	青灰～赤灰色	暗灰色	滑石製で外面にノミによる削り成形痕。長崎県西彼杵半島産。
153	2A	SP21012	石製品	石錘	4.2	3.0	1.1	−	灰褐色	灰褐色	21.5g。表面十字型の溝、裏面溝京も消え。溝幅 0.2cm の有溝石錘。
154	2A	SP21082	石製品	砥石	残 11.8	残 7.6	5.4	−	灰白色	−	表面・側面に使用痕あり。

鉄製品観察一覧表

番号	地区	遺構番号	種類	器種	法量(cm) 長さ	径	重さ(g)	備考
155	2A	SD2101 ③灯	鉄製品	釘	5.0	0.5 ～ 0.7	9.1	全体が錆で覆われている。
156	2A	SP21232	鉄製品	釘	3.0	0.2	1.3	SB2109 構成柱穴出土。全体が錆で覆われている。一部釘露出。

V　自然科学分析（放射性炭素年代測定）

延行条里遺跡発掘調査に伴う放射性炭素年代測定

パリノ・サーヴェイ株式会社

1　はじめに

延行条里遺跡は、綾羅木川下流域に形成された沖積平野に位置し、条里制遺構や遺物のほかに縄文時代から江戸時代に至る遺構や遺物が存在する複合遺跡である。

本報告では、遺構の年代に関する資料を得るために、調査区内から出土した炭化物等の放射性炭素年代測定を実施する。

2　試料

年代測定は、試料１～４の４点について実施する。以下、試料について述べる。

試料１は、１Ａ地区土坑 SK1101 の基底部付近でまとまって出土した土器片に混じって出土した炭化材である。不定形の破片が４～５片あり、いずれも樹皮は認められない。最も大きな破片の残存する最外部の年輪を含む２年分を測定試料とする。

試料２は、１Ｂ地区において、掘立柱建物跡（SB1204）の構成柱穴（SP12084）の廃絶後に投げ込まれたとされる石の下と柱穴底の間の下層埋土中からまとまった状態で出土した炭化材である。不定形の破片が多数あり、樹皮は認められない。一番大きな破片（３年分）を試料とする。

試料３は、２Ａ地区溝（SD2101 ④区）底部付近の埋土中から出土した炭化材である。小破片が多数あり、いずれも樹皮は認められない。実体顕微鏡で木材組織を観察し、同一種４片を集めて試料とする。

試料４は、２Ａ地区柱穴（SP21079）から出土した土師器鍋（遺物番号 104）の外面に付着した炭化物である。炭化物の状態が比較的良い部分を削り取って試料とする。

3　分析方法

土壌や根など目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後 HC 1により炭酸塩等酸可溶成分を除去、NaOH により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HC 1によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理）。

試料をバイコール管に入れ、1g の酸化銅（Ⅱ）と銀箔（硫化物を除去するため）を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃（30 分）850℃（2 時間）で加熱する。液体窒素と液体窒素＋エタノールの温度差を利用し、真空ラインにて CO_2 を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製した CO_2 と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを 650℃で 10 時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径 1mm の孔にプレスして、タンデム加速器のイオ

ン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV 小型タンデム加速器をベースとした 14C-AMS 専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）を使用する。AMS 測定時に、標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシュウ酸（HOX-Ⅱ）とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に $^{13}C/^{12}C$ の測定も行うため、この値を用いて $\delta^{13}C$ を算出する。

放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5,568 年を使用する。また、測定年代は 1950 年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma；68%）に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.00（Copyright 1986-2010 M Stuiver and PJ Reimer）を用い、誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。

暦年較正とは、大気中の 14C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い（^{14}C の半減期 5730 ± 40 年）を較正することである。暦年較正に関しては、本来 10 年単位で表すのが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1 年単位で表している。

暦年較正は、測定誤差 σ、2 σ 双方の値を計算する。σ は統計的に真の値が 68%の確率で存在する範囲、2 σ は真の値が 95%の確率で存在する範囲である。また、表中の相対比とは、σ、2 σ の範囲をそれぞれ 1 とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

4 結果

放射性炭素年代測定結果および暦年較正結果を表 1、図 1 に示す。また、試料のうち、炭化材 3 点については、実体顕微鏡による観察で可能な範囲での樹種同定を実施し、その結果を併せて示した。

同位体効果の補正を行った年代値（補正年代）は、試料 1 の炭化材が 1,730 ± 30BP、試料 2 の炭化材が 1,210 ± 30BP、試料 3 の炭化材が 840 ± 20BP、試料 4 の土器付着炭化物が 810 ± 30BP を示す。また、測定誤差を σ として計算させた暦年較正結果は、試料 1 が calAD255-344、試料 2 が calAD777-868、試料 3 が calAD1,173-1,222、試料 4 が calAD1,218-1,257 である。

なお、炭化材 3 点については、由来を確認するため、実体顕微鏡で可能な範囲で樹種同定を実施した。試料 1 は、落葉広葉樹のコナラ節に同定された。試料 2 は、針葉樹であるが、保存状態が悪いため、種類は不明である。試料 3 は、散孔材の道管配列を有する広葉樹であるが、種類は不明である。

5 考察

1 A 地区の土坑 SK1101 から出土した炭化材（試料 1）は、土坑の基底部に近い付近からまとまって出土した古墳時代初頭頃の土器片に混じって検出された。炭化材の補正年代は 1,730 ± 30BP であり、暦年較正結果は calAD255-344 であった。この結果から、炭化材は 3 世紀中葉～ 4 世紀中葉頃の年代が推定され、古墳時代初頭頃の土器と共に出土している結果とも調和的である。

1 B 地区の柱穴 SP12084 は、掘立柱建物跡 SB1204 を構成する柱穴の一つである。炭化材（試料 2）は、廃絶時に投げ込まれたと考えられる石と柱穴底の間（下層）の埋土中から出土している。炭化材の補正年代は 1,210 ± 30BP、暦年較正結果は calAD777-868 であった。この結果から、炭化材は 8 世

紀後半～９世紀中葉に相当することが推定される。測定に用いた炭化材は、針葉樹の小破片で樹皮も認められないため、測定結果が樹齢によって誤差を生じている可能性もある。この点は、遺構の検出

表1　放射性炭素年代測定結果

試料名	地区	遺構	状態	処理方法	測定年代 BP	δ13C (‰)	補正年代 (暦年較正用) BP	暦年較正結果					Code No.
								誤差	cal BC/AD	cal BP	相対比		
試料1	1A	SK1101 南東区	炭化材 (コナラ節)	AAA	1,760±30	−26.65±0.53	1,730±30 (1,730±26)	σ	cal AD 255 − cal AD 306	cal BP 1,695 − 1,644	0.625		IAAA-122053
									cal AD 312 − cal AD 344	cal BP 1,638 − 1,606	0.375		
								2σ	cal AD 244 − cal AD 385	cal BP 1,706 − 1,565	1.000		
試料2	1B	SP12084 (SB1204 構成柱穴)	炭化材 (針葉樹)	AaA	1,220±30	−25.69±0.51	1,210±30 (1,206±26)	σ	cal AD 777 − cal AD 830	cal BP 1,173 − 1,120	0.630		IAAA-122054
									cal AD 837 − cal AD 868	cal BP 1,113 − 1,082	0.370		
								2σ	cal AD 717 − cal AD 743	cal BP 1,233 − 1,207	0.061		
									cal AD 768 − cal AD 891	cal BP 1,182 − 1,059	0.939		
試料3	2A	SD2101 ④区	炭化材 (広葉樹)	AAA	860±20	−26.38±0.49	840±20 (841±23)	σ	cal AD 1,173 − cal AD 1,222	cal BP 777 − 728	1.000		IAAA-122055
								2σ	cal AD 1,162 − cal AD 1,255	cal BP 788 − 695	1.000		
試料4	2A	SP21079	土器外面付着炭化物	AaA	840±30	−27.02±0.24	810±30 (809±25)	σ	cal AD 1,218 − cal AD 1,257	cal BP 732 − 693	1.000		IAAA-122056
								2σ	cal AD 1,184 − cal AD 1,270	cal BP 766 − 680	1.000		

1)処理方法のAAAは、酸処理－アルカリ処理－酸処理を示し、アルカリ濃度がｌN未満の場合はAaAと表記している。
2)年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用した。
3)BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
4)付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の68%が入る範囲）を年代値に換算した値。
5)暦年の計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.0 (Copyright 1986-2010 M Stuiver and PJ Reimer)
6)暦年の計算には、補正年代(cal)で暦年較正用年代として示した。一桁目を丸める前の値を使用している。
7)年代値は、1桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、暦年較正用年代値は1桁目まで丸めていない。
8)統計的に真の値が入る確率はσは68%、2σは95%である
9)相対比は、σ、2σのそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

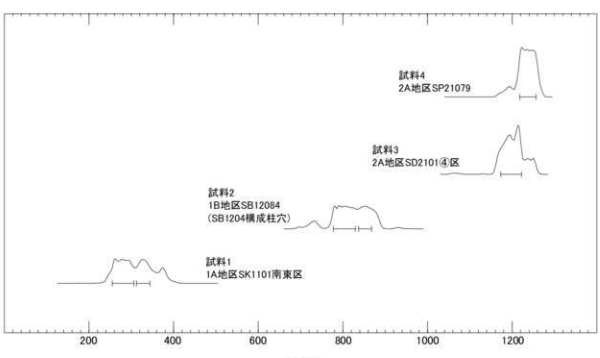


図1　暦年較正結果

状況や出土遺物との比較検討が必要である。

２Ａ地区の溝 SD2101 は、掘立柱建物跡を囲むように作られており、埋土中からは中世と考えられる土師器、輸入磁器、粘土塊が出土している。炭化材（試料３）は、土師器や輸入磁器と共に溝の底に近い埋土中から出土している。炭化材の補正年代は 840 ± 20BP、暦年較正結果は calAD1,173-1,222 であった。この結果から、炭化材は 12 世紀後葉～ 13 世紀前葉の年代が推定され、中世の土師器や輸入磁器と共に出土していることとも調和的である。

２Ａ地区の柱穴 SP21079 では、廃絶時に一括して埋められたと考えられる状態で、柱穴基底部から数点の土師器鍋破片が出土している。試料４は、土師器鍋破片の一つであり、外面には煮炊きに使用した際の痕跡と考えられる炭化物が付着している。この炭化物の補正年代は 810 ± 30BP、暦年較正結果は calAD1,218-1,257 であった。この結果から、13 世紀前葉～中葉の年代が推定され、試料３に近い時期の可能性が考えられる。本試料については、本地域の土師器鍋の編年観やその年代測定事例との比較検討を行い、年代を検証することが必要である。

Ⅵ　総括

1　調査成果の概要

延行条里遺跡（秋根上町１地区・２Ａ地区）の発掘調査の結果、中世前期（鎌倉時代～室町時代前期）を中心とする集落跡が見つかるとともに、古墳時代前期の竪穴建物跡や土坑、古代（奈良時代末期～平安時代）と見られる掘立柱建物跡なども併せて確認され、調査地域は、継続的に営まれた集落遺跡であることが明らかになった。

検出された主な遺構は、竪穴建物跡１軒、掘立柱建物跡 25 棟、溝状遺構３条、土坑 17 基、柱穴 613 個、その他遺構１基である。出土した主な遺物には、弥生土器・土師器・須恵器・製塩土器・輸入磁器（青磁・白磁）、石器・石製品（石鍋）、鉄製品（鉄釘）などがある。

溝状遺構に囲まれた掘立柱建物跡の所在やその周辺で 13 世紀代を中心とする中国産磁器が集落規模の割には比較的まとまって出土したことなどから見て、中世前期には遺跡は、ある程度の有力者層の存在をうかがわせる中世集落跡であったと推測される。

2　遺構について

（1）遺構の残存状況と地形的特徴（第５表）

発掘調査地区で一定数の遺構が確認されたが、その残存状況において、分布密度・遺構深度等の点で、後世の耕作田整備などの人的土地利用活動による遺構面・遺物包含層の削平の影響が認められた。

一例として、柱穴の発掘調査地区別平均深度を統計処理したものを示す（第５表）。まず、西側の１地区（発掘対象面積約 1000㎡）では、１Ａ地区 9.0cm（45 個）、１Ｂ地区 11.1cm（172 個）、１Ｃ地区 11.3cm（96 個）、１Ｄ地区 9.0cm（４個）となり、東側の２Ａ地区（発掘対象面積約 430㎡）では 22.8cmとなる。１地区では 9.0 ～ 11.3cmで、２Ａ地区の 22.8cmの柱穴平均深度の２分の１以下であり、後世の削平が著しいことがわかる。面積的に２倍以上ある１Ａ地区の柱穴数は合計 317 個、２Ａ地区は 296 個である。後世の削平以前の本来の遺構分布密度に差があった可能性はひとまず除外して比較した場合、面積割合からいえば、１Ａ地区では２Ａ地区の柱穴数の２分の１以下の分布割合となることから、平均深度から見て、後世の削平により、本来の柱穴遺構がかなり消滅してしまっている状況が推測される。これを反映するように、出土遺物も１Ａ地区では２Ａ地区に比べて２分の１より相当少ない。また、２Ａ地区についても、掘立柱建物構成柱穴などとして使用されていた当時の柱穴の深さに比べて、残存平均深度 22.8cmでは、浅過ぎるため１地区ほどではないにしても、一定程度遺構面

第５表　柱穴の地区別平均深度一覧表

地　区		１Ａ地区	１Ｂ地区	１Ｃ地区	１Ｄ地区	２Ａ地区
平均深度（cm）	北側※	10.1（32 個）	10.9 （63 個）	8.6（25 個）	9.0（４個）	23.5（182 個）
	南側※	6.2（13 個）	11.2（109 個）	12.3（71 個）	－　－	21.7（114 個）
	全　体	9.0（45 個）	11.1（172 個）	11.3（96 個）	9.0（４個）	22.8（296 個）

※１Ａ～１Ｄ地区は　X＝－220240 m以北・以南で区分　（１Ａ～１Ｄ地区　約 1000㎡
２Ａ地区は　X＝－220235 m以北・以南で区分　２Ａ地区　約 430㎡）

が削平された状況が見て取れる。

一方、同じ地区内で、北側と南側でほぼ中央を横断する国土座標（X＝－220240 m）で南北に区分して柱穴平均深度を比較すると、１Ｂ地区北側 10.9cm、南側 11.2cm、１Ｃ地区北側 8.6cm、南側 12.3 cmとなり、北側の方が南側より遺構上面の削平度が大きいことがわかる。調査地区は北側丘陵部から南に延びる緩やかな微高地に立地していることから、後世の耕地化等のために削平して平坦面を造成する際に、やや高い北側の遺構面が南側の遺構面よりも深く削平された結果によるものと推測される。また、柱穴数は、１Ｂ地区で北側 63 個、南側 109 個、１Ｃ地区で北側 25 個、南側 71 個が確認された。いずれも同様の理由で北側は削平の度合が南側より大きいことを示していると考えられる。なお、２Ａ地区では、調査区が三角形で丘陵が西側に緩やかに落ち込むなど、１Ｂ・１Ｃ地区とやや異なる条件であるため、北側と南側での地形的特徴が遺構の残存状況に直接的に反映されているわけではない。

（２）古墳時代前期の竪穴建物跡・土坑

竪穴建物跡 SI2101 は、北側の大半が調査区外で不明な点もあるが、甕・高杯および祭祀用と見られるミニチュア土器などが一括廃棄された土坑 SK1101 とともに、調査地周辺における古墳時代前期の集落の存在を証拠づける貴重な遺構資料となった。SK1101 の土器とともに検出された炭化材（試料）が、放射性炭素年代測定では、cal ＡＤ 255-344 の３世紀中葉～４世紀中葉頃の年代に同定されており、出土した土師器の年代観に基づく土坑の時期を傍証する結果が得られている。なお、１Ａ地区の廃棄土坑 SK1101 の北東に位置する不明遺構 SX1101 は、被熱した円形の焼土痕であり、後世削平された竪穴建物跡床面に所在した炉跡である可能性も考えられ、この時期の関連遺構かもしれない。

（３）掘立柱建物跡

①棟方向と建物の分布（第３２図）

掘立柱建物跡は、25 棟が復元できた。桁行の棟方向については、１地区・２地区での分布状況を第３２図に示した。その結果、①北西方向タイプ（Ｎ 45° Ｗ～Ｗ）、②北方向タイプ（Ｎ 45° Ｗ～Ｎ 45° Ｅ）、③北東方向タイプ（Ｎ 45° Ｅ～Ｅ）の３つのグループに分かれる規則性が読み取れる。第１タイプは、SB1101・1305・2107・2108 など、第２タイプは 1201・1202・1302・2101・2102・2103・2109・2110 など、第３タイプ SB1203・1204・1209・1304・2106 などが挙げられる。

このうち、出土遺物などから見て、SB1204・1206・1209（③北東方向タイプ）は古代前期（奈良

第３２図　掘立柱建物跡の棟方向分布図

時代末期～平安時代前期)、SB1201（②北方向タイプ）は古代後期（平安時代後期）と見られ、１地区は古代を中心とした集落跡である可能性が高い。なお、1地区のSB1101･1305（①北西方向タイプ）は時期を比定する遺物が乏しいが、以下に述べる柱穴規模や柱間などから見て、他と異なる中世などの時期の建物跡であることも考えられる。

２地区は、SB2106（③タイプ）を除き、①北西方向タイプと②北方向タイプの２グループに集中する。構成柱穴からの出土遺物は、中世の土師器皿・杯・椀・鍋、中世須恵器、輸入磁器（青磁・白磁）などで、古代末期を一部含み中世前期（鎌倉時代～室町時代前期）を中心とした時期のものであることから、掘立柱建物跡はこの時期に相当すると考えられる。

②建物跡の規模（第１表）

建物跡全体の規模については、復元できるもので、３間×２間（３棟）、２間×２間（５棟）、２間×１間（７棟）、１間×１間（４棟）となり、床面積は６～15㎡程度の小型なものが主体をなす。ただし、３間×２間のSB1204・1209・2106と２間×２間のSB2103の４棟は床面積が20～30㎡超の規模となる。特に、SB1209は南側桁行方向に廂が付き、全体で6.0ｍ×5.8ｍの総面積34.8㎡で、この遺跡内においては大型掘立建物跡となる。構成柱穴の規模についても平均径37.0㎝で（26ページ第１表参照）、他の建物跡の20～30㎝程度に比べて大きい。西側に隣接するSB1204もSB1209と棟方向や規模が類似することから、同時期併存か近い時期の建物跡と推定される。SB1204の構成柱穴において、小片であるため正確性を欠くもののSP12083出土遺物（杯11）やSP12084出土炭化材（試料２）の放射性炭素年代測定（８世紀後半～９世紀中葉に同定）の結果などから、古代前期の建物跡である可能性が考えられる。これら２棟は、集落内での一定の有力者に関わる建物跡と推測される。

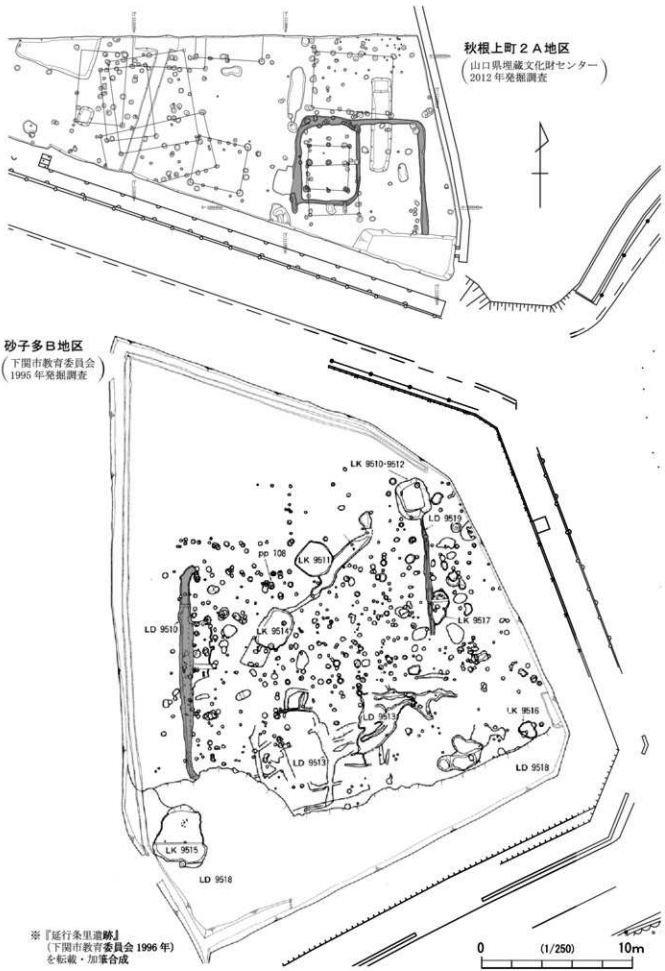
③中世の掘立柱建物跡と溝状遺構（第３３図）

２Ａ地区南東で溝状遺構（SD2101・12102）に囲まれた掘立柱建物跡（SB2110）が確認された。屋敷地を区画するもので、南側は調査区外に広がり、母屋（主家屋）はこの調査区外に所在し、総柱建物跡であるSB2110は倉庫等の付属建物と考えられる。なお、この溝状遺構および周辺の土坑・柱穴からは13世紀代を中心とする土師器皿・杯・鍋などとともに中国産輸入青磁・白磁・青白磁が集中して出土している（第１８図、図版１０）。また、SD2101内の北側・東側からは、炭化物や建物の土壁とも見られる粘土塊が出土し、掘立柱建物跡構成柱穴の重複痕跡とも合わせて考えると、火災による消失や建て替えの可能性が推定される。なお、SD2101④区で採取した炭化材（試料３）の放射性炭素年代測定では、cal ＡＤ 1,173-1,222となり、12世紀後半～13世紀前半の年代に同定されており、出土した土師器・中国産青磁・白磁の年代観とほぼ符合する結果が得られている。

今回の調査地である２Ａ地区の南側隣接地で、下関市教育委員会（注1）が1995年に発掘調査（砂子多Ａ地区）を実施している（第３３図）。この際に、２Ａ地区と同様の13～14世紀頃の屋敷溝と見られる遺構（LD9510、LD9519）とそれに付随する掘立柱の柱穴や土坑、土師器皿･杯などが出土しており、今回の調査成果と合わせて、一連の中世集落跡が周辺に広がっていることが明らかになった。

④柱穴での出土状況（第１表、第１０～１６・２１・２２図）

各柱穴において、柱痕跡が確認されるものが一定割合で検出され、掘立柱建物跡の構成柱穴では約７割を占めた（第１表、第１０～１４図）。



第３３図　周辺調査地区含む遺構配置図（２Ａ地区周辺）

遺物等の出土状況については、SP2102（SB21021）・SP21013・21079において、土師器皿・杯・鍋・砥石などのほぼ完形品や破片が意図的に埋納された状態で出土し、建物の廃絶に伴う儀礼が行われた可能性が考えられる。また、１Ｂ・１Ｃ・２Ａ地区のSP12084（SB1204）・SP13022・21039などにおいて、柱穴の基底部に石が投棄されたり、据え置かれた状態のものも一定割合で検出され、廃絶時の状況をうかがうことができる（以上、第１５・１６・２１・２２図、図版９・１２）。

⑤まとめ

以上のような古代から中世にかけての掘立柱建物跡群の分布と変遷状況については、調査地区の西側に隣接する秋根遺跡との関連性が考えられる。綾羅木川周辺に広がる条里制に伴う水田開発とそれに伴って形成された秋根遺跡の集落（注2）では、平安時代中頃から、四面廂の掘立柱建物跡や倉庫群によって構成される大規模な集落へと発展拡大する状況が見られるようになり、遺跡は地方官衙であったとも推定されている。こうしたことから、調査地区においても、８～９世紀頃の古代前期（奈良時代末期～平安時代前期）の建物跡である可能性が指摘できるものを手始めに、拠点集落となった秋根遺跡の東側周辺に立地するという地理環境を反映するように、11～12世紀頃の古代後期（平安時代後期）の遺物や建物跡の形跡が確認され、本格的には13世紀代頃の中世前期（鎌倉時代～室町時代前期）を中心に集落の形成・展開がもたらされたものと考えられる。

３　遺物について

（１）出土遺物の概要

遺物は、古墳時代前期、古代（奈良時代末期～平安時代）、中世前期（鎌倉時代～室町時代前期）の各時期の遺構に伴うものを中心とし、縄文時代～弥生時代の遺物も遺構への流れ込み埋土や遺物包含層、表面採集で出土している。出土遺物数は一般的な集落遺跡での平均的な出土数に相当する。

主な遺物の種類としては、弥生土器（甕・壺）、土師器（甕・高杯・鉢・ミニチュア土器、皿・椀・杯・鍋）、須恵器（杯・甕・壺）、六連式製塩土器（つつき）、瓦器系土師器（椀）、中世須恵器（東播磨系鉢）、陶器（瓶）、中国産輸入磁器（青磁・白磁・青白磁）、石器（剝片石器ほか）・石製品（滑石製石鍋・石錘・砥石）、鉄製品（鉄釘）などがある。

（２）遺物の時期別分類（第３４図）

遺構に伴う土器・陶磁器類を中心に、その他出土状況のものも含めて、今回の発掘調査で出土した遺物を時期・種類ごとに分類・編年したものが、第３４図である。以下、その概要を述べる。

①縄文～弥生時代

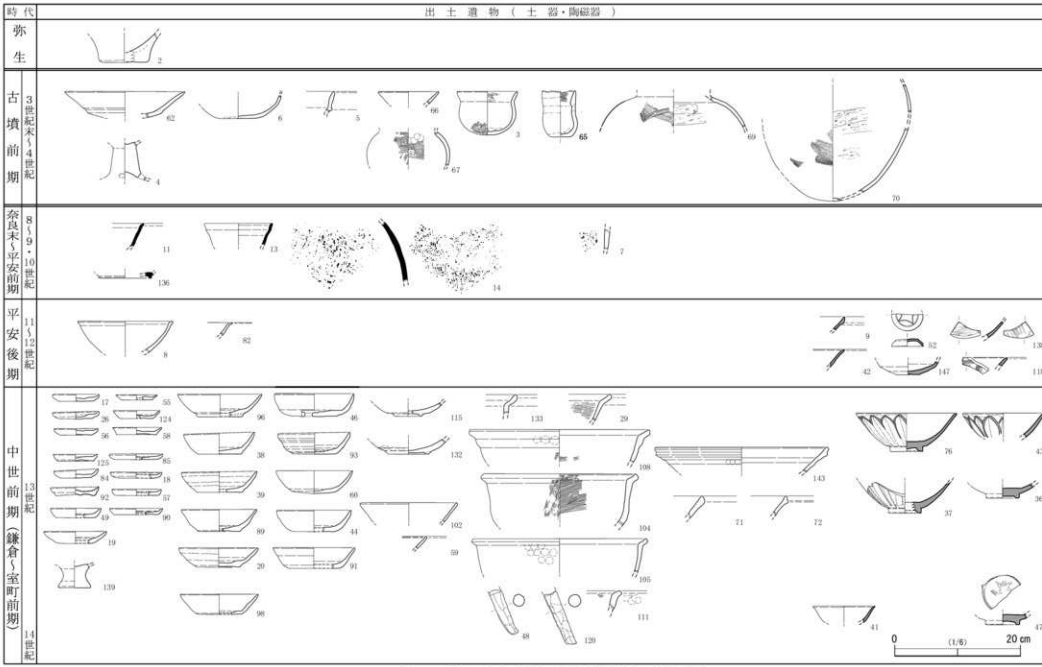
剝片石器（148・149）・石器製作用石材（150）のほか、明確な遺構は確認されなかったが、弥生時代中期頃には北側の低丘陵に集落が所在した可能性を示唆する弥生土器片（２）が少量出土した。

②古墳時代前期

竪穴建物跡・廃棄土坑から出土した土師器甕（69・70）・高杯（62）・杯（６）のほか、祭祀的使用が考えられる小型丸底鉢（３）・ミニチュア土器（65）や山陰系甕（５）などがある。

③古代（奈良時代末期～平安時代　８世紀末～１２世紀）

須恵器杯（11・136）・甕（14）、土師器椀（８・82）、六連式製塩土器（７）、中国産白磁椀（９・



第３４図　出土土器・陶磁器分類・編年図

42・147、11 世紀後半～ 12 世紀中後半）・青白磁合子（52　12 世紀代）・青磁椀（138・118　12 世紀中頃～後半）などがある。

④中世前期（鎌倉時代～室町時代前期　12 世紀末～ 13・14 世紀）

土師器皿（17 ほか）・杯（96 ほか）・椀（115 ほか）・鍋（113 ほか）・足鍋（48 ほか）、瓦器系土師器椀（102 ほか）、中世須恵器鉢（143 ほか 東播系）、中国産白磁椀（9・42・41）・青磁椀（76 ほか　13 世紀前後～ 13 世紀前半）・（47　13 世紀後半～ 14 世紀前後）、滑石製石鍋（151・152）などがある。

土師器皿・杯・椀については、口径・底径・器高の法量や器形の点で、多少の型式差や時期差はあるものの、大まかにはこの地域の土師器編年における 13 世紀代を中心とする時期の変化幅に収まり、大きな型式差は認められず斉一性が高い。調整技法でも切り離しでのヘラ切りは確認されず、底部回転糸切りが主体で、内外面はロクロ回転ナデが施されている。椀は、断面三角形の貼り付け高台が痕跡的に残るものが少量出土したのみで、大部分は高台が付かない杯が主体を占める。また、瓦質土器・備前焼が未だ見られず、中世前期の様相を示す土師器類である。

中国産輸入磁器（白磁・青磁[注5]）は、古代後期の平安時代後期（①11 世紀後半～ 12 世紀半ば、②12 世紀後半～ 13 世紀前後）と中世前期の鎌倉時代～室町時代前期（③13 世紀前後～ 13 世紀前半、④13 世紀後半～ 14 世紀前後）のものが出土しており、13 世紀代の遺物が中心を占める。土師器の年代観とも整合性が取れる出土内容である。

（3）土師器鍋

鍋については、尾袋遺跡[注4]（下関市）などで出土し、13 世紀頃から流通すると推定されている西長門型と称[注3]される土師器系統の鍋（24・104・105 など）のみが出土しており、周防・長門地域で中世後期（室町時代後期）の 14 世紀中後半から 15 ～ 16 世紀代にかけて広く分布が認められる防長型と呼ばれる瓦質土器の鍋・足鍋は出土していない。また、瓦質土器の甕・擂鉢も出土しておらず、この地域において本格的に瓦質土器が流通する中世後期の様相は見られず、それ以前の中世前期・13 世紀代の土師器鍋の様相を示しているといえよう。この点については、土師器鍋（104）に付着した炭化物（試料４）の放射性炭素年代測定で 13 世紀前葉～中葉とされた同定結果や、土師器の足鍋脚部（48）が 13 世紀後半～ 14 世紀前後とされる龍泉窯系の青磁椀（47）と SD2101 基底部で共伴して出土した点などが傍証となる。なお、14 世紀代とされる長門国府跡忌宮地区Ｂ地点 LW001（下関市）出土資料[注6]の中に土師器足鍋も含まれており、14 世紀代には土師器足鍋がこの地域で流通していたことが知られる。

（4）溝状遺構出土の一括遺物

SD2101・2102 出土の土師器（皿・杯等）と中国産磁器（青磁・白磁・青白磁）は、共伴関係が認められ、この地域の土師器編年や建物の時期決定の重要な資料と考えられる（第 25 図）。周辺の柱穴・土坑出土遺物とも共通性が認められ、これら周辺の掘立柱建物群を主体とする遺構は、13 世紀代を中心としてその前後の時期に営まれた集落跡を構成すると判断される。

（5）地域間の交易品

縄文時代～弥生時代では、佐賀県腰岳産（148・149）および大分県姫島産（150）と見られる黒曜石製の石器類、古墳時代では山陰系の土師器甕（5・68）、古代～中世では、六連式製塩土器（7）、東播系中世須恵器鉢（71・72・107・142・143）、畿内や北部九州に由来する瓦器を模倣したと見られ

る瓦器系(注7)の土師器（28・59・102・127）、長崎県西彼杵半島産と推定される滑石製石鍋(注8)（151・152）、中国産輸入磁器（青磁 37・43・76 など、白磁 9・41・83 など）などの各時期にわたる広域流通品である遺物の出土が認められ、海上交通の要衝である関門海峡や秋根遺跡・長門国府などの地域拠点の近隣に所在するこの遺跡の地理的特性が反映されたものと見なされる。

4 まとめ

発掘調査により、遺跡名の由来となっている古代の条里制に直接関連する遺構は検出されなかったものの、古くは縄文・弥生時代にさかのぼって、既にこの地域での人々の生活が行われていた形跡を示す遺物が見つかるとともに、古墳時代前期以来、古代（奈良時代末期～平安時代）から中世前期（鎌倉時代～室町時代前期）にかけて、継続的に集落が営まれていたことが明らかになった。

特に、中世前期の 13 世紀代を中心にその前後を含む時期には、掘立柱建物跡群とそれを取り囲む溝状遺構の所在、当時の高級品である中国産輸入磁器（青磁・白磁）等の出土状況、古代官衙と関連が深いとされる秋根遺跡の東側周辺に所在するという立地条件等を勘案すると、この遺跡が、地域的特性・歴史性を反映したある程度の小規模地域有力者層を含む在地住民の集落跡であったと考えられる。

この地域におけるこれまでの発掘調査や地方史研究の成果を踏まえつつ、今回の発掘調査がこの地域の先人たちの歴史の歩みを伝える記録として活用されるとともに、今後の発掘調査や埋蔵文化財の教育普及活動等の参考に供されることを期待したい。

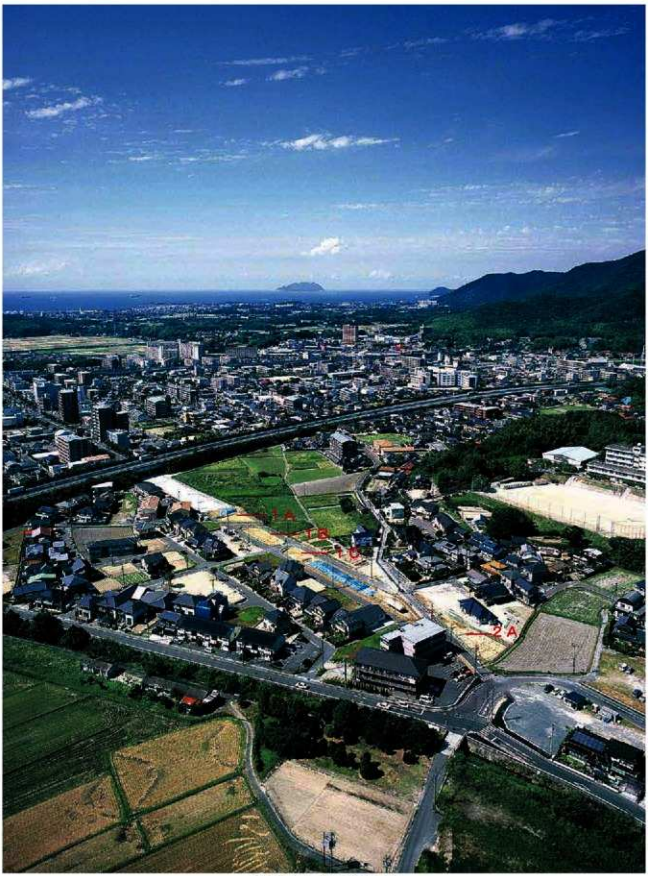
（注記）

注1　下関市教育委員会『延行条里遺跡　山口県下関市大字秋根字砂子多・原田地内　延行条里遺跡（砂子多地区）発掘調査報告書』 1996 年
注2　下関市教育委員会『秋根遺跡』 1977 年
注3　中国産輸入磁器の産地・時期の鑑定については、山口県立萩美術館・浦上記念館館長　上田秀夫氏、同学芸員徳留大輔氏よりご教示いただいた。
注4　財団法人山口県ひとづくり財団　山口県埋蔵文化財センター『尾袋遺跡（田尻地区）』 2006 年
注5　岩崎仁志「山陽西部における中世の土製煮炊具 ―周防・長門を中心に―」（日本中世土器研究会『中近世土器の基礎研究 21』 2007 年）
注6　資料については、下関市教育委員会より情報提供を受けた。
注7　瓦器系統の土器の鑑定については、同志社大学文学部嘱託講師（考古学）　橋本久和氏よりご教示いただいた。
注8　木戸雅寿『石鍋』（中世土器研究会『概説中世の土器・陶磁器』真陽社　1995 年）

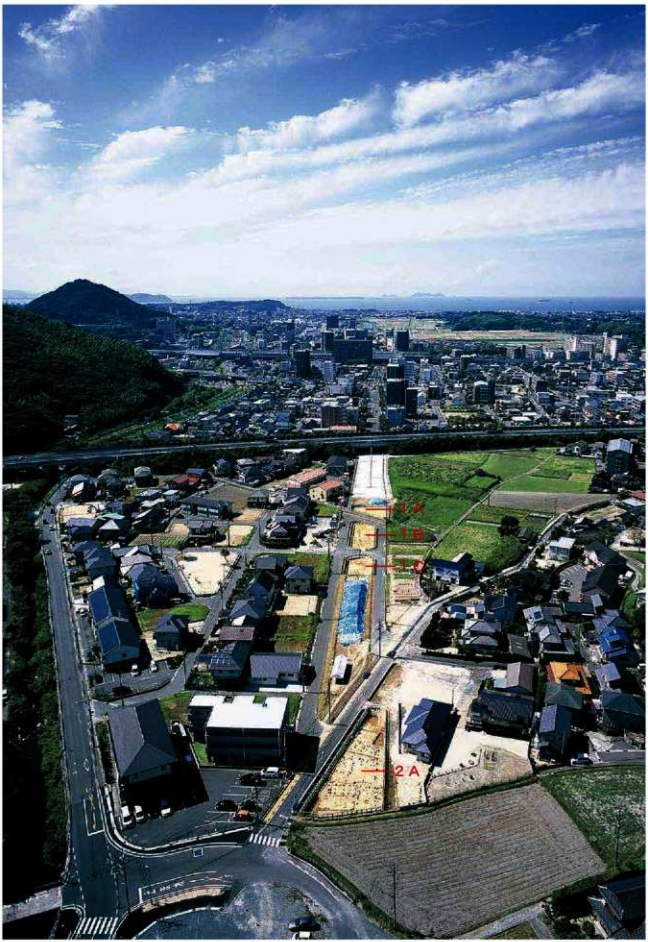
【参考文献】

1　下関市市史編修委員会『下関市史　原始～中世』下関市　2008 年
2　下関市教育委員会『延行条里遺跡　山口県下関市大字秋根字砂子多・原田地内　延行条里遺跡（砂子多地区）発掘調査報告書』 1996 年ほか、『延行条里遺跡』2002、2010、2011 年
3　下関市教育委員会『秋根遺跡』 1977 年
4　下関市教育委員会『綾羅木川下流域の地域開発史』 1990 年
5　吉瀬勝康『集成図　土師器、黒色土器・瓦器』、渡辺一雄『集成図　製塩土器』（山口県『山口県史　資料編　考古 2』 2004 年）
6　中世土器研究会『概説中世の土器・陶磁器』真陽社　1995 年
7　森隆「中世土器の生産にみる地域型の提唱と工人集団の承諾について －西日本の土器椀生産を中心として－」（日本中世土器研究会『中近世土器の基礎研究　Ⅷ』 1992 年）
8　岩崎仁志「山陽西部における中世の土製煮炊具 ―周防・長門を中心に―」（日本中世土器研究会『中近世土器の基礎研究　21』 2007 年）
9　兵庫県教育委員会『魚住古窯跡群』 1983 年
10　上田秀夫「14 ～ 16 世紀の青磁椀の分類」（日本貿易陶磁研究会『貿易陶磁研究　2』 1982 年）
11　太宰府市教育委員会『大宰府条坊跡ⅩⅤ －陶磁器分類編－』 2000 年
12　森達也・徳留大輔・長久智子・横山志野『日本人の愛した中国陶磁　龍泉窯青磁展』図録　2012 年

図　版



遺跡全景（南東から）

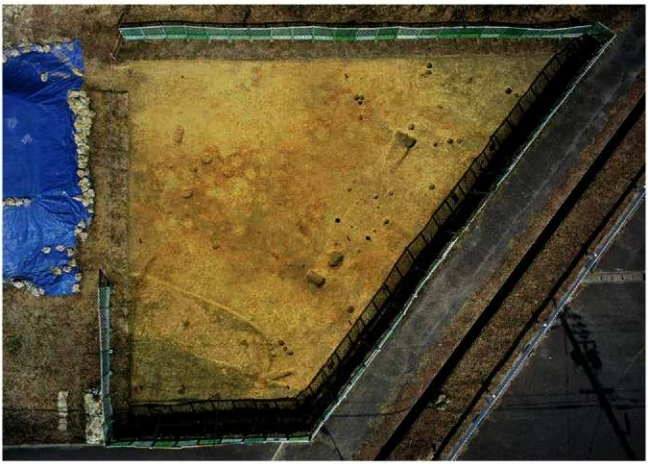


調査区遠景（東から）

図版２

１　１地区全景（１Ａ・１Ｂ・１Ｃ・１Ｄ地区）（合成写真　一部修正あり）

２　１地区全景（１Ａ・１Ｂ・１Ｃ地区）



１　１Ａ地区全景

２　１Ｂ地区全景

図版４

１　１Ｃ地区全景

２　１Ｄ地区全景

１　２Ａ地区全景

２　２Ａ地区南東部（溝状遺構 SD2101・SD2102 周辺）

図版６

１　１Ａ地区遺構検出状況（西から）

２　１Ａ地区西側土層断面状況（東から）

３　１Ｂ地区完掘状況（東から）

４　１Ｃ地区完掘状況（東から）

５　１Ｄ地区完掘状況（北西から）

６　１Ｄ地区北側土層断面状況（南から）

７　２Ａ地区完掘状況（東から）

８　２Ａ地区西トレンチ平面・土層断面状況（南から）

1　２Ａ地区竪穴建物跡（SI2101）完掘状況（北から）

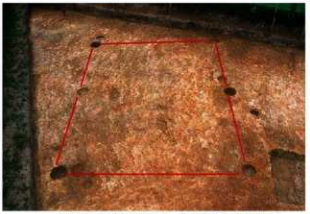
2　２Ａ地区 SI2101 完掘状況（南から）

3　２Ａ地区 SI2101 遺物出土状況（東から）

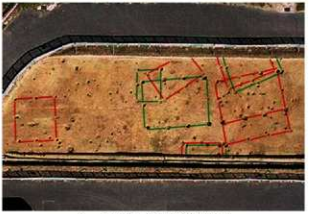
4　２Ａ地区 SI2101 遺物出土状況（西から）

5　２Ａ地区 SI2101 遺物出土状況（南東から）

図版８

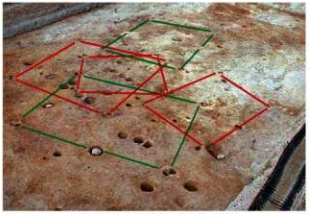


1　１Ａ地区掘立柱建物跡（SB1101）（西から）

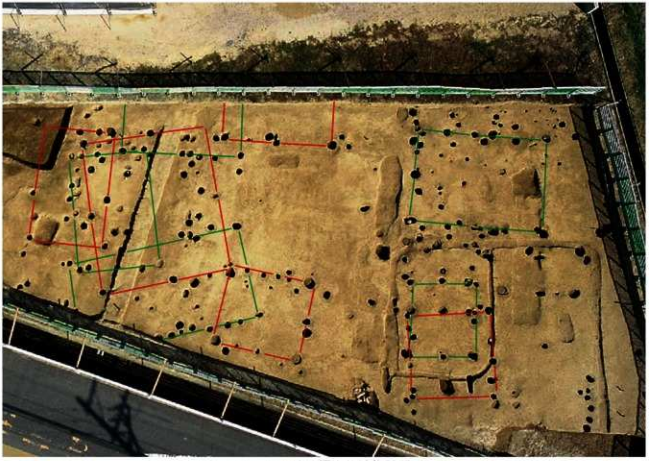


2　１Ｂ地区掘立柱建物跡群

3　１Ｂ地区掘立柱建物跡（SB1204・SB1209）（東から）



4　１Ｃ地区掘立柱建物跡群



5　２Ａ地区掘立柱建物跡群

1　１Ｂ地区掘立柱建物SB1201(SP12003)遺物出土状況(東から)

2　１Ｂ地区 SB1206(SP12098) 遺物出土状況 (南から)

3　１Ｂ地区 SB1204(SP12084) 土層断面状況 (南から)

4　１Ｂ地区 SB1204(SP12084) 石出土状況 (南から)

5　１Ｃ地区 SB1302(SP13019) 石出土状況 (南から)

6　２Ａ地区SB2102(SP21021)遺物・石出土状況(北から)

7　２Ａ地区 SB2103(SP21058) 遺物出土状況 (北から)

8　２Ａ地区 SB2104(SP21031) 遺物出土状況 (北から)

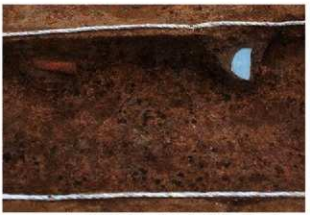
図版１０

1　２Ａ地区溝状遺構（SD2101・SD2102）（北から）

2　２Ａ地区 SD2101 ③区土器Ｈ出土状況（北から）

3　２Ａ地区 SD2101 ④区土器Ｉ出土状況（南から）

4　２Ａ地区 SD2101 ⑤区土器Ｊ出土状況（南から）



5　２Ａ地区 SD2101 ⑤区土器Ｋ出土状況（北から）

6　２Ａ地区 SD2101 ⑥区土器Ｌ出土状況（東から）

7　２Ａ地区 SD2101 ⑦区土器Ｍ出土状況（東から）

8　２Ａ地区 SD2102（４）区土器Ｎ出土状況（南から）

1　１Ａ地区土坑（SK1101）遺物出土状況（北西から）

2　１Ａ地区 SK1101 遺物出土状況（南西から）

3　１Ａ地区 SK1101 遺物出土状況（北西から）

4　１Ａ地区 SK1101 土層断面状況（北から）

5　２Ａ地区土坑（SK2105）石出土状況（西から）

図版１２

1　１Ｃ地区柱穴 SP13022 石出土状況（南から）

2　１Ｃ地区 SP13031 石出土状況（南から）

3　２Ａ地区 SP21013 遺物出土状況（北から）

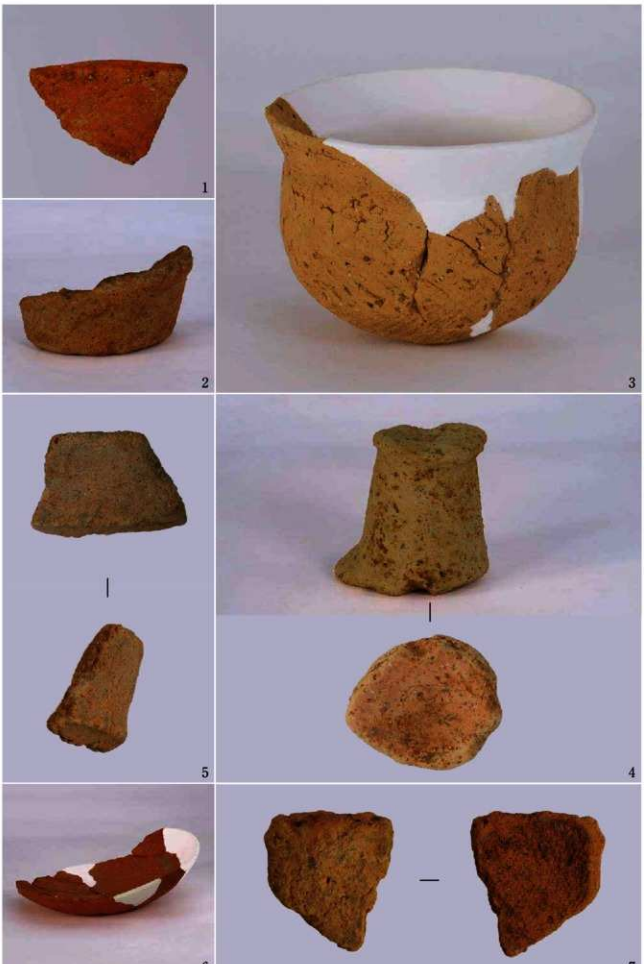
4　２Ａ地区 SP21037 遺物・石出土状況（北から）

5　２Ａ地区 SP21039 石出土状況（南から）

6　２Ａ地区 SP21079 遺物・石出土状況（北から）

7　２Ａ地区 SP21082 遺物出土状況（南から）

8　２Ａ地区 SP21237 遺物出土状況（南から）



出土遺物①（竪穴建物跡出土）

図版１４

出土遺物②（掘立柱建物跡出土）

出土遺物③（掘立柱建物跡・溝状遺構出土）

図版１６

出土遺物④（溝状遺構出土）

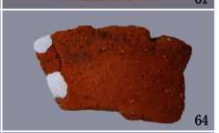
60

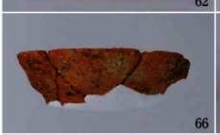
59

61

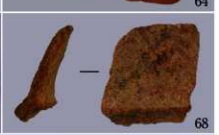
62

63

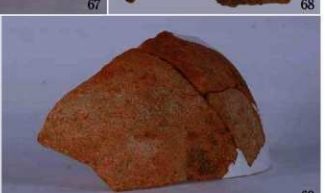

64


66

67


68

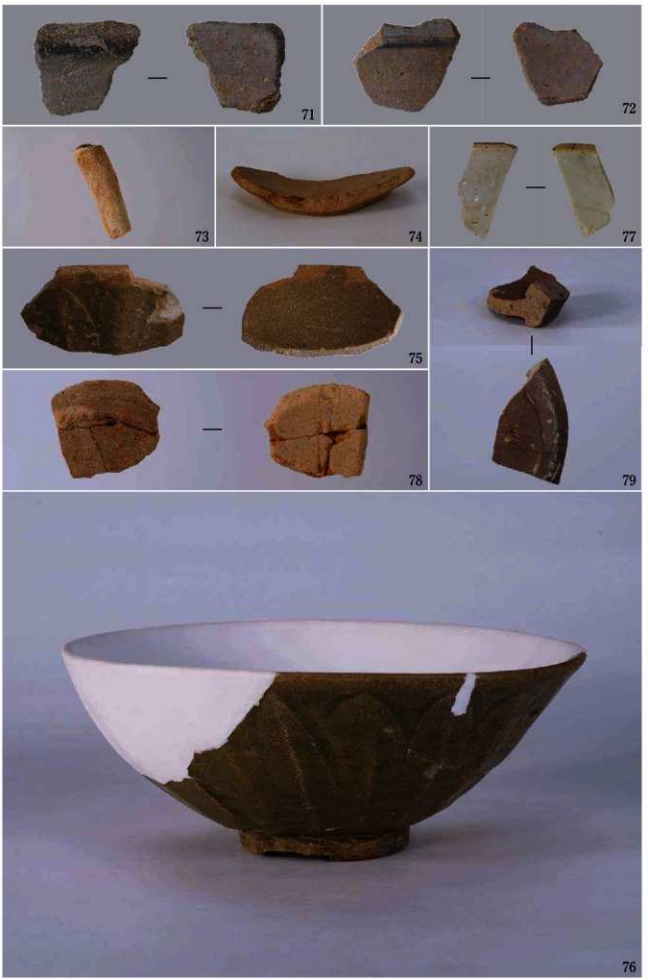
65


69

70

出土遺物⑤（溝状遺構・土坑出土）

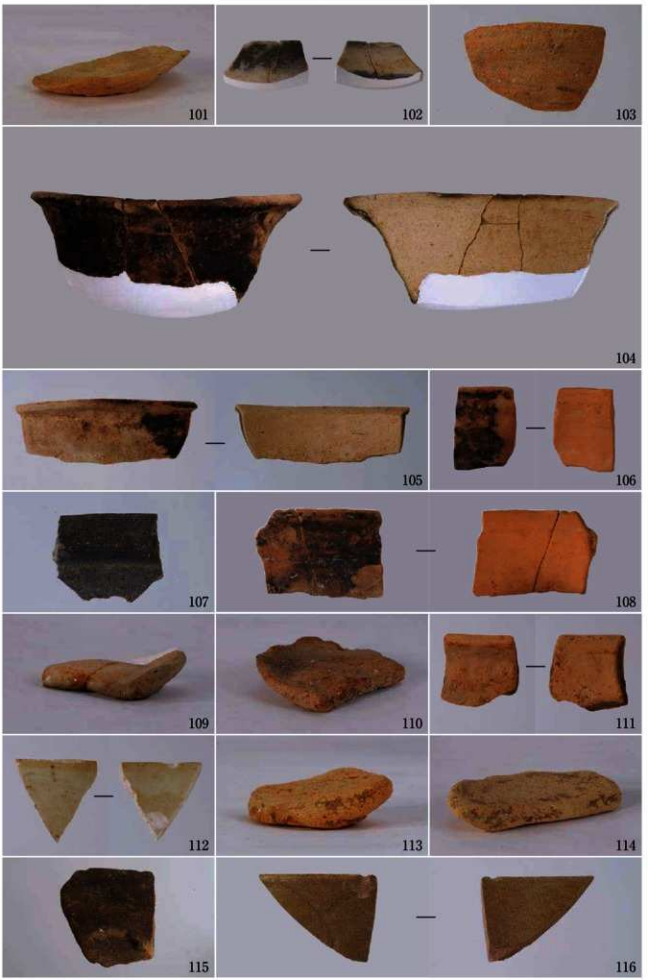
図版１８



出土遺物⑥（土坑出土）

出土遺物⑦（柱穴出土）

図版２０

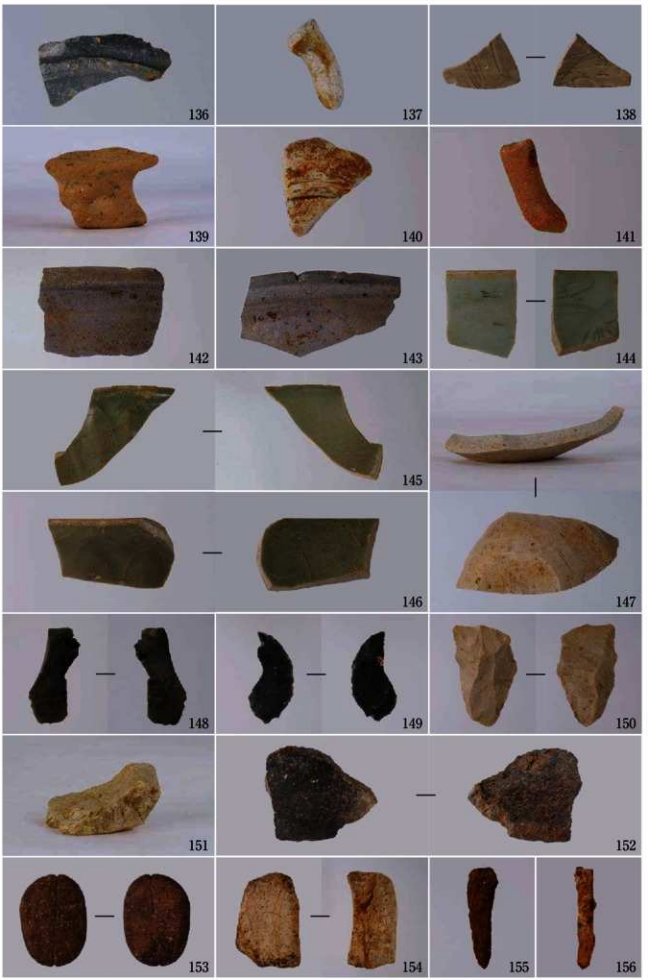


出土遺物⑧（柱穴出土）

117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135

出土遺物⑨（柱穴出土）

図版２２



出土遺物⑩（遺物包含層出土・表面採集、石器・石製品、鉄製品）

報 告 書 抄 録

ふりがな	のぶゆきじょうりいせき（あきねかみまちいちちく・にえいちく）
書名	延行条里遺跡（秋根上町１地区・２A地区）
副書名	
巻次	
シリーズ名	山口県埋蔵文化財センター調査報告
シリーズ番号	第83集
編集著者名	上山　佳彦　　米澤　昭信　　岩崎　麻衣子
編集機関	山口県埋蔵文化財センター
所在地	〒753-0073 山口県山口市春日町３番22号 TEL083-923-1060
発行年月日	西暦2013年３月22日（平成25年３月22日）

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
のぶゆきじょうりいせき 延行条里遺跡（あきねかみまち 秋根上町１地区・２A地区）	やまぐちけん 山口県 しものせきし 下関市 あきねかみまち 秋根上町	35201		（1地区） 34° 00′ 31″ （2A地区） 34° 00′ 31″	（1地区） 130° 57′ 28″ （2A地区） 130° 57′ 35″	20120507 ～ 20121203	1,438	県道整備

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
延行条里遺跡（秋根上町１地区・２A地区）	集落跡	古墳 古代 中世	竪穴建物跡　1軒 掘立建物跡　25棟 溝状遺構　3条 土坑　17基 柱穴　613個 その他遺構　1基	弥生土器 土師器 須恵器 製塩土器 輸入磁器（青磁・白磁） 石器・石製品 鉄釘	13世紀代の溝状遺構に囲まれた掘立柱建物跡を伴う屋敷跡が確認され、周辺から一般集落では希少な中国産輸入磁器が比較的多く出土した。

要約

延行条里遺跡は、下関市街地を流れる綾羅木川周辺域の広範囲に及ぶ古代条里制に関連する遺跡であり、発掘調査地区はその東端の秋根上町地区の低丘陵に位置する。調査地区（秋根上町１地区・２A地区）では、遺跡名の由来となっている古代の条里制に直接関連する遺構は検出されなかったが、縄文・弥生時代以来、この地域での人々の生活が行われていた形跡を示す遺物が見つかるとともに、古墳時代前期の竪穴建物跡・土坑、古代（奈良時代末期～平安時代）から中世前期（鎌倉時代～室町時代前期）にかけての掘立柱建物跡群が確認され、この地域において継続的に集落が営まれていたことが明らかになった。

特に、中世前期の13世紀代を中心にその前後を含む時期には、掘立柱建物跡群とそれを取り囲む溝状遺構の所在、当時の高級品である中国産輸入磁器（青磁・白磁）等の出土状況、古代官衙と関連が深いとされる秋根遺跡の東側周辺に所在するという立地条件等を勘案すると、発掘調査地域は、地域的特性・歴史性を反映したある程度の小規模地域有力者層を含む在地住民の集落跡であったと考えられる。

山口県埋蔵文化財センター調査報告　第83集

延行条里遺跡

（秋根上町１地区・２A地区）

2013年3月22日

編集・発行　公益財団法人　山口県ひとづくり財団
山口県埋蔵文化財センター
〒753-0073　山口県山口市春日町３番22号

印　　刷　児玉印刷株式会社
〒755-0008　山口県宇部市明神町３丁目４番３号